

科目名	社会科教育法（地理歴史科教育序論）		
担当教員名	澤田 康德		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部（J）-教職課程		
学 年		ク ラ ス	
開 講 期		必修・選択の別	
授 業 形 態		単 位 数	
資 格 関 係	中学校教諭一種免許状（社会）		

ねらい（ 科目の性格 科目の概要 学修目標）

科目の性格

教職科目であり，授業への積極的な姿勢が必要となる。

科目の概要

地理・歴史科について概要を把握し，授業作りを実際に行う。

学修目標（＝到達目標）

教科の内容を理解し，現代の生徒の状況などを併せた授業構築力を身につける。

内容	
1	教師像
2	地理・歴史科の特徴
3	地域認識
4	歴史認識
5	学習指導要領について
6	教科書の分析
7	教材研究 1
8	教材研究 2
9	授業案作成 1
10	授業案作成 2
11	授業案作成 3
12	発表
13	発表
14	発表
15	まとめ

評価

発表(50%)，レポート(50%)で総合評価し、総合評価60点以上を合格とする。

授業外学習

【事前予習】課題について，資料等収集する。

【事後学修】同上

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【教科書】授業で適宜紹介する。

【推薦書】

【参考図書】

科目名	教育実習		
担当教員名	齋藤 千景		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部 ( J ) - 教職課程		
学 年		ク ラ ス	0Cクラス
開 講 期		必修・選択の別	
授 業 形 態		単 位 数	
資 格 関 係	高等学校教諭一種免許状 ( 情報 ) / 中学校教諭一種免許状 ( 社会 ) / 高等学校教諭一種免許状 ( 公民 ) / 高等学校教諭一種免許状 ( 英語 ) / 中学校教諭一種免許状 ( 英語 ) / 高等学校教諭一種免許状 ( 福祉 ) / 高等学校教諭一種免許状 ( 家庭 ) / 中学校教諭一種免許状 ( 家庭 ) / 高等学校教諭一種免許状 ( 保健 ) / 中学校教諭一種免許状 ( 保健 )		

ねらい ( 科目の性格 科目の概要 学修目標 )

教科関連科目・教科教育法，教育実習 で修得したことをふまえて，教育実習 では実際に授業を担当する。これまでに学修した教科，授業方法等に関する知識を実践的な知識に変換し，教員を目指す者としての実践的能力をつける。学校現場での実際の勤務経験をとおして自身の教員としての適正を見極める。

内容

教育実習校における3週間以上の授業担当による教育実習を行う

評価

実習校からの評価資料及び「教育実習日誌」等の資料に基づき評価する。

授業外学習

【事前予習】【事後学修】3年生までの教職科目の修得を前提に実施するため、各自での復習が必要となる。

教科書・推薦書 ( 著者名・書名・出版社名 )

授業の際に指示する。

科目名	地誌学概説		
担当教員名	西山 弘泰		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部（J）-教職課程		
学 年		ク ラ ス	01
開 講 期		必修・選択の別	
授 業 形 態		単 位 数	
資 格 関 係	中学校教諭一種免許状（社会）		

ねらい（ 科目の性格 科目の概要 学修目標）

#### 科目の性格

本科目は、おもに社会科関連教職免許状取得希望者を対象とし、地理的分野に位置づけられる科目である。

#### 科目の概要

地球上すべてにおいて同じ場所はないのはなぜだろうか。それはそれぞれの地域には、特徴を持った地形、気候、農業・漁業・工業・商業などの経済活動、民族、歴史、文化があり、それらが相互に関係し合いながら固有の景観、人々の暮らしを生んでいるからである。このように地誌学は、日本・世界の諸地域の特徴を諸条件の相互関係から明らかにしようとする学問である。

#### 学修目標（＝到達目標）

中学校で社会科関連教職免許状取得しようとする学生が、授業を行うにあたって心得ておくべきと思われる基本的な知識や技術が習得できる。

統計資料や地図から地域の特徴を読み取る能力を身につけることができる。

自然環境、歴史、文化、民族、社会、経済など幅広い視点から日本・世界の諸地域を学ぶことができるため、プライベート（例えば旅行）やビジネスなど多方面において有用な基礎的教養を身に着けることができる。

#### 内容

1	地誌学と地域調査の手法
2	身近な地域の地誌
3	北海道地方 北国の気候的特徴と人々の暮らし
4	東北地方 東北地方からみる日本の農業、漁業、エネルギー問題
5	関東地方 大都市圏の地域構造と人々の暮らし
6	中部地方 戦後日本の地域開発：観光地、工業地帯の形成
7	近畿地方 近畿地方にみられる個性ある都市：城下町、環濠集落、寺内町、宿場町、宗教都市
8	中国・四国地方 中国・四国地方の中山間地域からみる日本の地域格差問題
9	九州・沖縄地方 自然災害とその対策、沖縄からみる日本の伝統文化の多様性
10	地図の種類と地球儀 地球儀の作成
11	アジア 経済成長の光と影
12	中東・アフリカ 乾燥地域における文化と生活、民族問題と貧困の拡大
13	ヨーロッパ EUにおける地域統合の可能性と課題
14	アングロアメリカ 多民族社会とアメリカ合衆国のダイナミズム
15	ラテンアメリカ、オセアニア 都市の人口増加と貧困問題、鉱産資源を背景とした社会

#### 評価

授業中に行う小テストもしくは小レポート（30点）と期末試験（70点）で成績を評価する。

## 授業外学習

【事前予習】

【事後学修】

## 教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【教科書】

【推薦書】

【参考図書】

後藤武士（2009）『読むだけですっきりわかる日本地理』，宝島SUGOI文庫．

田辺 裕（2012）『もういちど読む山川地理』，山川出版社．

科目名	視覚障害教育概論		
担当教員名			
ナンバリング			
学 科	人間生活学部（J）-教職課程		
学 年		ク ラ ス	
開 講 期		必修・選択の別	
授 業 形 態		単 位 数	
資 格 関 係	特別支援学校教諭一種免許状		

ねらい（ 科目の性格 科目の概要 学修目標 ）

#### 科目の性格

学校種を問わず、すべての学校、学級に見え方に困り感を覚えている幼児児童がいる可能性を前提に、教師として支援できる基礎的知識・技能の力量および合理的な配慮ができる態度・習慣を身につける。

#### 科目の概要

視覚障害教育の歴史、制度を概観し、我が国における視覚障害教育および視覚障害問題の現状と課題を踏まえて、指導法（教育課程）および合理的配慮について研究する。

#### 学修目標（＝到達目標）

- a 視覚障害のある幼児児童の困り感に気づける教師、常に気づこうと努力する教師
- b 幼児児童生徒および保護者に寄り添い、支援できる教師
- c 常に幼児児童の抱える課題の改善のために研修に努め、専門性を高める努力をする教師
- d 幼児児童の命の尊厳、基本的人権の尊重を指導の中心に据える教師

内容	
1	オリエンテーション（視覚障害児と我が国における教育制度）
2	視覚の成り立ち（視覚障害児の心理・生理・病理を含む）
3	視覚障害乳幼児の発達と支援（就学支援を含む）
4	盲児の指導（教育課程、個別の指導計画、個別の教育支援計画他）
5	弱視児の指導（教育課程、個別の指導計画、個別の教育支援計画他）
6	点字の指導（歴史、成り立ち、現状と課題）
7	教科の指導（通常の学級、通級による指導、特別支援学級、特別支援学校での指導）
8	視覚障害児のための教科書
9	自立活動の指導(1)（歩行指導を含む）
10	自立活動の指導(2)（情報機器の活用を含む）
11	キャリア教育・進路指導（大学進学問題及び我が国の視覚障害者の歴史を含む）
12	寄宿舎教育（寄宿舎の役割、現状と課題）
13	教材・教具（自作教材・教具を含む）
14	国連の障害者権利条約と視覚障害教育
15	まとめ（視覚特別支援学校のセンター的機能とその活用）

## 評価

授業への参加意欲(40点)、レポート(30点)、試験(30点)とし、総合評価60点以上を合格とする。

## 授業外学習

【事前予習】教科書は該当箇所を事前に目を通し、問題意識をもって授業に臨むこと。

【事後学習】定期的に課せられるレポートを確実に仕上げ、提出する。

## 教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【教科書】青柳まゆみ・鳥山由子編著「視覚障害教育入門」 ジアース教育新社

【推薦書】必要に応じて授業で指示する。

【参考図書】必要に応じて授業で紹介する。

科目名	教職入門		
担当教員名	狩野 浩二		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部 (J) - 教職課程		
学 年	1	ク ラ ス	1Aクラス
開 講 期	前期	必修・選択の別	必修*
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	高等学校教諭一種免許状(情報) / 中学校教諭一種免許状(社会) / 高等学校教諭一種免許状(公民) / 高等学校教諭一種免許状(英語) / 中学校教諭一種免許状(英語) / 養護教諭一種免許状 / 栄養教諭一種免許状 / 高等学校教諭一種免許状(福祉) / 高等学校教諭一種免許状(家庭) / 中学校教諭一種免許状(家庭) / 高等学校教諭一種免許状(保健) / 中学校教諭一種免許状(保健)		

#### ねらい( 科目の性格 科目の概要 学修目標)

教育職員免許法に定められた教職科目である「教職の意義等に関する科目」として開設されます。

講義内容としては「教職の意義及び教員の役割」「教員の職務内容(研修、服務、及び身分保障等を含む)」「進路選択に資する各種の機会の提供等」を含む講座です。

教員を目指す1年生のみなさんと共に、教職科目のもっとも最初の学修内容として、「教師の仕事とは何か」ということを、さまざまな角度から学修することになります。

この科目を勉強し、教育の原理原則に関する科目(教育学概論)、教育の社会的事項に関する科目(学校関係法規)、教育の心理に関する科目(教育心理学)を学ぶことになります。

教職の基礎理論についての理解を深めること、教員や学校を取り巻く実情についての理解を深めること、受講生同士が討論したり、発表したり、その内容をもとに新たな課題を追求したりすることができるようになること、などがねらいです。

#### 内容

以下、取り上げる項目を挙げておきます(順不同)。

1. 教師の仕事とは
2. 教員免許制度
3. 教員の養成制度
4. 教員の採用
5. 女教師論
6. 学校とは
7. 学校と家庭
8. 学校と地域
9. 学級と学級経営
10. 授業の役割
11. 生徒指導の役割
12. 学校をめぐる法律・規則
13. 教師の職場としての学校
14. 教師の研修
15. まとめ

#### 評価

講義の際に書いてもらう学習票(20点)と、最終試験(80点)を総合して、60点以上で単位を認定します。

#### 授業外学習

【事前予習】テキストの該当節を読み、内容を理解します。疑問点を書き出して、講義に臨みます。

【事後学修】発表班の発表内容や討論内容を整理し、振り返りのレポートを作成します。事前学習での理解と疑問点の追究内容を整理し、講義ノートに記録します。

#### 教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【教科書】田嶋一・中野進之祐・福田須美子・狩野浩二『新版補訂版やさしい教育原理』有斐閣アルマ

【推薦書】斎藤喜博編 『島小の女教師』 明治図書出版

斎藤喜博 『授業 子どもを変革すること（新装判）』 国土社

斎藤喜博 『君の可能性』 ちくま文庫

【参考図書】教室で随時紹介します。

科目名	教職入門		
担当教員名	高橋 京子、遠藤 智子		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部（J）-教職課程		
学 年	1	ク ラ ス	1Bクラス
開 講 期	前期	必修・選択の別	必修*
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	高等学校教諭一種免許状（情報）/中学校教諭一種免許状（社会）/高等学校教諭一種免許状（公民）/高等学校教諭一種免許状（英語）/中学校教諭一種免許状（英語）/養護教諭一種免許状/栄養教諭一種免許状/高等学校教諭一種免許状（福祉）/高等学校教諭一種免許状（家庭）/中学校教諭一種免許状（家庭）/高等学校教諭一種免許状（保健）/中学校教諭一種免許状（保健）		

ねらい（ 科目の性格 科目の概要 学修目標）

科目の性格

教育職員免許法に定められた教職科目である「教職の意義等に関する科目」にあたる。

科目の概要

「教師の仕事とは何か」を様々な角度から学ぶ。

- ・教職の意義と教員の役割について
- ・教員の日常の教職生活について
- ・教員の職務内容について
- ・今日的な教育課題について

学修目標（=到達目標）

教職の制度的側面についての基礎知識を習得するとともに、教職の意義と教員の役割について理解を深め、教職への意欲を高める。

内容

1	学校をめぐる、現代の諸問題
2	専門職としての教師・その法的位置づけ
3	基本的な教育法規の解説と考察
4	学習指導要領の法的意義
5	学校における教育課程編成の意義
6	教員生活の実際
7	研修制度の実際
8	教員の服務
9	学校・家庭・地域社会の連携
10	今日の教育課題の考察（子どもの学力）
11	今日の教育課題の考察（子どもの健康）
12	今日の教育課題の考察（子どもの安全）
13	今日の教育課題の考察（子どもの人権）
14	教員の養成と採
15	まとめ

評価

毎時間作成する学習票を(40点)、最終試験(60点)とし、総合評価60点以上を合格とする。

#### 授業外学習

【事前予習】授業で扱う内容の前提となる事項を確認し、関連する資料に目を通し、レディネスを高める。

【事後学修】授業で学修した内容を確認し、指定された様式に従い学修内容をまとめる。

#### 教科書・推薦書(著者名・書名・出版社名)

【教科書】「学習指導要領」「小学校学習指導要領解説 総則編」

【推薦書】「教職 基本キーワード1200」(実務教育出版)、「最新教育キーワード」(時事通信出版局)

【参考図書】「学校って何だろう 教育の社会学入門」(ちくま文庫)等、随時紹介する。

科目名	教育学概論		
担当教員名	狩野 浩二		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部 (J) - 教職課程		
学 年	1	ク ラ ス	2Aクラス
開 講 期	後期	必修・選択の別	必修*
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	高等学校教諭一種免許状(情報) / 中学校教諭一種免許状(社会) / 高等学校教諭一種免許状(公民) / 高等学校教諭一種免許状(英語) / 中学校教諭一種免許状(英語) / 養護教諭一種免許状 / 栄養教諭一種免許状 / 高等学校教諭一種免許状(福祉) / 高等学校教諭一種免許状(家庭) / 中学校教諭一種免許状(家庭) / 高等学校教諭一種免許状(保健) / 中学校教諭一種免許状(保健)		

## ねらい( 科目の性格 科目の概要 学修目標)

本科目は、教育職員免許法に定められた「教育の基礎理論に関する科目」のうち、その筆頭に挙げられた「教育の理念並びに教育に関する歴史及び思想」を含む講義を行ないます。

これから4年間にわたって教職科目を受講していく、もっとも最初の1年生後期に「教育の基礎を学ぶ科目」として開講されます。1年の前期に学修した「教育者論」に続いて、先生になるための勉強をすることになります。

講義では、「教育とは何か」、「学校とは何か」、「教える・学ぶとはどういうことなのか」などの根源的な課題について、以下の内容項目にしたがって取り上げます。

教育の理念並びに教育に関する歴史及び思想に関する基本事項に関する理解を深めること、受講生同士が討論しあったり、課題を追究したり、発表しあったりすることができること、テキストをもとに自己の課題を認識し、その内容を深めたり、研究したりすることができること、などがねらいです。

## 内容

以下、講義内容を項目ごとに書いておきます(順不同)。

テキストの構成とほぼ重なっています。

1. 学ぶことと教えること
2. 育つことと育てること
3. 学校の登場
4. 近代学校の性格
5. 日本の学校
6. 学力とは何か
7. 教科と道徳教育
8. 教育の内容と方法
9. 教育評価
10. 学校の可能性
11. 青年の教育
12. 生涯学習と社会教育
13. 子どもの権利とは何か
14. 十文字学園の創設と近代女子教育の流れ
15. まとめ

## 評価

講義で毎回書いてもらう小レポート(20点)、試験・レポート等(80点)などを総合して評価します。60点以上を合格とします。

## 授業外学習

【事前予習】テキストを読み、概要を把握し、疑問点を整理して、講義に持参します。

【事後学修】班発表の内容や班討論の内容を整理し、各自の振り返りレポートを作成します。次回提出して下さい。

#### 教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【使用テキスト（教科書）】田嶋一他著 『やさしい教育原理（新版）』 有斐閣アルマ

【推薦書】斎藤喜博 『授業入門（新装判）』 国土社

ルソー 『エミール（改版）上』 岩波文庫

シング 『狼に育てられた子』 福村出版

【参考図書】テキストの参考文献の他、教室で紹介します。

科目名	教育学概論		
担当教員名	綾井 桜子		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部（J）-教職課程		
学 年	1	ク ラ ス	2Bクラス
開 講 期	後期	必修・選択の別	必修*
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	高等学校教諭一種免許状（情報）/中学校教諭一種免許状（社会）/高等学校教諭一種免許状（公民）/高等学校教諭一種免許状（英語）/中学校教諭一種免許状（英語）/養護教諭一種免許状/栄養教諭一種免許状/高等学校教諭一種免許状（福祉）/高等学校教諭一種免許状（家庭）/中学校教諭一種免許状（家庭）/高等学校教諭一種免許状（保健）/中学校教諭一種免許状（保健）		

ねらい（ 科目の性格 科目の概要 学修目標）

人間生活学部教職科目 必修科目。

教職課程の基礎科目として各教科の基本となる教育の基本理念、教育の歴史や思想について学習する。また、今日の教育の動き、教育改革の進行など、現代社会の動きと日本、諸外国の状況など、教育現象を広くとらえ、人間形成のあり方にも触れる。

学修目標は以下の三つです。 1) 教育の現在と過去について知る。 2) 受講者と積極的に意見を交換し、教育についての視野を広げる。 3) 教育学の名著を知り、各自の教育観の形成に役立てる。

内容	
1	現代教育の諸課題
2	教育とは - 教育へのさまざまな問い
3	近代的子ども観の誕生と教育 ルソー『エミール』
4	人間の教育 ルソー『エミール』
5	ペスタロッチと「メトデー」
6	学校教育と教授 ヘルバルト
7	近代学校の誕生と公教育の成立
8	課題発表
9	新教育運動とデューイ
10	教育制度と学校体系 諸外国と日本
11	学力について - 新学力観とPISA
12	学力向上にむけた取り組み
13	グローバリゼーションと教育
14	課題発表
15	まとめ

評価

課題レポート60点、授業・グループワーク参加20点、発表20点の合計100点とし、60点以上が合格。

授業外学習

【事前予習】教育の時事について、各自、情報を収集する。また、文部科学省のホームページ等を適宜、参照し、教育改革の施策の動向を把握すること。授業の導入時に、各自、発表できるよう準備すること。

【事後学修】授業で扱った教育用語、教職教養の基礎概念について、理解の定着を図ること。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【テキスト】授業時に指示します。

【推薦書】関川悦雄・北野秋男『教育思想のルーツを求めて』啓明出版、2003年

【参考書】『教育思想史事典』勁草書房、2000年

科目名	学校関係法規		
担当教員名	黒瀬 任通、廣坂 多美子		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部（J）-教職課程		
学 年	1	ク ラ ス	
開 講 期	前期	必修・選択の別	必修*
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	高等学校教諭一種免許状（情報）/中学校教諭一種免許状（社会）/高等学校教諭一種免許状（公民）/高等学校教諭一種免許状（英語）/中学校教諭一種免許状（英語）/養護教諭一種免許状/栄養教諭一種免許状/高等学校教諭一種免許状（福祉）/高等学校教諭一種免許状（家庭）/中学校教諭一種免許状（家庭）/高等学校教諭一種免許状（保健）/中学校教諭一種免許状（保健）		

ねらい（ 科目の性格 科目の概要 学修目標）

#### 科目の性格

この科目は、児童教育学科の学生にとっては、「学科専門必修科目」である。

また、教員免許状の取得を希望する学生にとっては、免許取得のためには「必修科目」である。

#### 科目の概要

- 1 毎回の授業ごとに、プリントやノートにまとめたり、考えを記述したりして、学校教育や教育法規等について自分の考えを持つ。
- 2 基本的な学校関係法規についての学修を通して、我が国の学校教育に関する制度やしきみ、また、教育の実施について基本についての理解を深めていく。

#### 学修目標（=到達目標）

- 1 学校教育に関する基本的な法規と制度について理解する。
- 2 教育法規に関する学習を通して、日本の教育制度についての自分の考えが持てる。

#### 内容

1	ガイダンス。 教育の目的及び理念等に関する事項、及び法規
2	教育の実施に関わる基本的なこと等に関する事項、及び法規
3	学校の種類・設置等に関する事項、及び法規
4	教育行政機関のしくみ等に関する事項、及び法規
5	学校教育の目的・目標等に関する事項、及び法規
6	学習指導要領等に関する事項、及び法規
7	教育課程の編成等に関する事項、及び法規
8	教科書（教科用図書）等の教材に関する事項、及び法規
9	教職員の組織・職務等に関する事項、及び法規
10	教職員の人事・服務等に関する事項、及び法規
11	就学・入学等に関する事項、及び法規
12	学級編制等に関する事項、及び法規
13	保健・安全・給食等に関する事項、及び法規
14	学校運営等に関する事項、及び法規
15	まとめ

#### 評価

授業への参加度（取り組み）30%、毎回の小まとめ・小テストなど30%、筆答試験等

40%などにより総合的に評価するものとし、総合評価60点以上を合格とする。

#### 授業外学習

- 【事前予習】 『必携 教職六法』を使って、基本的な法規などに当たるとともに、主な法規ページにインデックスをつけるなどして、引きやすくなるよう工夫しておく。
- 【事後学修】 授業で使用したノートや参考資料などを見直すことや、授業で取り扱い学修した法規等を「教職六法」で再度読み直すことなどに取り組む。

#### 教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

- 【教科書】 『必携 教職六法』 杉原 誠四郎 監修 共同出版
- 【推薦書】 「図解・表解 教育法規」坂田 仰 河内 祥子 黒川 雅子 共著 教育開発研究所
- 【参考図書】 「教育法規便覧」 窪田 眞二 小川 友次 著 学陽書房

科目名	教育心理学		
担当教員名	綿井 雅康		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部 (J) - 教職課程		
学 年	1	ク ラ ス	
開 講 期	後期	必修・選択の別	必修*
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	高等学校教諭一種免許状(情報) / 中学校教諭一種免許状(社会) / 高等学校教諭一種免許状(公民) / 高等学校教諭一種免許状(英語) / 中学校教諭一種免許状(英語) / 栄養教諭一種免許状 / 高等学校教諭一種免許状(福祉) / 高等学校教諭一種免許状(家庭) / 中学校教諭一種免許状(家庭)		

## ねらい( 科目の性格 科目の概要 学修目標)

### 科目の性格

人間発達心理学科の専門科目として、初学者を対象として、学校教育に活用しうる心理学的知識の習得を目指す科目である。

教職に関する科目のうち、教育の基礎理論についての理解を深める科目である。

### 科目の概要

教職志望の初学者を主な対象として、学習の過程、および児童生徒の心身の発達について、教育心理学的な知見を学ぶとともに、学校教育現場における具体的な問題についての理解を深める。障害をもった子どもたちの発達、および特別な支援のあり方についても取り扱う。児童・生徒であった、そして学生である受講生に対して、「教える」、「学ばせる」、「学びを支援する」という「教師の立場」から、教育・指導や学習活動を客観的かつ分析的な視点からとらえようとする態度を育むことを目指す。

### 学修目標

教育心理学的な考え方や知識に基づいて、学校教育における学習活動の客観的に理解することができる。さらに、よりよい学習活動を展開するための工夫や特別な支援を必要とする子どもたちの学習活動のあり方について、心理学的知見に基づいて具体的に考えることができるようになる。

## 内容

1. 教育心理学と学校教育
2. 学習の動機づけ(1) 動機づけのメカニズム、内的欲求
3. 学習の動機づけ(2) 内発的動機づけと外発的動機づけ
4. 学習の基礎理論
5. 教授学習における学習理論
6. 協同学習の理論と実践
7. 学級の心理学
8. 学習の個性化、個別的ニーズへの対応
9. 教育評価
10. 発達(1) 発達の一般的特徴、発達を規定する要因
11. 発達(2) 発達段階と発達課題
12. 学習者の特性理解(1) 知的能力の発達と測定
13. 学習者の特性理解(2) パーソナリティの理論と測定
14. 学習者の特性理解(3) 障がいに応じた特別支援教育
15. 学習のまとめと確認

## 評価

筆記試験：90点，授業内課題10点の計100点で、60点以上を合格とする。

## 授業外学習

【事前予習】学習予定の章を読んでおくこと

【事後学修】授業で使用・記入したプリントをもとに、学習内容をノートにまとめ直す

## 教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

教職ガイダンス等で指示します。

科目名	教育心理学		
担当教員名	綿井 雅康		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部 (J) - 教職課程		
学 年	2	ク ラ ス	
開 講 期	前期	必修・選択の別	選択
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	高等学校教諭一種免許状 (情報) / 中学校教諭一種免許状 (社会) / 高等学校教諭一種免許状 (公民) / 高等学校教諭一種免許状 (英語) / 中学校教諭一種免許状 (英語) / 栄養教諭一種免許状 / 高等学校教諭一種免許状 (福祉) / 高等学校教諭一種免許状 (家庭) / 中学校教諭一種免許状 (家庭)		

ねらい ( 科目の性格 科目の概要 学修目標 )

#### 科目の性格

人間発達心理学科の専門科目として、学校教育の諸活動に活用しうる心理学的知識への理解を深めるための科目である。

#### 科目の概要

児童生徒の心身の発達、学習・教授学習過程の特質などを中心に取り上げる。さらに、学校教育における「生きる力を育む」ための「学び」の本質を理解することをめざす。さらに、受講生自身や級友・学友たちがどのように学び成長し発達してきたのかについて、教育心理学の視点や知見を提示し、より客観的に理解する機会も提供する。

#### 学修目標

児童期から青年期へと移行していく児童・生徒の心理的諸特性がどのように発達するのかをより深く理解し、子ども理解に役立てようとする態度をもつ。さらに、学校における多様な学習活動の過程や意義を理解するために、教育心理学的な知見を適用しつつ客観的科学的に分析する態度を養う。

### 内容

1. 子ども理解・学習活動の理解と教育心理学
2. 知能の発達と学力
3. 道徳性の発達
4. 社会性の発達
5. 教師と子ども間関係、子ども間の人間関係の発達
6. 諸特性の発達を測定する方法
7. 学習過程の基礎(1) 心理学における学習、条件づけ
8. 学習過程の基礎(2) 学習意欲と統制感・原因帰属
9. 学習過程の基礎(3) 観察学習、学習の諸相
10. 学習過程の基礎(4) 記憶、メタ認知、問題解決としての学習
11. 学習過程の基礎(5) 学習指導に生かす教育評価のあり方
12. 子どもの個人差に応じた学習指導
13. 学校における不適応
14. 特別支援教育の理解
15. 学習のまとめと確認

### 評価

期末試験：90点，授業内課題10点の計100点で、60点以上を合格とする。

### 授業外学習

【事前予習】配布されたプリントをもとに出題された課題に取り組む

【事後学修】学習したことを、子ども理解、教育活動の理解と結びつけるように考察する

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

教職ガイダンス等で指示します。

科目名	教育課程論		
担当教員名	狩野 浩二、増田 吉史		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部（J）-教職課程		
学 年	2	ク ラ ス	1Aクラス
開 講 期	前期	必修・選択の別	必修*
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	高等学校教諭一種免許状（情報）/中学校教諭一種免許状（社会）/高等学校教諭一種免許状（公民）/高等学校教諭一種免許状（英語）/中学校教諭一種免許状（英語）/養護教諭一種免許状/栄養教諭一種免許状/高等学校教諭一種免許状（福祉）/高等学校教諭一種免許状（家庭）/中学校教諭一種免許状（家庭）/高等学校教諭一種免許状（保健）/中学校教諭一種免許状（保健）		

#### ねらい（ 科目の性格 科目の概要 学修目標）

この科目は、教育職員免許法に定められた「教育課程及び指導法に関する科目」のうち、もっとも最初に掲げられている「教育課程の意義及び編成の方法」について学修します。

教員を目指すみなさんが2年生前期に受講し、これから勉強していく各教科（英語・国語など）、領域（道徳・特別活動など）等の指導法に関する科目がそれぞれどのように影響し合い、子どもたちの学習経験を実際に創りあげていくのかを考えることとなります。1年生で学習する「教育学概論」「教職入門」に引き続き学ぶ科目です。このあとは、この科目の学習を生かして、各科目ごとの「教科教育科目」「教育実習」を学んでいくこととなります。

各学校ごとに編成される教育課程の意味がわかること、教育課程と授業との関わりについての意味がわかること、教育課程と児童の学習に関する基礎理論を理解すること、がねらいです。

#### 内容

以下、取り上げる内容について列記します（順不同）。

1. これからの時代における教育課程
2. 教育の目的と方法
3. 教育方法の基礎理論
4. 学習理論の展開
5. 問題解決学習の方法
6. 学習形態と学習指導
7. 教育課程の編成
8. 学習指導要領と教育課程
9. 学習指導要領の変遷
10. 生活科と理科における内容構成
11. 現行学習指導要領の特徴
12. 生活科と社会科における内容構成
13. 授業における教師の課題 ゆさぶり
14. 授業における教師の課題 誤答
15. まとめ

#### 評価

個別学習・組織学習票（20点）と課題研究（80点）を総合して評価します。

#### 授業外学習

【事前予習】テキストの該当章を予め読み、概要をまとめ、疑問点を整理し、講義に持参します。

【事後学修】班発表の内容や班討論の内容を整理し、予習と引き比べながら振り返りレポートを作成します。次回の講義の

際、持参します。

#### 教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【テキスト（教科書）】松田稔樹,星野敦子,狩野浩二,津吹卓『自ら学び考える教職教養 教育課程・制度・法規』学文社、その他配付資料を使います。

【推薦書】斎藤喜博『授業の展開（新装判）』国土社

横須賀薫『授業の深さをはかるもの』教育出版

箱石泰和編『授業 = 子どもとともに探求する旅』教育出版

【参考図書】横須賀薫編『授業研究用語辞典』教育出版 他、教室で随時紹介します。

科目名	教育課程論		
担当教員名	狩野 浩二、増田 吉史		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部（J）-教職課程		
学 年	2	ク ラ ス	1Bクラス
開 講 期	前期	必修・選択の別	必修*
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	高等学校教諭一種免許状（情報）/中学校教諭一種免許状（社会）/高等学校教諭一種免許状（公民）/高等学校教諭一種免許状（英語）/中学校教諭一種免許状（英語）/養護教諭一種免許状/栄養教諭一種免許状/高等学校教諭一種免許状（福祉）/高等学校教諭一種免許状（家庭）/中学校教諭一種免許状（家庭）/高等学校教諭一種免許状（保健）/中学校教諭一種免許状（保健）		

#### ねらい（ 科目の性格 科目の概要 学修目標）

この科目は、教育職員免許法に定められた「教育課程及び指導法に関する科目」のうち、もっとも最初に掲げられている「教育課程の意義及び編成の方法」について学修します。

教員を目指すみなさんが2年生前期に受講し、これから勉強していく各教科（英語・国語など）、領域（道徳・特別活動など）等の指導法に関する科目がそれぞれどのように影響し合い、子どもたちの学習経験を実際に創りあげていくのかを考えることとなります。1年生で学習する「教育学概論」「教職入門」に引き続き学ぶ科目です。このあとは、この科目の学習を生かして、各科目ごとの「教科教育科目」「教育実習」を学んでいくこととなります。

各学校ごとに編成される教育課程の意味がわかること、教育課程と授業との関わりについての意味がわかること、教育課程と児童の学習に関する基礎理論を理解すること、がねらいです。

#### 内容

以下、取り上げる内容について列記します（順不同）。

1. これからの時代における教育課程
2. 教育の目的と方法
3. 教育方法の基礎理論
4. 学習理論の展開
5. 問題解決学習の方法
6. 学習形態と学習指導
7. 教育課程の編成
8. 学習指導要領と教育課程
9. 学習指導要領の変遷
10. 生活科と理科における内容構成
11. 現行学習指導要領の特徴
12. 生活科と社会科における内容構成
13. 授業における教師の課題 ゆさぶり
14. 授業における教師の課題 誤答
15. まとめ

#### 評価

個別学習・組織学習票（20点）と課題研究（80点）を総合し、60点以上を合格とします。

#### 授業外学習

【事前予習】テキストの該当章を予め読み、概要をまとめ、疑問点を整理し、講義に持参します。

【事後学修】班発表の内容や班討論の内容を整理し、予習と引き比べながら振り返りレポートを作成します。次回の講義の

際、持参します。

#### 教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【テキスト（教科書）】松田稔樹,星野敦子,狩野浩二,津吹卓『自ら学び考える教職教養 教育課程・制度・法規』学文社、その他配付資料を使います。

【推薦書】斎藤喜博『授業の展開（新装判）』 国土社

横須賀薫『授業の深さをはかるもの』 教育出版

箱石泰和編『授業 = 子どもとともに探求する旅』 教育出版

【参考図書】横須賀薫編『授業研究用語辞典』 教育出版 他、教室で随時紹介します。

科目名	教育方法		
担当教員名	星野 敦子、安達 一寿、井口 磯夫		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部（J）-教職課程		
学 年	2	ク ラ ス	2Aクラス
開 講 期	後期	必修・選択の別	必修*
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	高等学校教諭一種免許状（情報）/中学校教諭一種免許状（社会）/高等学校教諭一種免許状（公民）/高等学校教諭一種免許状（英語）/中学校教諭一種免許状（英語）/養護教諭一種免許状/栄養教諭一種免許状/高等学校教諭一種免許状（福祉）/高等学校教諭一種免許状（家庭）/中学校教諭一種免許状（家庭）/高等学校教諭一種免許状（保健）/中学校教諭一種免許状（保健）		

ねらい（ 科目の性格 科目の概要 学修目標）

中高栄養・養護教諭を目指す学生のための教職教養科目 本科目は、中等教育の現場において必要とされる教育方法理論の基礎知識の獲得を目的としている。特に情報化社会における授業のあり方と、新しい教育実践を目指した教育方法を的確に捉えることにより、教員採用試験に直結する実践力を養う。

「教育方法の基礎理論に基づいた授業設計ができる」「情報化社会に対応した教育方法を実践できる」

内容

1	1．教育の目的と方法（ガイダンス）
2	2．教育方法の基礎理論
3	3．学習理論の展開
4	4．問題解決学習の方法
5	5．学習形態と学習指導
6	6．教育課程の編成
7	7．授業設計の手順と教材研究
8	8．目標分析と評価問題の作成
9	9．学習評価の理論
10	10．「関心・意欲・態度」の評価、総合的な活動の評価
11	11．教授メディアの発達
12	12．ICTの授業における活用
13	13．情報化を意識した授業設計の考え方
14	14．総合課題
15	15．まとめ

評価

1 授業ごとの課題提出（30%）

2 最終試験の達成度（70%）

とし、総合評価60点以上を合格とする

授業外学習

【事前予習】教科書を読み、授業の概要を知る（2時間）

【事後学修】総合課題の見直し（1時間）

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

『自ら学び考える教職教養』松田・星野・狩野・津吹（学文社）

『学習者のとむに取組む授業改善』松田・星野・波多野（学文社）

科目名	<b>教育方法</b>		
担当教員名	狩野 浩二、安達 一寿		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部（J）-教職課程		
学 年	2	ク ラ ス	2Bクラス
開 講 期	後期	必修・選択の別	必修*
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	高等学校教諭一種免許状（情報）/中学校教諭一種免許状（社会）/高等学校教諭一種免許状（公民）/高等学校教諭一種免許状（英語）/中学校教諭一種免許状（英語）/養護教諭一種免許状/栄養教諭一種免許状/高等学校教諭一種免許状（福祉）/高等学校教諭一種免許状（家庭）/中学校教諭一種免許状（家庭）/高等学校教諭一種免許状（保健）/中学校教諭一種免許状（保健）		

#### ねらい（ 科目の性格 科目の概要 学修目標）

本科目は、教育職員免許法施行規則で定められた科目の中で、幼稚園教諭、小学校教諭、中学校教諭、高等学校教諭の普通免許を取得するために、必修と定められた科目である。同施行規則で定められた科目には、「教育方法及び技術（情報機器及び教材の活用を含む）」となっているが、コンピュータ等の操作技法については、高等学校まであるいは大学入学後に「情報処理演習」において十分に学習しているので、操作技法については行わない予定である。

本科目では、「方法・技術」を軽視したり、メディアや情報機器を活用することが「方法・技術」であるとしたりするものではなく、教師が身に付けている方法や技術はきわめて重要であると考えている。

「方法・技術」には、子どもの状態を見抜き、事態の先を見通す洞察力なども含んだ「教師力」そのものであると考えている。その意味において、教員を目指すものには必ず理解し、学修してほしい分野である。

#### 内容

いかに取り扱う内容を示す（順不同）。

テキストの順序に沿っている。

- 1 教育の方法と技術（教育の方法・技術とは何か、子どもの学びと教師の方法・技術など）【狩野】
- 2 授業が目指すものは何か（授業の方法・技術と子ども、子どもの固有性と方法・技術の創造性）【狩野】
- 3 授業の構想と計画（構想と計画の基本的視点、指導案はどう書くか、指導案を支える教材研究）【狩野】
- 4 指導案作成（実習課題）【狩野】
- 5 教えることと支援すること（本気で教えること、学習支援と称して放置すること）【狩野】
- 6 問いの創造と授業の展開（問いの発見から課題の成立へ、授業の構成と学習形態）【狩野】
- 7 教材づくり・教材発掘の視点（教材づくり・教材発掘の視点、教材研究）【狩野】
- 8 授業と教授メディア（教授メディアの変遷、授業はどのように変わるか）【安達】
- 9 コンピュータの利用（コンピュータと現代社会、コンピュータの教育利用の領域と教師の役割）【安達】
- 10 学習障害（LD）の理解と指導（学習障害の概念、LDの要因と理解、指導法）【安達】
- 11 特別支援教育と方法・技術（特別支援教育、Normalization, ADHD）【安達】
- 12 授業と教師（教師の力量、表現としての教師の身体、教師のことば）【狩野】
- 13 教育評価の役割と方法【安達】
- 14 学力と教育評価の課題（予期しない学習の結果、教育的働きかけと評価、学力）【安達】
- 15 まとめ【狩野】

#### 評価

評価は、 授業態度（授業への参加度や、授業中の課題への取り組み状況）を10%、 課題の提出状況と達成度を40%、 最終試験の達成度を50%とし、総合的に行う。全体の60点以上を合格とする。合格点に満たなかった場合は、再試験を行う場合があるので注意すること。

## 授業外学習

【事前予習】テキストの該当箇所を読解し、内容を理解する。疑問点を析出し、追究する。

【事後学修】発表班の内容、班討論の内容等を省察し、振り返りのレポートを作成する。

## 教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【教科書】松平信久・横須賀薫編『新訂教育の方法・技術』教育出版

【参考図書】横須賀薫編『授業研究用語辞典』教育出版，その他教室で紹介する。

科目名	情報科教育法		
担当教員名	安達 一寿		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部（J）-教職課程		
学 年	2	ク ラ ス	
開 講 期	前期	必修・選択の別	必修*
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	高等学校教諭一種免許状（情報）		

ねらい（ 科目の性格 科目の概要 学修目標）

#### 科目の性格

教職に関する科目（教育課程及び指導法に関する科目）

- ・教育課程の意義及び編成の方法
- ・各教科の指導法

#### 科目の概要

初等中等教育における情報教育全体の教育課程について理解し、教科「情報」教育の意義について学ぶ。普通教科「情報」と専門教科「情報」の教育課程を理解するとともに、それぞれのカリキュラムの実際について学ぶ。以上の事柄を通して、教員としての専門知識・技術を育成する。

#### 学修目標

教科「情報」の指導のための学習指導案の立案ができることや、情報活用の実践力、情報の科学的な理解、情報社会に参画する態度についての指導ができることを目標とする。また、ICT機器等を活用して、知識の定着や技能の習熟を図れる、児童生徒が授業や学習活動に必要なICTスキルについて指導できる技術を身につける。同時に、情報社会の倫理や法、自他の権利について理解、自他の安全や健康に関する理解、情報セキュリティに関して重要性の理解ができることや、地域・保護者と連携をとり、児童生徒の情報安全教育を進める意義を理解できることをねらいとする。

#### 内容

1	情報の意義や役割の理解（1）
2	情報の意義や役割の理解（2）
3	情報教育の全体像と目標
4	普通教科「情報」のねらいと教科（1）
5	普通教科「情報」のねらいと教科（2）
6	専門教科「情報」のねらいと教科（1）
7	専門教科「情報」のねらいと教科（2）
8	問題解決と演習の設計（1）
9	問題解決と演習の設計（2）
10	演習課題選択の観点
11	目標分析と年間指導計画の作成（1）
12	目標分析と年間指導計画の作成（2）
13	講義と実習の効果的な授業方法
14	グループワークの組織方法
15	まとめ

#### 評価

教材研究や模擬授業課題の状況、専門知識の習得状況などについて評価を行う。形式は、課題（40%）、最終レポート（

60%)を総合して、60%以上を合格とする

#### 授業外学習

【事前予習】教科書該当箇所に目を通しておくこと

【事後学修】課題を出すので、その実施をおこなうこと

#### 教科書・推薦書(著者名・書名・出版社名)

##### 【教科書】

文部省、高等学校学習指導要領解説 情報編

久野靖他、情報科教育法、オーム社

科目名	情報科教育法		
担当教員名	安達 一寿		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部（J）-教職課程		
学 年	2	ク ラ ス	
開 講 期	後期	必修・選択の別	必修*
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	高等学校教諭一種免許状（情報）		

ねらい（ 科目の性格 科目の概要 学修目標）

#### 科目の性格

教職に関する科目（教育課程及び指導法に関する科目）

- ・教育課程の意義及び編成の方法
- ・各教科の指導法

#### 科目の概要

初等中等教育における情報教育全体の教育課程について理解し、教科「情報」教育の意義について学ぶ。普通教科「情報」と専門教科「情報」の教育課程を理解するとともに、それぞれのカリキュラムの実際について学ぶ。以上の事柄を通して、教員としての専門知識・技術を育成する。

#### 学修目標

教科「情報」の指導のための学習指導案の立案ができることや、情報活用の実践力、情報の科学的な理解、情報社会に参画する態度についての指導ができることを目標とする。また、ICT機器等を活用して、知識の定着や技能の習熟を図れる、児童生徒が授業や学習活動に必要なICTスキルについて指導できる技術を身につける。同時に、情報社会の倫理や法、自他の権利について理解、自他の安全や健康に関する理解、情報セキュリティに関して重要性の理解ができることや、地域・保護者と連携をとり、児童生徒の情報安全教育を進める意義を理解できることをねらいとする。

#### 内容

1	科目の性格と目標（1）
2	科目の性格と目標（2）
3	科目の性格と目標（3）
4	学習指導案と教材作成（1）
5	学習指導案と教材作成（2）
6	学習指導案と教材作成（3）
7	学習指導案と教材作成（4）
8	模擬授業（1）
9	模擬授業（2）
10	模擬授業（3）
11	授業評価と学習評価の考え方（1）
12	授業評価と学習評価の考え方（2）
13	授業評価と学習評価の考え方（3）
14	これからの教科「情報」
15	まとめ

#### 評価

教材研究や模擬授業課題の状況、専門知識の習得状況などについて評価を行う。形式は、課題（40%）、最終レポート（

60%)を総合して、60%以上を合格とする

#### 授業外学習

【事前予習】教材研究をおこなうこと

【事後学修】事後の評価をおこなうこと

#### 教科書・推薦書(著者名・書名・出版社名)

##### 【教科書】

文部省、高等学校学習指導要領解説 情報編

久野靖他、情報科教育法、オーム社

科目名	社会・公民科教育法		
担当教員名	川崎 誠司		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部（J）-教職課程		
学 年	2	ク ラ ス	
開 講 期	後期	必修・選択の別	必修*
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	中学校教諭一種免許状（社会） / 高等学校教諭一種免許状（公民）		

ねらい（ 科目の性格 科目の概要 学修目標）

科目の性格

教職に関する科目の中の各教科の指導法

科目の概要

- ・ 中学校社会科公民的分野の目標・内容と指導法の基礎を学ぶ。
- ・ 高等学校公民科の目標・内容と指導法の基礎を学ぶ。
- ・ 模擬授業を通して、実践的指導力を身に付ける。

学修目標（＝到達目標）

中等教育における社会科教育、とくに公民教育の概要を学ぶことを通して、中学社会科・高校公民科を担当するために求められる知識・技能等の育成をはかり、実践的な指導力を培う。

内容	
1	「公民」または公民的資質という概念について
2	中学校社会科公民的分野の目標と内容
3	社会集団意識の発達と学習内容
4	政治意識の発達と学習内容
5	経済意識の発達と学習内容
6	時事問題の扱い方
7	新聞を活用した学習指導の展開 N I E の実践
8	さまざまなメディアを活用した指導方法の工夫
9	高等学校公民科の目標と教科構造
10	「現代社会」の目標と内容
11	「倫理」の目標と内容
12	「政治・経済」の目標と内容
13	学習指導案の作成演習
14	模擬授業
15	評価の観点と具体的方法

評価

毎回の小テストまたは課題50点と、定期試験50点を併せ、総合評価60点以上を合格とする。

## 授業外学習

【事前予習】テキストを参照しながら，講義内容について事前に全体像を把握しておく。

【事後学修】講義内容を振り返り，教材研究の方向性について自分の関心に照らしながら考え，学習指導計画の構想の準備を行う。

## 教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【テキスト】東京学芸大学社会科教育学研究室編『中高社会科へのアプローチ』東京学芸大学出版会

【参考図書】「社会認識を育てる授業の創造」 長谷川正 東洋館出版社 ほか適宜指示する

科目名	社会科教育法（公民科教育序論）		
担当教員名	川崎 誠司		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部（J）-教職課程		
学 年	2	ク ラ ス	
開 講 期	前期	必修・選択の別	必修*
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	中学校教諭一種免許状（社会） / 高等学校教諭一種免許状（公民）		

ねらい（ 科目の性格 科目の概要 学修目標 ）

#### 科目の性格

教職に関する科目の中の各教科の指導法

#### 科目の概要

- ・初等・中等教育における社会科教育、とくに公民教育についての概要を学ぶ。
- ・高等学校においては、公民科が独立していることの意義を学ぶ。
- ・社会科教育の理念を学び、指導の実際について理解を深める。

#### 学修目標（＝到達目標）

初等・中等教育における社会科教育、とくに公民教育の概要を学ぶことを通して、中学社会科・高校公民科を担当するために求められる知識・技能等の育成をはかり、実践的な指導力を培う。

内容	
1	総合教科としての社会科の成立
2	初等・中等教育における社会科の基本的性格
3	社会科学学習指導要領の変遷（昭和20年代の動向）
4	社会科学学習指導要領の変遷（昭和30年代以降）
5	社会科・公民科学習指導要領の変遷（平成元年改訂以降）
6	高等学校における公民科誕生の意義
7	教育の目的と公民的分野・公民科の教育目標総論
8	生活科の誕生と社会科教育のかかわり
9	各学年の社会科の教育目標・学習内容
10	社会科・公民科の内容構成原理
11	年間指導計画と、その作成原理
12	公民科の学習過程
13	公民科の指導形態と指導法
14	教科書と副教材の活用
15	視聴覚教材活用の基本的方法

#### 評価

毎回の小テストまたは課題50点と、定期試験50点を併せ、総合評価60点以上を合格とする。

## 授業外学習

【事前予習】テキストを参照しながら，講義内容について事前に全体像を把握しておく。

【事後学修】講義内容を振り返り，教材研究の方向性について自分の関心に照らしながら考え，学習指導計画の構想の準備を行う。

## 教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【教科書】 東京学芸大学社会科教育学研究室編『中高社会科へのアプローチ』東京学芸大学出版会

【参考図書】「社会科理論の批判と創造」 谷川彰英 明治図書 ほか適宜指示する。

科目名	英語科教育法		
担当教員名	向後 朋美		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部（J）-教職課程		
学 年	2	ク ラ ス	
開 講 期	前期	必修・選択の別	必修*
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	高等学校教諭一種免許状（英語） / 中学校教諭一種免許状（英語）		

ねらい（ 科目の性格 科目の概要 学修目標）

#### 科目の性格

本科目は英語科教職課程カリキュラムにおける教職に関する科目の1つで、英語教科教育法Ⅱ～Ⅳと同様にこの科目の単位が取れないと教育実習に出ることはできません。

#### 科目の概要

中学校・高校の教育課程全体における英語科カリキュラムの位置づけを背景として、英語科カリキュラム の実際について概論的に学びます。さらに、英語科教育の理論と方法について基礎的な事項を学びます。

#### 学修目標（＝到達目標）

英語科カリキュラムの位置づけとその実際について理解します。

#### 内容

毎回授業のはじめに、前回授業の復習テストを行います。

1	英語教育の目標
2	英語科カリキュラムの特色（学校教育内の位置づけ等を背景にして）
3	中学校学習指導要領の概要とその実践方法
4	高校学習指導要領の概要とその実践方法
5	言語の習得に関する理論
6	各種の英語教授法理論と方法
7	語彙・文法の学習と指導
8	リスニングの学習と指導
9	スピーキングの学習と指導
10	リーディングの学習と指導
11	ライティングの学習と指導
12	音声教材・LL教室等の教育機器を利用した学習と指導
13	教案の作成1
14	教案の作成2
15	まとめ

#### 評価

(1) 定期試験： 70%

(2) 平常点： 30% （復習テスト（毎週）、課題提出（毎週））

とし、総合評価60点以上を合格とする。これに加え、毎週行う復習テストの平均点が100点満点中の70点以上であることを単位取得の条件とする。合格点に満たない場合は再試験を行う。

## 授業外学習

【事前予習】次回の範囲となるテキストの問題を解いておくこと。

【事後学修】授業で行った箇所を次週の復習小テストに備えて解きなおしておくこと。

## 教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【教科書】授業時に指示します

【推薦書】

【参考図書】文部科学省中学校学習指導要領（外国語）

文部科学省高等学校学習指導要領（外国語）

『英語学習7つの誤解』大津由紀雄、NHK出版、700円＋税。

科目名	英語科教育法		
担当教員名	向後 朋美		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部 ( J ) - 教職課程		
学 年	2	ク ラ ス	
開 講 期	後期	必修・選択の別	必修 *
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	高等学校教諭一種免許状 ( 英語 ) / 中学校教諭一種免許状 ( 英語 )		

ねらい ( 科目の性格 科目の概要 学修目標 )

#### 科目の性格

英語科教職カリキュラムにおける教職に関する科目の1つで、3年次の英語教科教育法III, IVにつながります。教育実習に出るには、英語教科教育法I~IVすべての単位を取得する必要があります。

#### 科目の概要

前期で学んだ点をふまえて、中学校・高校で実際に授業を担当した場合を常に念頭に置き、わかりやすい説明を行うための基礎となる基礎的かつ実践的な文法を適宜演習形式を取り入れて学びます。

#### 学修目標 ( = 到達目標 )

中学校・高校で英語を教えるために必要な基礎的文法事項を身につけます。

#### 内容

毎回授業のはじめに前回授業の復習テストを行います。

1	文における基本的イントネーション
2	文字及び基本的な符号
3	文の構成と基本文型
4	文の種類 ( 疑問文、命令文、感嘆文、there構文 )
5	名詞・名詞句・代名詞
6	動詞・動詞句
7	時制と相
8	態
9	形容詞・副詞
10	不定詞
11	動名詞
12	分詞
13	現在完了
14	関係詞
15	まとめ

#### 評価

(1) 定期試験： 70%

(2) 平常点： 30% ( 復習テスト ( 毎週 )、課題提出 ( 毎週 ) )

とし、総合評価60点以上を合格とする。これに加え、毎週行う復習テストの平均点が100点満点中の70点以上であることを単位取得の条件とする。合格点に満たない場合は再試験を行う。

## 授業外学習

【事前予習】次回の範囲となるテキストの問題を解いておくこと。

【事後学修】授業で行った箇所を次週の復習小テストに備えて解きなおしておくこと。

## 教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【教科書】授業時に指示します

【推薦書】『英語学習7つの誤解』大津由紀雄、NHK出版、700円＋税。

【参考図書】

科目名	英語科教育法		
担当教員名	向後 朋美		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部 ( J ) - 教職課程		
学 年	3	ク ラ ス	
開 講 期	前期	必修・選択の別	選択, 必修 *
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	高等学校教諭一種免許状 ( 英語 ) / 中学校教諭一種免許状 ( 英語 )		

ねらい ( 科目の性格 科目の概要 学修目標 )

#### 科目の性格

本科目は英語科教職課程カリキュラムにおける教職に関する科目の1つで、この科目の単位が取れないと教育実習に出ることはできません。

#### 科目の概要

「英語教科教育法Ⅰ,Ⅱ」(2年前期後期)で習得した点をふまえて、英語科教育の理論と方法について理解を深め、発展的な事項を学ぶ。さらに、授業の具体的な技術・方法を模擬授業をとおして体験的に学び、4年次の教育実習への橋渡しとする。

#### 学修目標 (= 到達目標)

(i)英語科教育の理論と方法について理解し、授業の指導案を作成できる、(ii)指導案をもとに模擬授業を行い、改善点を発見し、修正することができる。

#### 内容

下記と並行して、英語力アップのための小テストを毎回行うとともに、動詞、準動詞を中心に英文法の総整理をおこなう。

1	公開研究授業のビデオの視聴(1)
2	公開研究授業のビデオの視聴(2)
3	公開研究授業のビデオの視聴(3)
4	授業の構成(年間の授業計画の中での位置付けと1時間ごとの授業設計)(1)
5	授業の構成(年間の授業計画の中での位置付けと1時間ごとの授業設計)(2)
6	Listening、Speaking、Reading、Writing の4技能の実際的指導(1)
7	Listening、Speaking、Reading、Writing の4技能の実際的指導(2)
8	Listening、Speaking、Reading、Writing の4技能の実際的指導(3)
9	文法・語彙の指導(1)
10	文法・語彙の指導(2)
11	教材研究(中学校英語教科書と副教材の分析)(1)
12	教材研究(中学校英語教科書と副教材の分析)(2)
13	模擬授業(学生同士の授業分析と評価)(1)
14	模擬授業(学生同士の授業分析と評価)(2)
15	まとめ

#### 評価

(1)授業への参加状況 20%

(2)小テスト 40%

(3)レポート、または期末テスト40%  
とし、総合評価60点以上を合格とする。

#### 授業外学習

【事前予習】テキストの指定された箇所を読み、事前準備シートをもとに疑問点等をまとめておく。取り上げる文法事項について説明できるようにしておく。

【事後学修】定着していない文法事項について復習しておく。

#### 教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【教科書】『英語教育 実践から理論へ』 米山朝二著、松柏社。

【推薦書】

【参考図書】授業で紹介する

科目名	英語科教育法		
担当教員名	向後 朋美		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部 ( J ) - 教職課程		
学 年	3	ク ラ ス	
開 講 期	後期	必修・選択の別	必修* , 選択
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	高等学校教諭一種免許状 ( 英語 ) / 中学校教諭一種免許状 ( 英語 )		

ねらい ( 科目の性格 科目の概要 学修目標 )

#### 科目の性格

英語科教職カリキュラムにおける教職に関する科目の1つで、教育実習に出るには、英語教科教育法I～IVすべての単位を取得する必要があります。

#### 科目の概要

「英語教科教育法 Ⅰ」(2年前期・後期)および「英語教科教育法 Ⅱ」(3年前期)で習得した英語教育の理論と方法についての知識を、実際に授業を行うための具体的な技術・方法に直接結び付け、自分なりの教授法が確立できるようにする。

#### 学修目標 (= 到達目標)

(i) 授業で学んださまざまな教授法を実際の模擬授業で試してみる、(ii) 模擬授業を通して自分なりの教授法を確立する。

#### 内容

- (1) 実習校での使用予定の教材研究を行った上で、教案を作成し、それに基づいて50分の模擬授業を行う。教師役の学生と生徒役の学生がそれぞれ模擬授業の後で、批評をし合う。
- (2) 前期に引き続き、教える立場に立った英文法について総点検を行う。
- (3) 教科書に使用されている世界の文化的背景についての知識も深める。

#### 評価

- (1) 授業への参加状況 20%
  - (2) 小テスト 40%
  - (3) レポート、または期末テスト 40%
- とし、総合評価60点以上を合格とする。

#### 授業外学習

- 【事前予習】テキストの指定された箇所を読み、事前準備シートをもとに疑問点等をまとめておく。取り上げる文法事項について説明できるようにしておく。
- 【事後学修】定着していない文法事項について復習しておく。

#### 教科書・推薦書 ( 著者名・書名・出版社名 )

【教科書】『英語教育 実践から理論へ』 米山朝二著、松柏社。

【推薦書】

【参考図書】授業で紹介する

科目名	家庭科教育法		
担当教員名	田中 和江		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部（J）-教職課程		
学 年	2	ク ラ ス	
開 講 期	前期	必修・選択の別	必修*
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	高等学校教諭一種免許状（家庭） / 中学校教諭一種免許状（家庭）		

ねらい（ 科目の性格 科目の概要 学修目標）

科目の性格

教職に関する科目（教育課程及び指導法に関する科目）

科目の概要

家庭科教育法 では、家庭科教育の理念と意義、歴史的変遷と新しい教育課程における中等家庭科教育の課題を明らかにする。また教科の目標、内容、指導方法、評価について体系的に理解し、系統的なカリキュラムの編成に必要な能力を身につける。

学修目標（＝到達目標）

- 1.家庭科教育の理念・意義および歴史的変遷を学ぶことで家庭科教育への理解を深め、教職への意欲を高める。
- 2.中等家庭科教育の目標、内容、指導方法、評価を体系的に理解できる。

内容

1	家庭科教育法 を学ぶにあたって（授業のねらいと進め方について）
2	家庭科教育の歴史的変遷（女子教育から共に学ぶ教科へ、戦後の教育改革と家庭科の誕生）
3	中学校・高校家庭科の目標と内容（学習指導要領と家庭科教科書の内容比較）
4	家庭科の授業設計1（年間指導計画を立案する）
5	家庭科の授業設計2（学習指導案について）
6	中学校・高校家庭科の授業と観察（授業実践DVD鑑賞）
7	教材研究1（さまざまな指導方法を学ぶ）
8	教材研究2（さまざまな指導法を体験する）
9	指導案検討1（生徒の生活環境と生活課題の把握）
10	指導案検討2（学習指導案事例検討）
11	模擬授業1（家族・家庭生活、食生活、衣生活）
12	模擬授業2（住生活、消費者教育、環境）
13	家庭科学習の評価（授業実践と評価、生徒の学びを多様に評価する方法）
14	中学校・高校家庭科の課題についてのレポート・まとめ
15	総合討論

評価

課題提出30点、模擬授業30点、テスト40点を併せ、合計60点以上の者を単位認定する。

授業外学習

【事前予習】新聞等から生活課題を幅広く収集し、知識・理解を深めること

【事後学修】講義で学習した内容を熟考し、さらに理解を深めること

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【教科書】

文部科学省「中学校学習要領解説 技術・家庭編」教育図書、2008

文部科学省「高等学校学習要領解説（家庭編）」については出版された段階で購入すること

【推薦書】【参考図書】

適宜指示する。

科目名	家庭科教育法		
担当教員名	富永 弥生		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部（J）-教職課程		
学 年	2	ク ラ ス	
開 講 期	後期	必修・選択の別	必修*
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	高等学校教諭一種免許状（家庭）/ 中学校教諭一種免許状（家庭）		

ねらい（ 科目の性格 科目の概要 学修目標）

#### 科目の概要

家庭科教育法 では、指導目標、指導内容等の整理とともに、教材研究を通して、指導内容、指導方法の理解を深める。1単位時間の具体的な指導計画の立案を通じて、実践的な指導に必要な力量の理解と習得を図る。なお、中学校、高等学校における授業の構想について教育現場の講師の講話により理解を図る。

#### 授業の到達目標及びテーマ

家庭科教育の指導目標、指導内容を理解する。

1単位時間の授業を構想し、学習指導案やワークシート等を作成できる。

家庭科授業を実施するために重視すべき事項を説明できる。

#### 内容

##### 授業計画

- 第1回：家庭科教育法 を学ぶにあたって（授業のねらいと進め方について）
- 第2回：家庭科のカリキュラムづくり（家庭科カリキュラム構築の視点、学習目標）
- 第3回：家庭科の学習内容（家族・保育・福祉領域、衣食住、消費・資源・環境）
- 第4回：家庭科の学習方法1（学習指導要領にみる家庭科の学習方法、）
- 第5回：家庭科の学習方法2（実践的・体験的学習、問題解決的学習、アクション志向学習など）
- 第6回：学習指導案の作成と評価1（学習指導案の形式、題材設定の理由：教材観・生徒観・指導観）
- 第7回：学習指導案の作成と評価2（学習目標、指導計画、本時の学習内容、授業評価の観点）
- 第8回：学習指導案の作成と評価3（本時の学習指導案、ワークシートの作成、板書計画）
- 第9回：家庭科授業事例から学ぶ1（環境育、健康教育、福祉教育、地域文化教育など）
- 第10回：家庭科授業事例から学ぶ2（自立して生きる、共に生きるなど）
- 第11回：学習指導の実際
- 第12回：学習指導案の作成演習（基礎）
- 第13回：学習指導案の作成演習（応用）
- 第14回：学習指導案の作成演習（発展）
- 第15回：学習指導案の発表とまとめ

#### 評価

毎回提出のレスポンスシートおよびレポート課題60点と、定期試験40点を併せ、合計60点以上の者を単位認定する。

## 授業外学習

【事前予習】新聞等から生活課題を幅広く収集し、知識・理解を深めること

【事後学修】講義で学習した内容を熟考し、さらに理解を深めること

## 教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

### 【教科書】

文部科学省「中学校学習要領解説 技術・家庭編」教育図書、2008

文部科学省「高等学校学習要領解説（家庭編）」開隆堂出版、2010

### 【推薦書】

文部科学省国立教育政策研究所「評価規準の作成，評価方法等の工夫改善のための参考資料【中学校 技術・家庭】」教育出版、2011 他、適宜指示する。

科目名	保健科教育法		
担当教員名	齋藤 千景、高橋 京子		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部（J）-教職課程		
学 年	2	ク ラ ス	
開 講 期	前期	必修・選択の別	必修*
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	高等学校教諭一種免許状（保健）/ 中学校教諭一種免許状（保健）		

#### ねらい（ 科目の性格 科目の概要 学修目標 ）

本科目は教員の免許状取得のための必修科目である。中学校・高等学校の保健科教諭の普通免許を取得するために定められた「教育課程及び指導法に関する科目」である。

小学校、中学校、高等学校の学習指導要領における保健科教育全体の教育課程を学ぶ。保健科教育の目標や内容を押さえ、教育実践に展開するための理論と実際を学ぶ。

学習指導要領に基づいて、学校教育における保健教育の役割を理解する。また、保健の授業を組み立て、保健学習を行うために必要となる基礎的考え方を習得する。

内容	
1	保健教育の意義と役割
2	保健教育の役割と教育課程の歴史
3	子どもの健康実態と保健教育
4	学習指導要領（ 1 ） 小学校
5	学習指導要領（ 2 ） 中学校
6	学習指導要領（ 3 ） 高等学校
7	学習指導要領（ 4 ） 特別支援教育
8	保健の指導計画
9	保健の単元計画（ 1 ） 小学校中学年
10	保健の単元計画（ 2 ） 小学校高学年
11	保健の単元計画（ 3 ） 中学校
12	保健の単元計画（ 4 ） 高等学校
13	保健教育の実践事例（ 1 ） 中学校
14	保健教育の実践事例（ 2 ） 高等学校
15	まとめ

#### 評価

授業内に出題する課題への解答を60点、筆記試験の得点を40点に換算して評価する。

#### 授業外学習

【事前予習】課題発表を多く設ける。発表の準備（個人・グループ）と予習が必要である。

【事後学修】学習した内容をまとめるために1時間程度の復習が必要である。

#### 教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

テキスト：文部科学省 2008 学習指導要領解説（小学校体育編、中学校及び高等学校保健体育編）

参考書：適宜指示する

科目名	保健科教育法		
担当教員名	齋藤 千景、高橋 京子		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部（J）-教職課程		
学 年	2	ク ラ ス	
開 講 期	後期	必修・選択の別	必修*
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	高等学校教諭一種免許状（保健）/ 中学校教諭一種免許状（保健）		

#### ねらい（ 科目の性格 科目の概要 学修目標）

本科目は教員の免許状取得のための必修科目である。中学校・高等学校の保健科教諭の普通免許を取得するために定められた「教育課程及び指導法に関する科目」である。

授業展開にそって単元指導計画と学習指導案を作成し、模擬授業の体験を通じて、実践的な指導力形成を目指す。

保健科教育法 で学習した知識と理論を踏まえて、また、保健科教育法 で学習した知識や技能を活用しつつ、教材研究や教材作成を行って、模擬授業を行う。

#### 内容

1	授業準備とは
2	保健教育の年間計画について
3	指導案作成（1） 作成手順と方法
4	指導案作成（2） 単元の目標理解と学習内容
5	指導案作成（3） 教材研究
6	指導案作成（4） 学習指導案の作成
7	教授技術（1）板書、発問
8	教授技術（2）机間指導、評価活動
9	模擬授業と授業分析（1） 小学校中学年
10	模擬授業と授業分析（2） 小学校高学年
11	模擬授業と授業分析（3） 中学校
12	模擬授業と授業分析（4） 中学校
13	模擬授業と授業分析（5） 高等学校
14	模擬授業と授業分析（6） 高等学校
15	まとめ

#### 評価

授業内に出題する課題への解答を60点、筆記試験の得点を40点に換算して評価する

#### 授業外学習

【事前予習】課題発表の機会を多く設定する。発表の準備（個人・グループ）と予習が必要である。

【事後学修】学習した内容をまとめるために1時間程度の復習が必要である。

#### 教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

テキスト：文部科学省 2008 学習指導要領解説（小学校体育編、中学校及び高等学校保健体育編）

参考書：適宜指示する

科目名	保健科教育法		
担当教員名	石山 隆之		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部（J）-教職課程		
学 年	3	ク ラ ス	
開 講 期	前期	必修・選択の別	選択, 必修*
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	高等学校教諭一種免許状（保健）/ 中学校教諭一種免許状（保健）		

ねらい（ 科目の性格 科目の概要 学修目標）

#### 科目の性格

本科目は教員の免許状取得のための教職科目「教育課程及び指導法に関する科目」である。

#### 科目の概要

現代社会と健康に関する事項に関する教育実践事例を学び、その指導法を習得する。

#### 学修目標（=到達目標）

保健教育において「健康・安全について科学的に理解させる」学習を展開するために必要となる事項等のうち、現代社会と健康に関する事項とその指導法について理解を深め模擬授業やディベートを行い、授業づくりに活かせるようにする。

#### 内容

- 第1回：学習指導要領について イン트로ダクション
- 第2回：ディベート、模擬授業についてのガイダンス
- 第3回：現職養護教諭の特別講義（外部講師招聘）
- 第4回：ディベート 担当単元の資料作成
- 第5回：ディベート 担当単元の資料作成
- 第6回：ディベート
- 第7回：担当模擬授業の指導案作成と授業準備
- 第8回：担当模擬授業の指導案作成と授業準備 指導案提出
- 第9回：担当模擬授業の指導案作成と授業準備 指導案提出
- 第10回：模擬授業、レポート作成
- 第11回：模擬授業、レポート作成
- 第12回：模擬授業、レポート作成
- 第13回：模擬授業、レポート作成
- 第14回：模擬授業、レポート作成
- 第15回：模擬授業振り返り まとめ 試験

#### 評価

授業内に出題する課題や模擬授業等の評価を80点、筆記試験の得点を20点に換算して評価する。総合評価60点以上を合格とする。

#### 授業外学習

【事前予習】高等学校の保健の教科書を事前学習

【事後学修】模擬授業等の振り返り

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【教科書】配布プリント

【推薦書】授業時間内で紹介する

【参考図書】文部科学省 学習指導要領解説（小学校体育編、中学校及び高等学校保健体育編）

科目名	保健科教育法		
担当教員名	石山 隆之		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部（J）-教職課程		
学 年	3	ク ラ ス	
開 講 期	後期	必修・選択の別	選択, 必修*
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	高等学校教諭一種免許状（保健） / 中学校教諭一種免許状（保健）		

ねらい（ 科目の性格 科目の概要 学修目標）

#### 科目の性格

本科目は教員の免許状取得のための教職科目「教育課程及び指導法に関する科目」である。

#### 科目の概要

- ・生涯を通じる健康に関する事項に関する教育実践事例を学び、その指導法を習得する。
- ・健康と環境および傷害の防止に関する教育実践事例を学び、その指導法を習得する。

#### 学修目標（＝到達目標）

保健教育において「健康・安全について科学的に理解させる」学習を展開するために必要となる事項等のうち、生涯を通じる健康、社会生活と健康に関する事項とその指導法について理解を深め模擬授業やプレゼンテーションを行い、授業づくりに活かせるようにする。

#### 内容

- 第1回：学習指導要領について イン트로ダクション
- 第2回：プレゼンテーション、模擬授業についてのガイダンス
- 第3回：応急処置、心肺蘇生法の特別講義（外部講師招聘）
- 第4回：プレゼンテーション 担当単元の資料作成
- 第5回：プレゼンテーション 担当単元の資料作成
- 第6回：プレゼンテーション
- 第7回：担当模擬授業の指導案作成と授業準備
- 第8回：担当模擬授業の指導案作成と授業準備 指導案提出
- 第9回：担当模擬授業の指導案作成と授業準備 指導案提出
- 第10回：模擬授業、レポート作成
- 第11回：模擬授業、レポート作成
- 第12回：模擬授業、レポート作成
- 第13回：模擬授業、レポート作成
- 第14回：模擬授業、レポート作成
- 第15回：模擬授業振り返り まとめ 試験

#### 評価

授業内に出題する課題や模擬授業等の評価を80点、筆記試験の得点を20点に換算して評価する。総合評価60点以上を合格とする。

#### 授業外学習

【事前予習】高等学校の保健の教科書を学習

【事後学修】模擬授業等の振り返り

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【教科書】配布プリント

【推薦書】適宜指示する

【参考図書】文部科学省 学習指導要領解説（小学校体育編、中学校及び高等学校保健体育編）

科目名	道徳教育		
担当教員名	上原 行義		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部 (J) - 教職課程		
学 年	2	ク ラ ス	2Aクラス
開 講 期	後期	必修・選択の別	選択, 必修*
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	高等学校教諭一種免許状(情報) / 中学校教諭一種免許状(社会) / 高等学校教諭一種免許状(公民) / 高等学校教諭一種免許状(英語) / 中学校教諭一種免許状(英語) / 養護教諭一種免許状 / 高等学校教諭一種免許状(福祉) / 高等学校教諭一種免許状(家庭) / 中学校教諭一種免許状(家庭) / 高等学校教諭一種免許状(保健) / 中学校教諭一種免許状(保健)		

ねらい( 科目の性格 科目の概要 学修目標)

科目の性格

本科目は、教育職員免許法施行規則に定める、中学校・高等学校の免許取得に必要な「教職に関する科目」のうち、「教育課程及び指導法に関する科目」に対応するものである。

中学校一種の免許状を取得しようとする者は、必修であるので留意すること。

科目の概要

道徳教育に対する一般的認識は、歴史的な影響もあって学習指導要領に定められた本質や理念とは、大きなずれがある。道徳教育が目指す人間観や教育観について正しく理解して指導に当たることが出来るように、下記の学修目標にかかわる事項について具体的に考察する。また、学生相互の意見交換を大切に、常に自ら判断し行動できる人間を目指して向上しようとする態度を身につける。

学修目標

- ・道徳教育とは何か、その意義や課題について考察し、道徳教育の本質や理念について正しく理解する。
- ・学校における道徳教育と道徳の時間の果たす役割について理解し、「道徳」の授業のあり方について考察する。
- ・「道徳」の授業の進め方について理解し、学習指導案を作成する。

内容	
1	1 学習指導要領における道徳教育の位置づけ
2	2 社会規範としての道徳 道徳教育に関する一般的認識のずれ
3	3 現代社会における道徳教育の課題 青少年の問題状況・現代社会の道徳的問題
4	4 道徳の本質と道徳教育の意義 人間の存在構造と道徳教育・道徳の本質・理論的基礎
5	5 学校における道徳教育の基本構造 学校の社会的任務・道徳教育の目標と内容
6	6 学校の全教育活動における総合的展開
7	7 学校における道徳教育の運営と指導 道徳教育の指導計画・道徳の時間の指導
8	8 「道徳の時間」の指導案と指導の諸方法 学習指導案の作成
9	9 学校における道徳教育の基礎 道徳における行為決定のしくみ・学校における道徳教育
10	10 学校における道徳の授業 どんな資料で何をねらうか
11	11 これからの時代に要求される道徳教育 道徳教育をめぐる動向・道徳教育の新しい発想
12	12 「道徳の時間」の模擬授業の計画
13	13 模擬授業の実践(1)学生の選んだ主題
14	14 模擬授業の実践(2)学生の選んだ主題
15	15 模擬授業の評価とまとめ

評価

レポート課題60%及び平常の授業態度、提出物等40%により評価を行い、60点以上を合格とする。

合格点に満たなかった場合は再試験を行う。

## 授業外学習

【事前予習】教科書等の該当ページに目を通しておく。

【事後学修】本時の学習課題について自分の言葉でまとめをする。

## 教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【教科書】 遠藤昭彦、山口満編 『道徳教育と特別活動』教職教育講座 第4巻 協同出版

文部科学省 『中学校(高等学校)学習指導要領』 政府刊行物

文部科学省 『中学校学習指導要領解説 道徳編』 政府刊行物

【推薦書】 押谷由夫、宮川八岐編 『道徳・特別活動重要用語300の基礎知識』 明治図書 375.35/D

科目名	道徳教育		
担当教員名	綾井 桜子		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部（J）-教職課程		
学 年	2	ク ラ ス	2Bクラス
開 講 期	後期	必修・選択の別	必修* , 選択
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	高等学校教諭一種免許状（情報）/ 中学校教諭一種免許状（社会）/ 高等学校教諭一種免許状（公民）/ 高等学校教諭一種免許状（英語）/ 中学校教諭一種免許状（英語）/ 養護教諭一種免許状 / 高等学校教諭一種免許状（福祉）/ 高等学校教諭一種免許状（家庭）/ 中学校教諭一種免許状（家庭）/ 高等学校教諭一種免許状（保健）/ 中学校教諭一種免許状（保健）		

#### ねらい（ 科目の性格 科目の概要 学修目標）

この科目は「教職に関する科目」の一つとして、学校における道徳教育を支える理論と実際について学ぶものです。養護教諭一種免許状の取得を希望する者においては必修です。

講義では、道徳的価値や規範意識の低下など、現代社会の今日的状況を射程に入れながら、学校における道徳教育の位置づけと実際について学びます。

学修目標は次の三つです。 道徳教育をめぐる今日的状況を知る 学校における道徳教育の役割と実際について理解する 道徳教育の本質や理念を理解し、道徳的行為を成り立たせる心情、判断、実践意欲・態度について考察する。

#### 内容

1	道徳、道徳教育について
2	道徳教育と心の教育
3	学習指導要領にみる道徳教育の位置づけ、役割
4	道徳教育の充実について
5	「自己の生き方」について考えるために
6	課題発表
7	課題発表
8	道徳教育のあゆみ、「道徳の時間」の特設
9	道徳教育の今日的状況
10	道徳的心情の形成と資料について
11	道徳的心情の形成と資料について
12	道徳的判断力の形成とモラル・ジレンマ
13	道徳性の発達理論
14	道徳性の発達理論
15	まとめ

#### 評価

試験60%、課題提出20%、課題発表20%とし、60点以上を合格とします。

#### 授業外学習

【事前予習】次週に扱う箇所（授業内にて指示）について、教科書を読んでおくこと。なお、提出課題については、発表も含め、十分に準備すること。

【事後学修】文部科学省『小学校学習指導要領解説 道徳編』について、授業時に扱った箇所を熟読すること。

#### 教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【教科書】徳永正直・宮島秀光・榊原志保・堤正史・林泰成『道德教育論 - 対話による対話への教育』  
ナカニシヤ出版、2009年

【推薦書】小笠原道雄・田代尚弘・堺正之『道德教育の可能性』福村出版、2013年

【参考図書】文部科学省『小学校学習指導要領』、文部科学省『小学校学習指導要領解説 道德編』  
文部科学省『中学校学習指導要領』、文部科学省『中学校学習指導要領解説 道德編』

科目名	特別活動		
担当教員名	上原 行義		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部（J）-教職課程		
学 年	2	ク ラ ス	
開 講 期	前期	必修・選択の別	必修*
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	高等学校教諭一種免許状（情報）/中学校教諭一種免許状（社会）/高等学校教諭一種免許状（公民）/高等学校教諭一種免許状（英語）/中学校教諭一種免許状（英語）/養護教諭一種免許状/高等学校教諭一種免許状（福祉）/高等学校教諭一種免許状（家庭）/中学校教諭一種免許状（家庭）/高等学校教諭一種免許状（保健）/中学校教諭一種免許状（保健）		

ねらい（ 科目の性格 科目の概要 学修目標）

#### 科目の性格

本科目は、教育職員免許法施行規則に定める、中学校・高等学校及び養護教諭の免許取得に必要な「教職に関する科目」のうち、「教育課程及び指導法に関する科目」に対応するものである。

中学校・高等学校及び養護教諭の免許状を取得しようとする者は、必修であるので留意すること。

#### 科目の概要

特別活動は、学校教育における各教科以外の学習の中心となるものである。しかし学習指導要領に示された特別活動の本質や理念が一般的には十分に理解されているとは言えない。特別活動の目的や方法について正しい理解のもとに指導できるよう、下記の学修目標にかかわる事項について具体的に考察する。また、学生が自ら小中学校で体験した特別活動に関する思い出や課題意識を相互に意見交換し、教師として児童生徒の自主的な活動を指導できるようにする。

#### 学修目標

- ・学校教育の今日的課題である「生きる力」の育成に資する特別活動の意義や役割について考察し、特別活動の歴史的変遷や領域ごとの特色について理解する。
- ・望ましい集団活動を組織し、児童生徒が自ら話し合い、協力して実践するための指導のあり方について考察する。
- ・学級活動の授業の進め方について理解し、学習指導案を作成する。

#### 内容

1	1. 学校教育の今日的課題と特別活動	社会動向と教育的課題
2	2. 特別活動の教育的課題	特別活動の特質、性格について
3	3. 日本における特別活動の歴史と変遷	近代日本の教科外活動、戦後における特別活動
4	4. 学級活動の意義と指導の実際	学級活動の意義と性格
5	5. 学級活動の内容・方法・評価	学級活動の指導形態と方法
6	6. 学級活動(2)の展開事例と今日的課題	学級活動の指導案
7	7. 学級活動(1)の展開事例と指導	
8	8. 児童会活動、生徒会活動	児童会・生徒会活動の特質と目標、内容及び指導上の留意点
9	9. クラブ活動、部活動の歴史的変遷と教育的意義	
10	10. 学校行事の目標・内容・指導計画等	望ましい実施と指導上の配慮事項
11	11. 総合的な学習の時間との関係	
12	12. 学級活動模擬授業の進め方について	指導案の検討、模擬授業の準備
13	13. 模擬授業の実践（1）学生の選んだ主題	
14	14. 模擬授業の実践（2）学生の選んだ主題	
15	15. 模擬授業の評価とまとめ	

#### 評価

レポート課題60%及び平常の授業態度、提出物等40%により評価を行い、60点以上を合格とする。

合格点に満たなかった場合は再試験を行う。

#### 授業外学習

【事前予習】教科書等の該当ページに目を通しておく。

【事後学修】本時の学習課題について自分の言葉でまとめをする。

#### 教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【教科書】遠藤昭彦、山口満編 『道徳教育と特別活動』教職教育講座 第4巻 協同出版

文部科学省 『中学校（高等学校）学習指導要領』 政府刊行物

文部科学省 『中学校（高等学校）学習指導要領解説 特別活動編』 政府刊行物（ぎょうせい出版）

科目名	道徳教育・特別活動論		
担当教員名	上原 行義		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部（J）-教職課程		
学 年	2	ク ラ ス	
開 講 期	後期	必修・選択の別	必修*
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	栄養教諭一種免許状		

ねらい（ 科目の性格 科目の概要 学修目標 ）

#### 科目の性格

本科目は、教育職員免許法施行規則に定める、栄養教諭の免許取得に必要な「教職に関する科目」のうち、「教育課程に関する科目」に対応するものである。

#### 科目の概要

道徳教育・特別活動は、学校教育における各教科以外の学習の中心となるものである。しかし学習指導要領に示された道徳教育・特別活動の本質や理念が一般的には十分に理解されているとは言えない。道徳教育・特別活動の目的や方法について正しい理解のもとに指導できるよう、下記の学修目標にかかわる事項について具体的に考察する。また、学生相互の意見交換を大切に、常に自ら判断し行動できる人間を目指して向上しようとする態度を身につける。

#### 学修目標

- ・道徳教育・特別活動の意義や課題について考察し、その本質や理念について正しく理解する。
- ・学校における道徳教育と道徳の時間の果たす役割について理解し、「道徳」の授業のあり方について考察する。
- ・望ましい集団活動を組織し、児童生徒が自ら話し合い、協力して実践する特別活動の指導のあり方について考察する。

## 内容

1	1. 学習指導要領における道徳教育・特別活動の位置づけ
2	2. 道徳の本質と道徳教育の意義 人間の存在構造と道徳教育の必要性
3	3. 学校における道徳教育の基本構造、道徳教育の目標と内容 学校の社会的任務
4	4. 学校教育における道徳教育の運営と指導 道徳教育の指導計画
5	5. 道徳の時間の指導 道徳学習指導案の作成
6	6. 学校教育の今日的課題と特別活動 社会動向と学校の教育的課題
7	7. 特別活動の教育的課題 特別活動の性格、個性の育成、社会性の育成、問題解決力の伸張
8	8. 学級活動の意義と指導の実際 意義と性格、内容・方法・評価、展開事例
9	9. 学級活動(2)の展開事例と指導案の作成
10	10. 学級活動(1)と今日的課題
11	11. 児童会・生徒会活動、クラブ活動・部活動、学校行事
12	12. 計画委員会と話し合い活動の進め方 学級活動模擬授業の進め方
13	13. 模擬授業の実践(1) 学生の選んだ主題
14	14. 模擬授業の実践(2) 学生の選んだ主題
15	15. 模擬授業の評価とまとめ

## 評価

レポート課題60%及び平常の授業態度、提出物等40%により評価を行い、60点以上を合格とする。

合格点に満たなかった場合は再試験を行う。

## 授業外学習

【事前予習】教科書等の該当ページに目を通しておく。

【事後学修】本時の学習課題について自分の言葉でまとめをする。

## 教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【教科書】遠藤昭彦、山口満編 『道徳教育と特別活動』教職教育講座 第4巻 協同出版

文部科学省 『中学校学習指導要領解説 道徳編』 政府刊行物（ぎょうせい出版）

文部科学省 『中学校学習指導要領解説 特別活動編』 政府刊行物（ぎょうせい出版）

科目名	生徒指導		
担当教員名	宮川 保之		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部 (J) - 教職課程		
学 年	3	ク ラ ス	
開 講 期	前期	必修・選択の別	必修*
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	高等学校教諭一種免許状(情報) / 中学校教諭一種免許状(社会) / 高等学校教諭一種免許状(公民) / 高等学校教諭一種免許状(英語) / 中学校教諭一種免許状(英語) / 高等学校教諭一種免許状(福祉) / 高等学校教諭一種免許状(家庭) / 中学校教諭一種免許状(家庭) / 高等学校教諭一種免許状(保健) / 中学校教諭一種免許状(保健)		

ねらい( 科目の性格 科目の概要 学修目標)

#### 科目の性格

教育職員免許法に定められた「教科に関する科目」のうち、「生徒指導、教育相談及び進路指導等に関する科目」として開講されます。講義内容は、生徒指導が生徒一人一人の個性の伸長を図るとともに、社会的資質や行動力を育成するものであること。そのためにカウンセリング・マインドを高めること、問題行動等の未然防止や学校が組織的に指導育成を進める方策などを学修する講座です。

#### 科目の概要

生徒指導は、学習指導とともに学校教育の重要なきのであること。そして、生徒の人間性の発達を支援することを主目的とする教育活動であること。特に、学級集団において教師が生徒を指導し、自己肯定感を高めたり、自律的に行動する資質や能力を高めること。さらには、家庭や地域社会、教育相談機関等の青少年の健全育成諸機関との連携を図ることなどを事例研究等をとおして学習する。

#### 学修目標 (= 到達目標)

\*生徒理解の方法を理解し、事例研究法により生徒指導の方策を身に付ける。\*生徒の心身の発達に係る概念や発達を促す指導方法を身に付ける。\*生徒の意識調査や「風景構成法」の援用により、生徒との善い人間関係づくりや深い生徒理解に基づく指導方法を身に付ける。\*いじめや不登校、反社会的な行動の予測と対応、問題行動等の未然防止に係る実践的な指導力を身に付ける。\*キャリア教育や自己肯定感を高める指導・援助の方策を身に付ける。

#### 内容

心豊かで、積極的に社会参加し、自己を活かしていこうとする生徒を育成するためには、幼児期から児童期、青年期に至る発達段階のそれぞれの心理的特性、社会的地位、自己概念などを捉える実践的な力量を求められている。また、犯罪心理学の知見から、青少年の非行の予防等に関する知識や指導力を求められる。本講座では、問題解決討議法、役割等技法、事例研究法、シミュレーション技法等を援用し、生徒指導に係る諸課題の解決に資する知識や技能の修得と活用を行う。

1	授業の目的と内容及び評価等に関するガイダンス	生徒指導の意義と原理
2	生徒指導と人間形成	生徒指導の理念と現実(生徒指導の機能を活かす学習指導の実際)
3	生徒指導の変遷と課題	生徒指導と教育課程(学習指導案等の検討)
4	生徒指導と人間観	生徒理解とその方法(観察、面接、検査等の実際)
5	生徒指導と人間関係の構築	個別の指導と集団としての機能を高める指導
6	生徒指導と教育相談	カウンセリング・コーチング等の実際(演習)
7	学校不応と問題行動	犯罪心理学の知見と生徒指導 自己概念の形成と生徒指導
8	不登校の発生機序と要因及び背景(事例分析)	不登校の未然防止と指導・援助の方策
9	いじめの発生機序と構造	ヴァルネラビリティやいじめの許容空間と防止(事例研究)
10	生徒指導の機能を活かす学級経営	生徒会活動や部活動等の指導(集団指導の実際)
11	学校経営と生徒指導の実際(組織貢献力の高揚)	懲戒の在り方と体罰の防止(事例検討)
12	健全育成のための施策の現状と課題	家庭・地域社会・関係諸機関との連携(事例検討)
13	進路指導の実際	各教科等の学習活動とキャリア教育の実際

14	事例研究1（不登校、いじめ、反社会的行動等の予防・未然防止及び問題解決）
15	事例研究2（キャリア教育、職業体験等の実際と指導）、最終試験（小論文）（50分）

## 評価

各回の小レポート30点、集団討議や事例研究等の成果物筆記試験（20点）、最終試験（50点）を総合して、単位認定する。なお、評価の観点や方法については、第1回目の授業及び学習内容に即して明示する。

## 授業外学習

【事前予習】前時に、テキストととして用いる『生徒指導提要』に記された事項を示すので、関連する情報を収取し、授業に臨むこと。

【事後学修】授業で行った事例検討や学習内容をもとに小論文(小レポート)を作成する。次回の授業の冒頭でこれらの課題を提出すること。

## 教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【教科書】『生徒指導提要』（文部科学省・平成22年3月刊）

【推薦書】嶋崎政男著『法規＋教育で考える生徒指導』ぎょうせい

【参考図書】『キャリア教育の手引き』（文部科学省・平成23年3月刊）中央教育審議会答申「次代を担う自立した青少年の育成に向けて」（平成19年1月30日）

科目名	教育相談		
担当教員名	上原 行義		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部（J）-教職課程		
学 年	3	ク ラ ス	
開 講 期	前期	必修・選択の別	必修*
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	高等学校教諭一種免許状（情報）／中学校教諭一種免許状（社会）／高等学校教諭一種免許状（公民）／高等学校教諭一種免許状（英語）／中学校教諭一種免許状（英語）／栄養教諭一種免許状／高等学校教諭一種免許状（福祉）／高等学校教諭一種免許状（家庭）／中学校教諭一種免許状（家庭）		

ねらい（ 科目の性格 科目の概要 学修目標）

〔科目の性格〕

学級担任としての教育相談的対応のためには、他の教師やスクールカウンセラーとの連携による組織的な指導援助を欠かすことができない。学生自身が主体的に学び、相互に意見交流をする体験を通して、教師として大切な協働の精神や人間関係形成力を身につける。

〔科目の概要〕

学校教育において個に応じたきめ細かな指導を進めるために、児童生徒理解を欠かすことはできない。指導にあたる教師が児童生徒のありのままを受け止め、教育相談的にかかわることができるようにするため、下記の学修目標にかかわる事項について具体的に考察する。

〔学修目標〕

- (1) 教育相談やカウンセリングの歴史及び基本的な理論について理解し、学校教育相談の意義や課題について考察する。
- (2) 学校において生徒指導の中核をなす教育相談の果たす役割について理解し、カウンセリングマインドによる具体的な指導のあり方について考察する。
- (3) 学校教育相談の進め方について理解し、カウンセリングの基礎的な技能を身につける。

内容

- 第1回 学校教育と教育相談
- 第2回 乳児期・幼児期における子どもの問題
- 第3回 小学校における子どもの問題
- 第4回 中学校・高等学校における子どもの問題
- 第5回 発達障害の理解と支援
- 第6回 精神疾患の理解と支援
- 第7回 教育相談の理論
- 第8回 教育相談の技法
- 第9回 学級経営に生かす教育相談
- 第10回 学校で使えるアセスメント
- 第11回 保護者への理解と支援
- 第12回 校内及び関係機関との連携、カウンセリングの実際
- 第13回 スクールカウンセラーの活用、カウンセリング模擬体験
- 第14回 カウンセリング実習(1)身内の問題
- 第15回 まとめ、カウンセリング実習(2)将来の問題

評価

毎回の授業の振り返り、レポート課題、発言等の平常点の評価40%、試験による評価60%により評価する。  
合格点に満たなかった場合は再試験を行う。

## 授業外学習

【事前予習】教科書等の該当ページに目を通しておく。

【事後学修】本時の学習課題について自分の言葉でまとめをする。

## 教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

### 〔教科書〕

「教師のたまごのための教育相談」会沢信彦、安齊順子 編著 北樹出版

### 〔推薦書〕

「小学校学習指導要領」文部科学省

「学級教育相談入門」有村久春 著 金子書房

「生徒指導と教育相談」教職教育講座第5巻 長谷川 栄、杉原一昭 編 共同出版

科目名	教育実習		
担当教員名	安達 一寿		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部 (J) - 教職課程		
学 年	4	ク ラ ス	0Aクラス
開 講 期	通年	必修・選択の別	必修*
授 業 形 態		単 位 数	1
資 格 関 係	高等学校教諭一種免許状(情報) / 中学校教諭一種免許状(社会) / 高等学校教諭一種免許状(公民) / 高等学校教諭一種免許状(英語) / 中学校教諭一種免許状(英語) / 高等学校教諭一種免許状(福祉) / 高等学校教諭一種免許状(家庭) / 中学校教諭一種免許状(家庭) / 高等学校教諭一種免許状(保健) / 中学校教諭一種免許状(保健)		

ねらい( 科目の性格 科目の概要 学修目標)

科目の性格

教職課程必修の教育実習事前事後指導

科目の概要

教科教育法や教科関連科目によって習得してきた知識・理論・方法論を踏まえた上で、実際に教育実習を行うにあたって具体的な事前、中間、事後の指導を行う。

学修目標( = 到達目標)

参観実習および教壇実習の成果を最大限に引き出し、教員を目指すものとしての責任を自覚させ、実際の授業運営能力を向上させることをねらいとする。

内容

#### 1. 事前指導

- (1) 教育実習オリエンテーション
- (2) 実習時における勤務・サービスの心得
- (3) 実習記録の作成法
- (4) 配当科目についての最終的な指導案作成
- (5) 実習校訪問

#### 2. 中間指導

- (1) 前期実習を振り返っての反省会
- (2) 実習日誌の中間提出
- (3) 後期実習に向けての指導

#### 3. 事後指導

- (1) 教育実習総括反省会の実施
- (2) 実習校訪問

評価

教材研究や模擬授業課題の状況、教員としての心構えの理解や授業運営能力などについて評価を行う。形式は、レポート50点、実習日誌50点とし、60点以上を合格とする。

授業外学習

- 【事前予習】教育実習配当校との事前準備
- 【事後学修】教育実習配当校との事後評価

教科書・推薦書(著者名・書名・出版社名)

【教科書】特に指定しない。

科目名	<b>教育実習</b>		
担当教員名	狩野 浩二、廣坂 多美子、綿引 光友		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部（J）-教職課程		
学 年	4	ク ラ ス	0Bクラス
開 講 期	通年	必修・選択の別	必修*
授 業 形 態		単 位 数	1
資 格 関 係	高等学校教諭一種免許状（情報）/中学校教諭一種免許状（社会）/高等学校教諭一種免許状（公民）/高等学校教諭一種免許状（英語）/中学校教諭一種免許状（英語）/高等学校教諭一種免許状（福祉）/高等学校教諭一種免許状（家庭）/中学校教諭一種免許状（家庭）/高等学校教諭一種免許状（保健）/中学校教諭一種免許状（保健）		

## ねらい（ 科目の性格 科目の概要 学修目標）

### 科目の性格

教育職員免許法に定められた「教育実習」に関する事前事後指導を行う科目です。主として、中学校や高等学校の一種免許状を取得する際に、履修します。教育実習において経験する諸活動に関する原理や原則を学びます。実習の事後においては、実習の成果を省察し、教員として最小限必要となる資質や能力が形成されたかを確認します。

### 科目の概要

教育実習に望むためには、学校の教員として、学校に勤務する際の基本を身につける必要があります。また、学習指導や生徒指導を展開するためには、児童生徒の実態に応じて、臨機応変にさまざまな状況に対処する力が必要です。こうした点について、教育実践記録に関する文献や映像、実際の学校教育活動の参観等を通して、学習します。

### 学修目標（＝到達目標）

1. 教員として最小限必要となる資質や能力のうち、教育実習に参加できるだけの力を身につける。
2. 教育実践記録に関する諸文献、諸映像、学校参観等を通して、教員として必要となる資質や能力を身につけることができる。
3. 現代の学校教育をめぐる諸課題について関心を持ち、その解決に向けて、考えをまとめたり、実行したりすることができる。

## 内容

以下に、この科目で取り上げる内容を列挙する（順不同）。

1. 学校教育をめぐる諸課題への理解（廣坂）
2. 教員としての表現力（狩野）
3. 教材開発・発掘（廣坂）
4. 単元の指導計画と授業の実際（廣坂）
5. 教育実践記録の読解と授業実践力の向上（狩野）
6. 教育実践映像の解釈と授業実践力の向上（狩野）
7. 教材開発・発掘による学習指導案の作成（廣坂）
8. 教材開発・発掘による模擬授業の実施（廣坂・狩野）
9. 模擬授業の省察（廣坂・狩野）
10. 学校参観（狩野）
11. 中学校における生徒の実情と教員の指導力（狩野）
12. 教育実習校訪問（狩野）
13. 教育実習の事後指導（狩野・廣坂）
14. 教育実習記録の制作（狩野）
15. まとめ（狩野）

実際の内容と事前事後指導の日程は、初回に提示する。

## 評価

各自の個別学修として行う文献読解等の授業外学習成果（2割）及び、事後省察結果（8割）を総合的に評価し、60点以上を合格とする。

## 授業外学習

【事前予習】使用するテキスト、プリント等を個別学修し、概要を把握し、疑問点を析出後、その内容を追究した個別学修記録を作成する。

【事後学修】授業内に学修したこと、学外での参観等の経験を省察し、事後記録を作成する。

## 教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【教科書】授業中に指示する。プリントを配布する。

【推薦書】学習指導要領解説編「社会」、その他授業中に紹介する。

【参考図書】授業中に紹介する。

科目名	教育実習		
担当教員名	向後 朋美		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部（J）-教職課程		
学 年	4	ク ラ ス	0Cクラス
開 講 期	通年	必修・選択の別	必修*
授 業 形 態		単 位 数	1
資 格 関 係	高等学校教諭一種免許状（情報）/中学校教諭一種免許状（社会）/高等学校教諭一種免許状（公民）/高等学校教諭一種免許状（英語）/中学校教諭一種免許状（英語）/高等学校教諭一種免許状（福祉）/高等学校教諭一種免許状（家庭）/中学校教諭一種免許状（家庭）/高等学校教諭一種免許状（保健）/中学校教諭一種免許状（保健）		

## ねらい（ 科目の性格 科目の概要 学修目標）

教科教育法や教職関連科目等によって修得してきた教職に関する知識・理論・方法論を踏まえたうえで、実際に教育実習を行うにあたって具体的な事前事後の指導を行う。この指導により参観実習及び教壇実習の成果を最大限に引き出し、教員を目指すものとしての責任を自覚させ、実際の授業運営能力を向上させることをねらいとする。

## 内容

### 1. 事前指導

#### (1) 教育実習オリエンテーション

- ・実習の目的
- ・実習における勤務等の心得
- ・実習記録の作成法

#### (2) 実習中における課題の設定について

#### (3) 実習校訪問について

### 2. 事後指導

#### (1) 教育実習報告会

- ・実習の総括
- ・課題取組内容とその成果の発表

#### (2) 実習校訪問

#### (3) 実習記録簿の提出

## 評価

提出物、報告会などの授業態度等を総合的に評価する。

## 授業外学習

【事前予習】【事後学修】3年生までの教職関連科目の修得を前提に実施するため、各自で復習をしておく必要がある。

## 教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

授業の際に指示する。

科目名	<b>教育実習</b>		
担当教員名	安達 一寿		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部 ( J ) - 教職課程		
学 年	4	ク ラ ス	0Aクラス
開 講 期	通年	必修・選択の別	必修*, 選択
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	高等学校教諭一種免許状 ( 情報 ) / 中学校教諭一種免許状 ( 社会 ) / 高等学校教諭一種免許状 ( 公民 ) / 高等学校教諭一種免許状 ( 英語 ) / 中学校教諭一種免許状 ( 英語 ) / 高等学校教諭一種免許状 ( 福祉 ) / 高等学校教諭一種免許状 ( 家庭 ) / 中学校教諭一種免許状 ( 家庭 ) / 高等学校教諭一種免許状 ( 保健 ) / 中学校教諭一種免許状 ( 保健 )		

## ねらい ( 科目の性格 科目の概要 学修目標 )

### 科目の性格

本科目は、教員免許法に定める「教育実習」のうち、高等学校一種「情報科」( 3 週間以上の実習期間の者を対象とする ) 前期実習 ( 選択 ) である。

### 科目の概要

1 . 教科関連科目・教科教育法、教育実習 で修得してきたことをふまえて、教育実習 では実際に授業を担当する。これまでに習得してきた教科、授業方法等に関する受動的な知識を実践的な知識に変換し、教員を目指す者としての実践的能力をつける。

2 . 学校現場での、実際の勤務経験を通して、自身の教職についての適性を見極める。

### 学修目標 ( = 到達目標 )

教育実習を通して、教職に関する理解を深め、教員としての資質を見極める。

## 内容

協力校における 3 週間以上の授業担当による教育実習を行う。

## 評価

実習校からの評価資料及び「教育実習日誌」等の資料に基づき評価する。

## 授業外学習

【事前予習】実習校の指示に従う。

【事後学修】実習校の指示に従う。

## 教科書・推薦書 ( 著者名・書名・出版社名 )

【教科書】特に指定しない。

科目名	<b>教育実習</b>		
担当教員名	狩野 浩二、廣坂 多美子		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部 (J) - 教職課程		
学 年	4	ク ラ ス	0Bクラス
開 講 期	通年	必修・選択の別	選択, 必修*
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	高等学校教諭一種免許状(情報) / 中学校教諭一種免許状(社会) / 高等学校教諭一種免許状(公民) / 高等学校教諭一種免許状(英語) / 中学校教諭一種免許状(英語) / 高等学校教諭一種免許状(福祉) / 高等学校教諭一種免許状(家庭) / 中学校教諭一種免許状(家庭) / 高等学校教諭一種免許状(保健) / 中学校教諭一種免許状(保健)		

#### ねらい( 科目の性格 科目の概要 学修目標)

**科目の性格** 教育実習の本実習を行う。中高の教員免許状を取得する場合、原則として本学が連携する六市(新座、志木、朝霞、和光、東久留米、清瀬)において教育実習を行う。本科目は、中、高の教員免許を主に取得する場合は、教育実習とともに履修し、教育実習を行うことが必要である。

**科目の概要** 中、高における教育実習(本実習)は、各学校の校長、副校長(教頭)、指導担当教諭の指導の下実施するが、本学における教育実習担当となる教職科目の担当教員や教科科目の担当教員の指導の下、教育実習 において事前指導を受けることになる。したがって、本実習に参画する前に教育実習 において事前指導を受け、本実習での心構え等をしっかりと学んでいることが必要である。なお、他校種の教員免許を主とする場合はこの科目は選択科目となる。

**学修目標(=到達目標)** 教育実習において教科指導はもとより、学級担任として学級経営を展開する力をしっかりと身につける必要がある。そのためには、各教科の授業だけでなく、各領域の授業や特別活動などにも積極的に関わることが必要である。特に、中、高では、生徒会活動や部活動が重要な指導の機会である。こうしたことにも関心を持ち、目標を持って実習に参画し、実習校での指導を受けることが肝要である。本実習においては、複数回の研究授業を自ら積極的にを行い、事前の教材研究、事中の授業、事後の検討会等において、先輩方からの指導を積極的に受けるようにする必要がある。

#### 内容

教育実習校における指導が中心であり、各学校の指示により教育実習を行う。

##### 1. ガイダンス

各学校に大学の担当教員とともに挨拶に出向き、教育実習全般についての諸連絡、諸注意を受け、教育実習を向かえるまでに必要な準備等を整えることになる。

##### 2. 教育実習

すべては、学校教育現場で勤務する教員と同様である。中・校教員免許状を取得する学生は、教育実習 に加えて、教育実習 の履修が必要である。他校種の免許を主とする学生は、教育実習 に加えて、本科目により、教育実習を経験する。

##### 3. 教育実習中

教育実習の手引きを熟読し、自らすすんで実習に参加することが大事である。研究授業は、自ら進んで行き、事前研究、事中研究、事後研究等、先輩方からの指導を積極的に受けることが必要である。

##### 4. 成績

成績は、教育実習校の評価と、大学での評価を総合する。したがって、予めどのような観点で、評価が行われるのか、自己評価をしてみるにより、教育実習に追究すべき、自己の克服課題、目標をつくっておくことが必要である。

##### 5. 事後指導

教育実習後は、教育実習 の担当教員とともに、実習を総括し、自らの実習を省察する。履修カルテには、その概要を記しておく。

#### 評価

教育実習校での評価(5割)大学での評価(5割)とし、総合評価60点以上を合格とする。

## 授業外学習

【事前予習】教育実習 で学修した内容を省察し、必要な文献を読み、概要をまとめる。教育実習校の使用教科用図書を購入し、事前学修する。

【事後学修】教育実習 での自己指導に備え、実習ノートを整理するとともに、実習の成果を省察する。

## 教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【教科書】テキストは教育実習校の指示により、該当する教科用図書等を手に入れておく。

【推薦書】教育実習の担当指導教員から指示を受ける。

【参考図書】同上

科目名	<b>教育実習</b>		
担当教員名	安達 一寿		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部（J）-教職課程		
学 年	4	ク ラ ス	0Aクラス
開 講 期	通年	必修・選択の別	必修*
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	高等学校教諭一種免許状（情報）/中学校教諭一種免許状（社会）/高等学校教諭一種免許状（公民）/高等学校教諭一種免許状（英語）/中学校教諭一種免許状（英語）/高等学校教諭一種免許状（福祉）/高等学校教諭一種免許状（家庭）/中学校教諭一種免許状（家庭）/高等学校教諭一種免許状（保健）/中学校教諭一種免許状（保健）		

## ねらい（ 科目の性格 科目の概要 学修目標）

### 科目の性格

本科目は、教員免許法に定める「教育実習」のうち、高等学校一種「情報科」（2週間の実習期間の者を対象とする）実習（必修）である。

### 科目の概要

1. 教科関連科目・教科教育法、教育実習 で修得してきたことをふまえて、教育実習 では実際に授業を担当する。これまでに習得してきた教科、授業方法等に関する受動的な知識を実践的な知識に変換し、教員を目指す者としての実践的能力をつける。

2. 学校現場での、実際の勤務経験を通して、自身の教職についての適性を見極める。

### 学修目標（=到達目標）

教育実習を通して、教職に関する理解を深め、教員としての資質を見極める。

## 内容

協力校における2週間以上の授業担当による教育実習を行う。

## 評価

実習校からの評価資料及び「教育実習日誌」等の資料に基づき評価する。

## 授業外学習

【事前予習】実習校の指示に従う。

【事後学修】実習校の指示に従う。

## 教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【教科書】特に指定しない。

科目名	<b>教育実習</b>		
担当教員名	狩野 浩二、廣坂 多美子		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部 (J) - 教職課程		
学 年	4	ク ラ ス	0Bクラス
開 講 期	通年	必修・選択の別	必修*
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	高等学校教諭一種免許状(情報) / 中学校教諭一種免許状(社会) / 高等学校教諭一種免許状(公民) / 高等学校教諭一種免許状(英語) / 中学校教諭一種免許状(英語) / 高等学校教諭一種免許状(福祉) / 高等学校教諭一種免許状(家庭) / 中学校教諭一種免許状(家庭) / 高等学校教諭一種免許状(保健) / 中学校教諭一種免許状(保健)		

#### ねらい ( 科目の性格 科目の概要 学修目標 )

**科目の性格** 教育実習の本実習を行う。中高の教員免許状を取得する場合、原則として本学が連携する六市(新座、志木、朝霞、和光、東久留米、清瀬)において教育実習を行う。本科目は、中、高の教員免許を主に取得する場合は、教育実習とともに履修し、教育実習を行うことが必要である。

**科目の概要** 中、高における教育実習(本実習)は、各学校の校長、副校長(教頭)、指導担当教諭の指導の下実施するが、本学における教育実習担当となる教職科目の担当教員や教科科目の担当教員の指導の下、教育実習において事前指導を受けることになる。したがって、本実習に参画する前に教育実習において事前指導を受け、本実習での心構え等をしっかりと学んでいることが必要である。なお、他校種の教員免許を主とする場合はこの科目は必修となる。

**学修目標 (=到達目標)** 教育実習において教科指導はもとより、学級担任として学級経営を展開する力をしっかりと身につける必要がある。そのためには、各教科の授業だけでなく、各領域の授業や特別活動などにも積極的に関わることが必要である。特に、中、高では、生徒会活動や部活動が重要な指導の機会である。こうしたことにも関心を持ち、目標を持って実習に参画し、実習校での指導を受けることが肝要である。本実習においては、複数回の研究授業を自ら積極的に行い、事前の教材研究、事中の授業、事後の検討会等において、先輩方からの指導を積極的に受けるようにする必要がある。

#### 内容

教育実習校における指導が中心であり、各学校の指示により教育実習を行う。

中・高の教員免許を取得する場合は、この科目とともに教育実習を履修すること。

他校種の免許を主とする場合は、この科目だけが必修となる。

##### 1. ガイダンス

各学校に大学の担当教員とともに挨拶に出向き、教育実習全般についての諸連絡、諸注意を受け、教育実習を向かえるまでに必要な準備等を整えることになる。

##### 2. 教育実習

すべては、学校教育現場で勤務する教員と同様である。中・校教員免許状を取得する学生は、教育実習に加えて、教育実習の履修が必要である。他校種の免許を主とする学生は、教育実習に加えて、本科目により、教育実習を経験する。

##### 3. 教育実習中

教育実習の手引きを熟読し、自らすすんで実習に参加することが大事である。研究授業は、自ら進んで行い、事前研究、事中研究、事後研究等、先輩方からの指導を積極的に受けることが必要である。

##### 4. 成績

成績は、教育実習校の評価と、大学での評価を総合する。したがって、予めどのような観点で、評価が行われるのか、自己評価をしてみるにより、教育実習に追究すべき、自己の克服課題、目標をつくっておくことが必要である。

##### 5. 事後指導

教育実習後は、教育実習の担当教員とともに、実習を総括し、自らの実習を省察する。履修カルテには、その概要を記しておく。

#### 評価

教育実習校での評価（5割）大学での評価（5割）とし、総合評価60点以上を合格とする。

#### 授業外学習

【事前予習】教育実習 で学修した内容を省察し、必要な文献を読み、概要をまとめる。教育実習校の使用教科用図書を購入し、事前学修する。

【事後学修】教育実習 での自己指導に備え、実習ノートを整理するとともに、実習の成果を省察する。

#### 教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【教科書】テキストは教育実習校の指示により、該当する教科用図書等を手に入れておく。

【推薦書】教育実習の担当指導教員から指示を受ける。

【参考図書】同上

科目名	教育実習		
担当教員名	向後 朋美		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部（J）-教職課程		
学 年	4	ク ラ ス	0Cクラス
開 講 期	通年	必修・選択の別	必修*
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	高等学校教諭一種免許状（情報）/中学校教諭一種免許状（社会）/高等学校教諭一種免許状（公民）/高等学校教諭一種免許状（英語）/中学校教諭一種免許状（英語）/高等学校教諭一種免許状（福祉）/高等学校教諭一種免許状（家庭）/中学校教諭一種免許状（家庭）/高等学校教諭一種免許状（保健）/中学校教諭一種免許状（保健）		

ねらい（ 科目の性格 科目の概要 学修目標）

教科関連科目，教科教育法，教育実習 ， で修得したことを踏まえて，教育実習で では実際に授業を担当する。これまでに学修した知識を実践的な知識に変換し，教員を目指す者としての実践的能力ををつける。さらに学校現場での実際の勤務経験を通して自身の教員としての適正を見極める。

内容

教育実習校における2週間以上の授業担当による教育実習を行う。

評価

実習校からの評価資料及び「教育実習日誌」等の資料に基づき評価する。

授業外学習

【事前予習】【事後学修】3年生までの教職科目の修得を前提に実施するため、各自での復習が必要となる。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

授業の際に指示する。

科目名	教職実践演習（中・高）		
担当教員名	安達 一寿、亀田 温子、向後 朋美、齋藤 千景 他		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部（J）-教職課程		
学 年	4	ク ラ ス	
開 講 期	後期	必修・選択の別	必修*
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	高等学校教諭一種免許状（情報）/中学校教諭一種免許状（社会）/高等学校教諭一種免許状（公民）/高等学校教諭一種免許状（英語）/中学校教諭一種免許状（英語）/高等学校教諭一種免許状（福祉）/高等学校教諭一種免許状（家庭）/中学校教諭一種免許状（家庭）/高等学校教諭一種免許状（保健）/中学校教諭一種免許状（保健）		

## ねらい（ 科目の性格 科目の概要 学修目標）

### 科目の性格

教職課程での学びの集大成として、将来教員になる上での自らの課題の発見、不足している知識や技能の補完と定着をねらいとして、教職生活を円滑にスタートするために必要な演習を行う。

### 科目の概要

(i)使命感や責任感，教育的愛情に関する事項，(ii)社会性や対人間関係能力に関する事項，(iii)生徒理解や学級経営に関する事項，(iv)教科内容等の指導力に関する事項で構成する。

### 学修目標（＝到達目標）

将来教員になる上で必要となる課題の発見ができ、その解決に必要な知識・技能を身につける。

内容	
1	オリエンテーション，これまでの教職課程の振り返る（講義，全体討議）
2	教職の意義・役割・職務内容，子どもに対する責任について理解する
3	教育に関する問題点，社会からの要請を考える（調査演習・グループ討議）
4	教育に関する問題点・自らの課題を発見する（現地調査）
5	自己課題とテーマを発表する（プレゼンテーション，レポート）
6	生徒の生活環境・教育環境を知る（グループ調査演習，事例研究）
7	現在の生徒像からみた望ましい学級経営案の検討（グループ討議・イベント企画）
8	生徒の進路指導に関わる社会情勢の調査と理解（グループ調査演習・ロールプレイ）
9	学級経営案を発表する（プレゼンテーション，レポート）
10	教育実習の振り返りと教科の指導力を考える（講義，グループ討議）
11	教育内容の基本的事項の確認（個人演習）
12	教育方法の基本的事項の確認（個人演習）
13	模擬授業
14	模擬授業
15	まとめ

## 評価

評価 レポート課題（3回程度），プレゼンテーション，討議におけるパフォーマンスを総合的に評価し、60点以上を合格とする。

## 授業外学習

【事前予習】討議やプレゼンテーションに必要な事前資料の準備

【事後学修】振り返りのためのレポート作成

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【教科書】各教科の学習指導要領、教科書

科目名	栄養教諭実習		
担当教員名	益子 京子		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部（J）-教職課程		
学 年	4	ク ラ ス	
開 講 期	通年	必修・選択の別	必修*
授 業 形 態		単 位 数	1
資 格 関 係	栄養教諭一種免許状		

#### ねらい（ 科目の性格 科目の概要 学修目標 ）

栄養教諭一種免許状を取得するために必要となる科目で、栄養教育実習に係わる事前・事後の指導を中心に行なう科目である。

学校における実習が始まる前に、栄養教諭の職務内容について、知識・技術を再確認する。実習後は、自らの実習体験をもとに栄養教諭の役割について理解を深める。

学修目標は教育実習中に必要とされる指導案の作成、資料・教材の作成を計画的に取り組むことができる。また、教育実習後では、学んだ実習について発表、協議し、よりよい「食に関する指導」の提案、計画ができる。

#### 内容

【栄養教諭実習前】 実習準備に結び付く内容を検討・確認する。

栄養教諭実習の意識や目的、心構え、実習の評価の方法、実習ノートや指導案の書き方、実習中の大学との連絡方法などを検討し、確認する。

【栄養教諭実習後】 実習体験の報告をもとに、問題点の整理、今後の課題を明確化し、栄養教諭の職務活動の展開を考える。

#### 評価

事前・事後指導におけるレポート、指導案の取り組みにより評価を行い、60点以上を合格とする。

#### 授業外学習

【事前予習】

【事後学修】

#### 教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

実習ノート・プリント配布

科目名	栄養教諭実習		
担当教員名	益子 京子		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部（J）-教職課程		
学 年	4	ク ラ ス	
開 講 期	通年	必修・選択の別	必修*
授 業 形 態		単 位 数	1
資 格 関 係	栄養教諭一種免許状		

#### ねらい（ 科目の性格 科目の概要 学修目標 ）

栄養教諭一種免許状を取得するために必要となる科目で、栄養教諭実習 で学んだ内容を教育現場で実際に体験し、教諭としての知識、技術を確実に身につける。

栄養に関する科目、栄養教諭実習 で習得したことをふまえて、栄養教諭実習 では、実際に学校での職務について参観し、実習を実施する。

大学で学んだ理論的、技術的な学習成果を実践し検証することができる。

#### 内容

1. 指導教諭等から学校経営、校務分掌、服務等の説明をうける。
2. 児童・生徒への個別的な相談、指導の実習 指導・相談の場の参観ならびに補助をおこなう。
3. 児童・生徒への教科・特別活動等における指導の実習 学級活動及び給食の時間における指導の参観ならびに補助。教科等における教科担任等と連携した指導の参観ならびに補助。給食放送指導、配膳指導、後片付け指導の参観ならびに補助。児童生徒集会、委員会活動、クラブ活動における指導の参観ならびに補助。指導計画案、指導案の立案作成、教材研究等をおこなう。
4. 食に関する指導の連携・調整の実習 校内における連携・調整（学級担任、研究授業の企画立案、構内研修等）の参観ならびに補助。家庭・地域との連携・調整の参観ならびに補助等をおこなう。

#### 評価

実習先の評価及び実習記録ノート・巡回担当者の評価をあわせ、60点以上を合格とする。

#### 授業外学習

【事前予習】

【事後学修】

#### 教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

実習ノート

科目名	<b>養護実習</b>		
担当教員名	齋藤 千景、松野 智子		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部（J）-教職課程		
学 年	4	ク ラ ス	
開 講 期	通年	必修・選択の別	必修*
授 業 形 態		単 位 数	1
資 格 関 係	養護教諭一種免許状		

#### ねらい（ 科目の性格 科目の概要 学修目標）

養護実習開始にあたり、教育職員免許法による養護教諭の免許取得に必要なとなっている「養護に関する科目」、「教職に関する科目」により、これまで学んできた知識やその方法を再度確認することや、心理学領域で学習してきた知識の活用が実習時には大きな効果をもたらすことを認識させるために、ロールプレイングを取り入れた指導場面を設定するなどして養護教諭としての役割と責任を自覚させることを目指すものである。

学修目標は、実習記録簿の扱い方や記入方法等を理解させる。児童生徒を目の前にした対応時に的確な判断と対応に、自分の持っている知識や技能を発揮し適切な対応でなければならないことを認識させる。連携の方法や必要性を再確認させる。

#### 内容

##### 1．事前指導

###### (1) 養護実習オリエンテーション

- ・実習の目的
- ・実習における勤務等の心得
- ・実習記録の作成法

###### (2) 実習中における課題の設定について

###### (3) 実習校訪問について

###### (4) ロールプレイングによる模擬演習

##### 2．事後指導

###### (1) 養護実習報告会

- ・実習の総括
- ・課題取組内容とその成果の発表

###### (2) 実習校訪問

###### (3) 実習記録簿の提出

#### 評価

提出物、報告会などの授業態度等を総合的に評価する。

#### 授業外学習

【事前予習】【事後学修】3年生までの教職科目の学修を前提に実施するため、各自で復習をしておく必要がある。

#### 教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

推薦書：「学校保健実務必携」（学校保健・安全実務研究会 編著 第一法規）

科目名	<b>養護実習</b>		
担当教員名	齋藤 千景、松野 智子		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部（J）-教職課程		
学 年	4	ク ラ ス	
開 講 期	通年	必修・選択の別	必修*
授 業 形 態		単 位 数	4
資 格 関 係	養護教諭一種免許状		

#### ねらい（ 科目の性格 科目の概要 学修目標）

大学において学習した理論・技術を基礎として、実際の現場に臨んで実地に実習することにより、学校教育全体を理解し、学校保健活動と養護教諭の職務が教育活動の一環として位置付けられていることを認識しながら、養護教諭としての職務の実際にかかわり、具体的な方法や処理の仕方等を身につけることを目指すものである。

学修目標は、実習校の教育目標などから学校の経営方針やその特徴を知る。 児童生徒への対応や判断方法など養護教諭としての執務に関する体験。 児童生徒への指導の体験。 事後措置の方法の体験。 他の教員や保護者等との連携方法の体験。

#### 内容

1. 学校教育活動の理解と学校保健の位置づけとその組織の理解
2. 学校運営及び教職員の職務の理解
3. 教職員間の連携や相互協力の機会、方法についての理解
4. 養護教諭の役割と保健室経営について実務を通じた理解
5. 児童生徒の心身の健康実態及び健康課題の把握
6. 児童生徒の心身の健康課題への対応とその措置
7. 地域等の関係機関との連携について
8. 学校保健計画や学校安全計画の理解とその活動
9. 集団による保健指導等の実際
10. 教育者としての倫理観の体得について

#### 評価

実習校から提出される勤務記録と実習評価票の結果及び実習記録簿を総合して評価する。

#### 授業外学習

【事前予習】【事後学修】3年生までの教職科目の修得を前提に実施するため、各自で復習をしておく必要がある。

#### 教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

推薦書：（学校保健・安全実務研究会編著 学校保健実務必携 第一法規）

「養護に関する科目」の中で養護教諭の職務等に関わる内容を整理したノートを持参すること

科目名	教職実践演習（栄養教諭）		
担当教員名	岩井 雄一、高橋 京子、狩野 浩二、増田 吉史 他		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部（J）-教職課程		
学 年	4	ク ラ ス	
開 講 期	後期	必修・選択の別	必修*
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	栄養教諭一種免許状		

#### ねらい（ 科目の性格 科目の概要 学修目標）

教職課程の総仕上げとして行われる授業です。学生のみなさんが教職に関する科目、教科に関する科目、教育実習、その他で学んだ学修内容を統合して、それぞれが教員として最小限必要となる資質や能力を身につけたかどうかを確認し、不足しているところがあれば、それを補う勉強をします。

履修カルテに基づいて、学生のみなさんと個人面談を行います。その上で、どのような資質や能力が形成されてきたか、不足している資質や能力はどのようなものかを確認し、その不足した資質や能力を補うような勉強を行います。内容によっては、講義や講演を聴いたり、近隣の学校での研究会に参加したり、模擬授業や教材研究を行うこともあります。学生のみなさんひとりひとりに対応した演習を実施します。

教員として最小限必要となる資質や能力を身につけることが目標です。

内容	
1	オリエンテーション，これまでの教職課程の振り返る（講義，全体討議）
2	教職の意義・役割・職務内容，子どもに対する責任について理解する
3	教育に関する問題点，社会からの要請を考える（調査演習・グループ討議）
4	教育に関する問題点・自らの課題を発見する（現地調査）
5	自己課題とテーマを発表する（プレゼンテーション，レポート）
6	生徒の生活環境・教育環境を知る（グループ調査演習，事例研究）
7	現在の生徒像からみた望ましい学級経営案の検討
8	生徒の進路指導に関わる社会情勢の調査と理解
9	学級経営案を発表する（プレゼンテーション，レポート）
10	教育実習の振り返りと教科の指導力を考える（講義，グループ討議）
11	教育内容の基本的事項の確認（個人演習）
12	教育方法の基本的事項の確認（個人演習）
13	模擬授業
14	模擬授業
15	まとめ（レポート）

#### 評価

演習・実習への参加態度（4割）、教職履修カルテ（4割）、講義時間中のミニレポート（2割）を総合的に評価して、60点以上を合格とします。

#### 授業外学習

【事前予習】シラバスを参照し、事前に該当部分について報告や問題提議をする準備をしておく。

【事後学修】グループ討議や演習等の内容について取りまとめをし、教師としての自分の適性を考える。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

必要に応じて随時紹介します。

科目名	<b>教職実践演習（養護教諭）</b>		
担当教員名	綿井 雅康、松野 智子		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部（J）-教職課程		
学 年	4	ク ラ ス	
開 講 期	後期	必修・選択の別	必修*
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	養護教諭一種免許状		

## ねらい（ 科目の性格 科目の概要 学修目標）

### 科目の性質

教職課程（養護教諭）の教職に関する科目での必修科目であり、養護実習を終えたことを前提として履修し学習する科目である。

### 科目の概要

教員として、使命感や責任感、教育的愛情に関する事項、社会性や対人間関係能力に関する事項、生徒理解や学校・学級経営に関する事項、養護教諭としての指導力に関する事項で構成する。また、教職・養護に関する科目を担当する教員が連携して、学生の補完すべき課題の様相や養護教諭としての実践力向上への取り組みについて共通理解と情報共有を図りつつ、指導を行う。

### 学修目標

教職課程での学びの集大成として、受講生の履修履歴に基づき、教員になる上での自らの課題の発見、不足している知識や技能の補完と定着をねらいとして、養護教諭としての実践力向上に必要な演習を行う。

## 内容

第1回：オリエンテーション，これまでの教職課程の振り返る（講義，全体討議）

第2回：教職の意義・役割・職務内容，子どもに対する責任について理解する

（教職勤務経験者による講義）

第3回：教育に関する問題点，社会からの要請を考える（調査演習・グループ討議）

第4回：教育に関する問題点をふまえ自らの課題を発見する（現地調査）

第5回：自己課題とテーマを発表する（プレゼンテーション，レポート）

第6回：児童生徒の生活環境・教育環境を知る（グループ調査演習、事例研究）

第7回：生徒指導に関わる生活環境・社会状況に関する現代的課題の理解

（グループ調査演習、事例研究）

第8回：児童生徒の現代的な健康課題の理解とその解決への取り組みの検討

（グループ調査演習、事例研究）

第9回：保健室経営計画に関する講義と演習（講義と演習、全体・グループ）

第10回：現代的な健康課題を踏まえた保健室経営計画案の検討（演習・討議、ロールプレイ）

第11回：教育実習の振り返りと養護教諭としての指導力・実践力を考える（講義，グループ討議）

第12回：教育内容の基本的事項の確認（個人演習）

第13回：模擬授業、模擬場面指導

第14回：模擬授業、模擬場面指導

第15回：成果の発表（発表、全体）

## 評価

演習での学習活動及び提出物により評価を行う。評価の基準は、各自が設定した課題に対する取り組み状況とその成果が、

現場の実情に即して資質の向上につながっているという点である。

#### 授業外学習

【事前予習】課題指示に沿って自らの学びや体験を客観的に整理すること

【事後学修】学修した内容を、学校現場でどのように実践するのかを考える

#### 教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

適宜指示する。

科目名	学校関係法規		
担当教員名	黒瀬 任通、廣坂 多美子		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部（J）-教職課程		
学 年	2	ク ラ ス	
開 講 期	前期	必修・選択の別	選択
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	幼稚園教諭一種免許状		

ねらい（ 科目の性格 科目の概要 学修目標）

#### 科目の性格

この科目は、児童教育学科の学生にとっては、「学科専門必修科目」である。

また、教員免許状の取得を希望する学生にとっては、免許取得のためには「必修科目」である。

#### 科目の概要

- 1 毎回の授業ごとに、プリントやノートにまとめたり、考えを記述したりして、学校教育や教育法規等について自分の考えを持つ。
- 2 基本的な学校関係法規についての学修を通して、我が国の学校教育に関する制度やしきみ、また、教育の実施について基本についての理解を深めていく。

#### 学修目標（＝到達目標）

- 1 学校教育に関する基本的な法規と制度について理解する。
- 2 教育法規に関する学習を通して、日本の教育制度についての自分の考えが持てる。

#### 内容

1	ガイダンス。 教育の目的及び理念等に関する事項、及び法規
2	教育の実施に関わる基本的なこと等に関する事項、及び法規
3	学校の種類・設置等に関する事項、及び法規
4	教育行政機関のしくみ等に関する事項、及び法規
5	学校教育の目的・目標等に関する事項、及び法規
6	学習指導要領等に関する事項、及び法規
7	教育課程の編成等に関する事項、及び法規
8	教科書（教科用図書）等の教材に関する事項、及び法規
9	教職員の組織・職務等に関する事項、及び法規
10	教職員の人事・服務等に関する事項、及び法規
11	就学・入学等に関する事項、及び法規
12	学級編制等に関する事項、及び法規
13	保健・安全・給食等に関する事項、及び法規
14	学校運営等に関する事項、及び法規
15	まとめ

#### 評価

授業への参加度（取り組み）30%、毎回の小まとめ・小テストなど30%、筆答試験等

40%などにより総合的に評価するものとし、総合評価60点以上を合格とする。

#### 授業外学習

- 【事前予習】 『必携 教職六法』を使って、基本的な法規などに当たるとともに、主な法規ページにインデックスをつけるなどして、引きやすくなるよう工夫しておく。
- 【事後学修】 授業で使用したノートや参考資料などを見直すことや取り扱い学修した法規等を「教職六法」で再度読み直すことになどに取り組む

#### 教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

- 【教科書】 『必携 教職六法』 杉原 誠四郎 監修 共同出版
- 【推薦書】 「図解・表解 教育法規」坂田 仰 河内 祥子 黒川 雅子 共著 教育開発研究所
- 【参考図書】 「教育法規便覧」 窪田 眞二 小川 友次 著 学陽書房

科目名	教育実践論		
担当教員名	向後 朋美		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部（J）-教職課程		
学 年	3	ク ラ ス	0Aクラス
開 講 期	通年	必修・選択の別	必修*
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	中学校教諭一種免許状（社会）／中学校教諭一種免許状（英語）／中学校教諭一種免許状（家庭）／中学校教諭一種免許状（保健）		

## ねらい（ 科目の性格 科目の概要 学修目標）

### 科目の性格

この科目は中学校教諭一種免許状（英語）取得のための必修科目です。教科または教職に関する科目の1つで、「介護等体験」実習とその事前事後指導を含みます。

### 科目の概要

「介護等体験」の対象となる社会福祉サービスを利用している方々や社会福祉施設及び機関に対する基本的認識を得ます。

### 学修目標

(i)介護等体験の事前指導をとおして、社会福祉教育の概要をまなび、そこで必要とされる基本的な技術を体得します。  
(ii)配属先の実習施設での実習をとおして、社会福祉従事者の基本姿勢を学びます。(iii)事後指導をとおして、体験した内容の振り返りを行い、基本的な認識を醸成します。

## 内容

### 1.事前指導

- (1) 社会福祉教育について
- (2) 対人援助について
- (3) 介護等体験の目的について
- (4) 介護等体験における心構え
- (5) 自己目標をたてる
- (6) 社会福祉施設と福祉サービスについて
- (7) 特殊教育と障害児者について
- (8) 配属先施設についての自己学習
- (9) 社会福祉施設の専門職について
- (10) 社会福祉従事者の基本姿勢
- (11) コミュニケーション理解
- (12) 車椅子、食事介助、移乗等体験

### 2.介護等体験

### 3.事後指導

- (1) 介護等体験における個別振り返り
- (2) 介護等体験におけるグループによる振り返り

## 評価

(1) 授業への参加度 50%, (2) 介護等体験施設の「記録ノート」等の資料に基づく評価 50%とし、総合評価60点以上を合格とする。

## 授業外学習

【事前予習】手引きの内容についてよく読んでおくこと。

【事後学修】実習後の振り返りをすぐにしておくこと。

## 教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

授業内で介護等体験の手引きを配布します。

科目名	教育実践論		
担当教員名	安達 一寿		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部（J）-教職課程		
学 年	3	ク ラ ス	0Bクラス
開 講 期	通年	必修・選択の別	必修*
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	中学校教諭一種免許状（社会）／中学校教諭一種免許状（英語）／中学校教諭一種免許状（家庭）／中学校教諭一種免許状（保健）		

ねらい（ 科目の性格 科目の概要 学修目標）

#### 科目の性格

この科目は教科または教職に関する科目の1つで、「介護等体験」実習とその事前事後指導を含みます。

#### 科目の概要

「介護等体験」の対象となる社会福祉サービスを利用している方々や社会福祉施設及び機関に対する基本的認識を得ます。

#### 学修目標（＝到達目標）

- (i)介護等体験の事前指導をとおして、社会福祉教育の概要をまなび、そこで必要とされる基本的な技術を体得します。
- (ii)配当先の実習施設での実習をとおして、社会福祉従事者の基本姿勢を学びます。(iii)事後指導をとおして、体験した内容の振り返りを行い、基本的な認識を醸成します。

## 内容

### 1.事前指導

- (1) 社会福祉教育について
- (2) 対人援助について
- (3) 介護等体験の目的について
- (4) 介護等体験における心構え
- (5) 自己目標をたてる
- (6) 社会福祉施設と福祉サービスについて
- (7) 特殊教育と障害児者について
- (8) 配属先施設についての自己学習
- (9) 社会福祉施設の専門職について
- (10) 社会福祉従事者の基本姿勢
- (11) コミュニケーション理解
- (12) 車椅子、食事介助、移乗等体験

### 2.介護等体験

### 3.事後指導

- (1) 介護等体験における個別振り返り
- (2) 介護等体験におけるグループによる振り返り

## 評価

下記の割合で点数化し、60%以上の得点を合格とする。

- (1) 授業への参加度 50%
- (3) 介護等体験施設の「記録ノート」等の資料に基づく評価： 50%

## 授業外学習

【事前予習】討議やプレゼンテーションに必要な事前資料の準備

【事後学修】振り返りのためのレポート作成

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【教科書】授業内で介護等体験の手引きを配布します。

科目名	教育実践論		
担当教員名	綿井 雅康		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部（J）-教職課程		
学 年	3	ク ラ ス	0Cクラス
開 講 期	通年	必修・選択の別	必修*
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	中学校教諭一種免許状（社会）／中学校教諭一種免許状（英語）／中学校教諭一種免許状（家庭）／中学校教諭一種免許状（保健）		

#### ねらい（ 科目の性格 科目の概要 学修目標）

この科目は中学校教諭一種免許状取得のための必修科目です。教科または教職に関する科目の1つで、「介護等体験」実習とその事前事後指導を含みます。

「介護等体験」の対象となる社会福祉サービスを利用している方々や社会福祉施設及び機関に対する基本的認識を得ます。

- （i）介護等体験の事前指導をとおして、社会福祉教育の概要をまなび、そこで必要とされる基本的な技術を体得します。
- （ii）配属先の実習施設での実習をとおして、社会福祉従事者の基本姿勢を学びます。（iii）事後指導をとおして、体験した内容の振り返りを行い、基本的な認識を醸成します。

#### 内容

##### 1. 事前指導

- （1）社会福祉教育について
- （2）対人援助について
- （3）介護等体験の目的について
- （4）介護等体験における心構え
- （5）自己目標をたてる
- （6）社会福祉施設と福祉サービスについて
- （7）特殊教育と障害児者について
- （8）配属先施設についての自己学習
- （9）社会福祉施設の専門職について
- （10）社会福祉従事者の基本姿勢
- （11）コミュニケーション理解
- （12）車椅子、食事介助、移乗等体験

##### 2. 介護等体験

##### 3. 事後指導

- （1）介護等体験における個別振り返り
- （2）介護等体験におけるグループによる振り返り

#### 評価

次の割合で点数化し、60%以上の得点を合格とする。

- （1）授業への参加度 50%
- （2）介護等体験施設の「記録ノート」等の資料に基づく評価： 50%

#### 授業外学習

【事前予習】実習施設に関する概要を理解しておく、さらに社会福祉に対する理解も深める

【事後学修】表面的な体験や観察だけではなく、支援することの意味や意義について考察する

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

授業内で介護等体験の手引きを配布します。

科目名	<b>教職演習</b>		
担当教員名	宮川 保之、岡上 直子		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部 (J) - 教職課程		
学 年	3	ク ラ ス	
開 講 期	前期	必修・選択の別	選択
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	高等学校教諭一種免許状(情報) / 中学校教諭一種免許状(社会) / 高等学校教諭一種免許状(公民) / 高等学校教諭一種免許状(英語) / 中学校教諭一種免許状(英語) / 高等学校教諭一種免許状(福祉) / 高等学校教諭一種免許状(家庭) / 中学校教諭一種免許状(家庭) / 高等学校教諭一種免許状(保健) / 中学校教諭一種免許状(保健)		

ねらい( 科目の性格 科目の概要 学修目標 )

科目の性格

教育職員免許法に基づき、中学校教諭・高等学校教諭教職科目「教科又は教職に関する科目」として開設されます。

科目の概要

即戦力として活躍できる教員となるために、これからの社会で求められる人材像を踏まえた学校教育を展開する方途や、学校における諸課題への的確な対応について学修する。また、教員として社会からの尊敬・信頼を受け、幼児・児童の思考力・判断力や表現力等を育成する実践的指導力を身に付ける。さらに、困難な課題に同僚と協働し、地域と連携して対応する実践的な指導力を身に付ける。このため、教育の最新事情や教育仮題の解決を意図した演習を行い、各自が指導観や教育観を明確にしていく。

学修目標( =到達目標 )

\*教科指導、生徒指導、学級経営等の職務を的確に実践できる力を身に付ける。\*学力向上、豊かな心を育成するための応用力を身に付ける。\*いじめ・暴力行為・不登校等生徒指導上の諸課題を早期に把握し、警察等の関係機関と連携するなどして、的確に対応できる指導力を身に付ける。\*自分の考えを文章や言葉などで表現したり、他者と巧くコミュニケーションしたりできる表現力等を高める。

内容

学校ボランティアの円滑な実施と省察を行うために、第2回目と第13回目に学習指導指導補助等の計画立案とその確認や省察を行う。他の回においては、下記回毎の教育課題の背景や解決策を見出す作業を行う。その際には、学校体験によって得た知識や技能を活かし、学習指導や生徒指導の人選的な指導力を高める演習(問題解決討議や事例研究)を行う。

1	学級経営の実際(学級集団の形成、規範意識の醸成、学級の組織と役割意識の向上)
2	インターンシップ・学校ボランティアの計画(後期分)立案と省察
3	学級経営上の課題とその解決(日常生活や学習への適応、健康・安全意識の向上)
4	特別な支援を必要とする幼児・児童の理解と配慮の実際(個別的教育支援計画)
5	学校問題の事例とその解決方策(学校・教員への信頼と教育効果を高める方策)
6	豊かな人間関係の育成と個性や社会的資質を高める教育活動例(生活習慣の確立)
7	社会の一員としての意識や行動力を高める指導例(規範意識の向上)
8	非社会的な問題行動の未然防止と課題解決の実際(不登校、引きこもり等の予防と対応)
9	反社会的な問題行動の未然防止と課題解決への取組み例(いじめ、暴力等の予防と対処)
10	災害安全・生活安全・交通安全に係る教育活動とその実際(防災教育や犯罪被害防止等の対策)
11	心身の健康の保持増進と体力向上に係る諸課題の解決策(運動・スポーツと学校体育の課題)
12	教員・学校への信頼と尊敬の念を高める教員の取組み(適正は服務と事故防止策)
13	インターンシップ・学校ボランティアの取組みと省察、次年度に繋げるための方策の検討
14	教育課程の編成実施と学校種間の連携と協力の在り方、取組み方(小中一貫校の成果)
15	実践的指導力を高める上での自己課題と今後の取組みについて(小論文作成)

## 評価

回毎での事例研究等の成果をもとに作成する小論文（50点）。最終試験（50点）を総合して、単位認定する。

## 授業外学習

【事前予習】各課題に関する資料やテキストを元に、事例研究の準備を行う。

【事後学修】事例研究と成果に対するコメントを元に、教育課題を解決していく方策を整理し、実践的な指導力を高めていく。

## 教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【教科書】「小学校学習指導要領」（平成20年3月文部科学省告示）。中央教育審議会答申「教職生活の全体を通じた教員の資質能力の総合的な向上方策について」（平成24年8月28日）。回毎に資料を提示するので、これらを活用する。

【推薦書】特になし

【参考図書】渡部邦雄著「活動指導法：実践的指導力をはぐくむ」日本文教出版

科目名	教職演習		
担当教員名	宮川 保之、岡上 直子		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部 (J) - 教職課程		
学 年	3	ク ラ ス	
開 講 期	後期	必修・選択の別	選択
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	高等学校教諭一種免許状(情報) / 中学校教諭一種免許状(社会) / 高等学校教諭一種免許状(公民) / 高等学校教諭一種免許状(英語) / 中学校教諭一種免許状(英語) / 高等学校教諭一種免許状(福祉) / 高等学校教諭一種免許状(家庭) / 中学校教諭一種免許状(家庭) / 高等学校教諭一種免許状(保健) / 中学校教諭一種免許状(保健)		

ねらい( 科目の性格 科目の概要 学修目標)

科目の性格

教育職員免許法に基づき、中学校教諭・高等学校教諭教職科目「教科又は教職に関する科目」として開設されます。

科目の概要

即戦力として活躍できる教員となるために、これからの社会で求められる人材像を踏まえた学校教育を展開する方途や、学校における諸課題への的確な対応について学修する。また、教員として社会からの尊敬・信頼を受け、幼児・児童の思考力・判断力や表現力等を育成する実践的指導力を身に付ける。さらに、困難な課題に同僚と協働し、地域と連携して対応する実践的な指導力を身に付ける。このため、教育の最新事情や教育仮題の解決を意図した演習を行い、各自が指導観や教育観を明確にしていく。

学修目標(=到達目標)

\*教科指導、生徒指導、学級経営等の職務を的確に実践できる力を身に付ける。\*学力向上、豊かな心を育成するための応用力を身に付ける。\*いじめ・暴力行為・不登校等生徒指導上の諸課題を早期に把握し、警察等の関係機関と連携するなどして、的確に対応できる指導力を身に付ける。\*自分の考えを文章や言葉などで表現したり、他者と巧くコミュニケーションしたりできる表現力等を高める。

内容

学校ボランティアの円滑な実施と省察を行うために、第2回目と第13回目に学習指導指導補助等の計画立案とその確認や省察を行う。他の回においては、下記回毎の教育課題の背景や解決策を見出す作業を行う。その際には、学校体験によって得た知識や技能を活かし、学習指導や生徒指導の人選的な指導力を高める演習(問題解決討議や事例研究)を行う。

1	学級経営の実際(学級集団の形成、規範意識の醸成、学級の組織と役割意識の向上)
2	インターンシップ・学校ボランティアの計画(後期分)立案と省察
3	学級経営上の課題とその解決(日常生活や学習への適応、健康・安全意識の向上)
4	特別な支援を必要とする幼児・児童の理解と配慮の実際(個別的教育支援計画)
5	学校問題の事例とその解決方策(学校・教員への信頼と教育効果を高める方策)
6	豊かな人間関係の育成と個性や社会的資質を高める教育活動例(生活習慣の確立)
7	社会の一員としての意識や行動力を高める指導例(規範意識の向上)
8	非社会的な問題行動の未然防止と課題解決の実際(不登校、引きこもり等の予防と対応)
9	反社会的な問題行動の未然防止と課題解決への取組み例(いじめ、暴力等の予防と対処)
10	災害安全・生活安全・交通安全に係る教育活動とその実際(防災教育や犯罪被害防止等の対策)
11	心身の健康の保持増進と体力向上に係る諸課題の解決策(運動・スポーツと学校体育の課題)
12	教員・学校への信頼と尊敬の念を高める教員の取組み(適正は服務と事故防止策)
13	インターンシップ・学校ボランティアの取組みと省察、次年度に繋げるための方策の検討
14	教育課程の編成実施と学校種間の連携と協力の在り方、取組み方(小中一貫校の成果)
15	実践的指導力を高める上での自己課題と今後の取組みについて(小論文作成)

## 評価

回毎での事例研究等の成果をもとに作成する小論文（50点）。最終試験（50点）を総合して、単位認定する。

## 授業外学習

【事前予習】各課題に関する資料やテキストを元に、事例研究の準備を行う。

【事後学修】事例研究と成果に対するコメントを元に、教育課題を解決していく方策を整理し、実践的な指導力を高めていく。

## 教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【教科書】「小学校学習指導要領」（平成20年3月文部科学省告示）。中央教育審議会答申「教職生活の全体を通じた教員の資質能力の総合的な向上方策について」（平成24年8月28日）。回毎に資料を提示するので、これらを活用する。

【推薦書】特になし

【参考図書】渡部邦雄著「活動指導法：実践的指導力をはぐくむ」日本文教出版

科目名	被服学		
担当教員名	山口 典子		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部（J）-教職課程		
学 年	2	ク ラ ス	
開 講 期	前期	必修・選択の別	必修*
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	高等学校教諭一種免許状（家庭）/ 中学校教諭一種免許状（家庭）		

#### ねらい（ 科目の性格 科目の概要 学修目標）

人は他の動物と異なり衣をまとふ動物である。その意味で被服学を学問として学ぶということは、人間としてのありようをも考えることに繋がる。被服学では、被服の起源、被服の役割、被服の素材、被服のデザイン・構成、被服の着装、被服の取り扱い、被服の消費と環境、高齢者・障害者の被服などについて認識を深め、より良い衣生活が営めるよう、総合的な視点と思考力を養う。授業形態は、講義を中心とするが視聴覚機器や標本などを活用して現実の生活を想起させ、興味・関心を深めていく。

学修目標は次の通りである。

被服学の基礎的な知識と理論が理解できたか。

被服学を学ぶ方法論が身についたか。

教職の現場において生徒にわかりやすく指導することのできる力がついたか。

#### 内容

1	ガイダンス（科目の学び方とその視点）
2	被服の起源と役割
3	被服の種類
4	被服の素材
5	被服の取り扱い
6	人体形態の把握と既製服サイズシステム
7	アパレル産業 1
8	アパレル産業 2
9	被服のデザイン・構成・色彩
10	被服の着装
11	帽子や履き物について
12	高齢者の被服
13	障害者の被服
14	被服の消費と環境
15	まとめ

#### 評価

平常点・課題40%、試験60%とし、総合評価60点以上を合格とする。

2/3以上出席することで評価を受けられ、合格点に満たなかった場合は再試験を行います。

#### 授業外学習

【事前予習】衣生活についてニュース・新聞・インターネットなどから情報を集め視野を広げる。

【事後学修】資料を精読しまとめる。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【教科書】必要に応じて随時プリントを配布する。

【推薦書】

【参考図書】

科目名	被服製作実習		
担当教員名	山口 典子		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部（J）-教職課程		
学 年	2	ク ラ ス	
開 講 期	後期	必修・選択の別	必修*
授 業 形 態		単 位 数	1
資 格 関 係	高等学校教諭一種免許状（家庭）/ 中学校教諭一種免許状（家庭）		

#### ねらい（ 科目の性格 科目の概要 学修目標）

家庭が教育において生活の諸相である基礎・基本を学ぶことは、成長・発達する子どもたちに不可欠な学習となる。本科目では被服のもつ機能性や個性を生かす色・柄・デザインについて理解を深めるとともに、基本的な知識を身につけ、手縫い・ミシン縫い、用具の取り扱い方法、作品の製作方法や手順などについての技術・技能を養う。これらを通して人間としての生活のありように迫る。各自の技術・技能の習得については、練習を繰り返し行い、しっかりと身につけることを目標とする。授業形態は標本を用い、師範しながら進めていく。

学修目標は次の通りである。

被服製作実習の授業を通して、実習に必要な用具やそれらの取り扱い方法、基礎的な知識・技術、作品の製作方法、実習授業の計画手順などが身についたか。

教職の現場において、生徒にわかりやすく指導することのできる力がついたか。

内容	
1	ガイダンス（科目の学ぶ方とその視点）
2	被服製作実習に必要な用具とその使用方法
3	布地の種類と用途
4	手縫い基礎1 [ 玉結び 玉どめ 並み縫い ぐし縫い ]
5	手縫い基礎2 [ 本返し縫い 半返し縫い しつけのかけ方 ]
6	手縫い基礎3 [ 普通まつり 流しまつり 縦まつり ]
7	手縫い基礎4 [ ボタンつけ スナップつけ ]
8	ミシン縫い基礎1 [ ミシンの使用方法 直線縫い 二度縫い 返し縫い 曲線を縫う ]
9	ミシン縫い基礎2 [ ジグザグミシン 端ミシン 三つ折り縫い ]
10	ミシン縫い基礎3 [ 折り伏せ縫い ロックミシン ]
11	応用作品の製作1
12	応用作品の製作2
13	応用作品の際策3
14	応用作品の際策4
15	まとめ [ 応用作品の展示と評価および感想 ]

#### 評価

平常点50%、各時間の課題および応用作品と作品製作レポートの提出50%とし、総合評価60点以上を合格とする。

2/3以上出席することで評価を受けられ、合格点に満たなかった場合は再試験を行います。

#### 授業外学習

【事前予習】ファッションや被服の構成について興味・関心を深め視野を広げる。さらに、いろいろな作品が製作するうえでどのように構成されているのか、考える力を日頃から身につける。

【事後学修】技術・技能の習得は、練習を繰り返し行いしっかりと身につける。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【教科書】必要に応じて随時プリントを配布する。

【推薦書】

【参考図書】

科目名	栄養学概論		
担当教員名	佐々木 菜穂		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部（J）-教職課程		
学 年	2	ク ラ ス	
開 講 期	後期	必修・選択の別	必修*
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	高等学校教諭一種免許状（家庭）/ 中学校教諭一種免許状（家庭）		

#### ねらい（ 科目の性格 科目の概要 学修目標）

この科目は、家庭科教諭免許状取得のための必修科目である。 良い食事をつくるには正しい食事の概念を学ぶ必要があり、特に栄養の知識がその中核となる。栄養学で扱う内容は非常に広範囲にわたるが、栄養素の生理的機能に重点を置き、食物として摂取した栄養素が体内でどのような変化を受け利用されるか、また日常の食事からエネルギーや栄養素をどのくらい摂取するのが適正であるかなどについて講述する。 栄養学概論の授業を通して基礎的な知識を習得し、教職の現場において生徒にわかりやすく指導することのできる力を養う。

#### 内容

- 1 回：栄養の基本概念（良い食事・栄養の重要性・生活習慣病の予防・生存のための食物の役割）
- 2 回：日本人の食事摂取基準（2010年度版）の概略
- 3 回：炭水化物（炭水化物の定義、炭水化物の種類と主な食品源）
- 4 回：糖質の機能と栄養（糖質の消化吸収と体内における分布、糖質の代謝とエネルギー産生、糖質の過剰と欠乏）
- 5 回：食物繊維（食物繊維の種類と主な食品源、食物繊維の機能）
- 6 回：脂質（脂質の定義と分類、主な脂肪酸の種類と体内における分布、必須脂肪酸と脂肪酸の摂取比率）
- 7 回：脂質の機能と栄養（脂質の消化吸収と輸送、脂質の代謝とエネルギー産生、脂質の過剰と欠乏、主な食品源）
- 8 回：たんぱく質（たんぱく質の定義とアミノ酸の種類、必須アミノ酸、食品中のたんぱく質の栄養価）
- 9 回：たんぱく質の機能と栄養（たんぱく質の消化吸収と分布、たんぱく質の過剰と欠乏、主な食品源）
- 10 回：ビタミンの定義とビタミン様物質、水溶性ビタミン（分布・機能・過剰および欠乏症・主な食品源）
- 11 回：脂溶性ビタミン（分布・機能・過剰および欠乏症・主な食品源）
- 12 回：無機質の定義、マクロミネラル（分布・機能・過剰および欠乏症・主な食品源）
- 13 回：ミクロミネラル（分布・機能・過剰および欠乏症・主な食品源）
- 14 回：保健機能食品制度と栄養成分表示制度
- 15 回：健康の保持増進と栄養（健康づくりのための食生活指針・動物性及び植物性食品・献立作成のための基礎食品・食事バランスガイド）

#### 評価

ペーパーテストを実施する。60点以上を合格とする。

#### 授業外学習

【事前予習】

【事後学修】

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

教科書

林寛・濱口恵子著 『新版栄養学総論』 三共出版

科目名	食品学		
担当教員名	栗崎 純一		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部（J）-教職課程		
学 年	2	ク ラ ス	
開 講 期	前期	必修・選択の別	必修*
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	高等学校教諭一種免許状（家庭） / 中学校教諭一種免許状（家庭）		

#### ねらい（ 科目の性格 科目の概要 学修目標）

##### 科目の性格

本科目は、中学校教諭一種免許状（家庭）および高等学校教諭一種免許状（家庭）を取得するにあたって、「教科に関する科目」に指定する科目のうち、食物学区分のなかの必修科目の一つとなっている。

##### 科目の概要

食品を構成する水、タンパク質、脂質、炭水化物、無機質、ビタミン類について基本的な知識を学ぶ。ついで、身近な植物性および動物性食品素材に特徴的な成分と、それらのもつ特性について学ぶ。これらの知識から、人類が自然界のものを、いかに巧妙に食品として利用し、成長と健康の維持・増進に役立ててきたかを理解する。

##### 学修目標（＝達成目標）

1. 食品成分とそれらの特性に関する基本的知識を習得する。
2. 主要な食材の特徴、加工特性および利用法を理解する。
3. 日々の食事や食に関連する社会問題にも関心をもち、成長と健康の維持・増進のため、食品を有意義に利用する姿勢を培う。

#### 内容

1	人間と食品
2	食品・食品成分の種類と分類
3	食品の水
4	食品のアミノ酸・タンパク質
5	食品の脂質
6	食品の炭水化物
7	食品中の無機質・ビタミン
8	食品の加工・保存（概論）
9	農産物の科学と利用（1）穀類、いも類、豆類
10	農産物の科学と利用（2）野菜類、果実類、その他
11	畜産物の科学と利用（1）乳類、卵類
12	畜産物の科学と利用（2）食肉類
13	水産物の科学と利用
14	調味料・香辛料、嗜好飲料等の科学
15	まとめ

#### 評価

質疑応答を含む授業への取り組み15%、中間試験2回計25%および総合試験60%とし、総合評価60点以上を合格とする。

#### 授業外学習

【事前予習】授業フォルダにあらかじめ入れられたスライドファイルを参考に、該当する範囲について教科書を読んでおく。30分以上を目安とする。

【事後学修】スライド解説、教科書の記述および授業内での質疑応答を総合して自分なりのノートを整理する。45分程度を目安とする。

#### 教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【教科書】久保田紀久枝著『食品学（第2版補訂）』東京化学同人

【教科書】新しい食生活を考える会編著『食品解説つき新ビジュアル食品成分表 新訂版』大修館書店

科目名	住居学（製図を含む）		
担当教員名	高間 謙治		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部（J）-教職課程		
学 年	2	ク ラ ス	
開 講 期	前期	必修・選択の別	必修*
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	高等学校教諭一種免許状（家庭） / 中学校教諭一種免許状（家庭）		

ねらい（ 科目の性格 科目の概要 学修目標）

科目の性格

講義科目であるが設計の基本も学ぶ。

科目の概要

住まいが、第一に、生活の根拠地であること、第二に、地域文化や自然環境と密接な関係があること、第三に、土地とつながる基礎的な社会的資本であること、第四に、歴史的、生活史的な展開と関連していること、第五に、社会の変化と関連していること、などを学ぶ。これらをもとに現代における住まいのあり方を考究する。合わせて、住まい、住環境の具体的な提案を行う。

講義では毎回、資料を配布し、パワーポイント、DVDなど視覚映像教材を用いてその解説を行う。また後半ではスケッチなどの手法により住宅設計も行う。

学修目標（＝到達目標）

住居や住環境について幅広い知識を学び、今後の住まいについても提案する。

内容	
1	現代の生活環境
2	100年前の暮らしと現代の暮らし
3	自然環境と住居
4	生活の根拠地としての住居
5	世界の住居
6	都市住宅の展開
7	住宅の歴史（日本）
8	住宅の歴史（欧米）
9	住宅政策（日本）
10	住宅政策（欧米）
11	住宅計画（基礎）
12	住宅計画（応用）
13	住宅、および住環境の提案（含む製図）
14	住宅、および住環境の設計（含む製図）
15	まとめ

評価

授業に対する意欲・関心・態度30点、及び随時の課題やレポートによる評価70点とし、総合評価60点以上を合格とする。

授業外学習

【事前予習】事前に配布した資料を読み、疑問点を整理しておく。

【事後学修】授業で配布した資料を熟読し、内容の理解を深めるように努める。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【教科書】資料等は用意するので、特にテキストは特定しないが、参考書等は授業の際に紹介する。

科目名	日本史概説		
担当教員名	伊藤 瑠美		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部（J）-教職課程		
学 年	2	ク ラ ス	
開 講 期	前期	必修・選択の別	必修*
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	中学校教諭一種免許状（社会）		

#### ねらい（ 科目の性格 科目の概要 学修目標）

##### 科目の性格

おもに社会科関連教職免許状取得希望者を対象として、人類の誕生～第二次世界大戦までの日本史を学びます。

##### 科目の概要

文部科学省検定済教科書は、基本的に4年ごとに改定され、そのつど新しい研究成果を取り入れて書き換えられています。本科目では中学校・高校教科書をベースに、記述が変化した点や、まだ教科書には反映されていないものの近年研究が進んでいる点を中心に取り上げ、皆さんとともに史料プリントを見ながら考えていきます。

##### 学修目標（＝到達目標）

歴史の流れと各時代の特徴を理解すること、教科書記述の背景を自分なりに説明できるようになること、が目標です。教科書は研究の進展によって変化していくものだということを理解し、皆さんが教壇に立った時に柔軟に対応できるようになることを目指します。

#### 内容

1	ガイダンス、人類の誕生と石器時代
2	縄文時代・弥生時代
3	大和政権から律令国家へ
4	荘園制の成立と武士の登場
5	鎌倉幕府の成立
6	鎌倉時代～モンゴル襲来
7	倭寇と鉄砲伝来
8	戦国社会と天下統一
9	江戸幕府の体制と身分制度
10	江戸時代の政治と社会
11	「鎖国」から開国へ
12	近代国民国家の形成
13	近代国民国家の展開
14	二度の世界大戦
15	まとめ

#### 評価

平常点30点、小テスト・小レポート20点、試験50点とし、総合評価60点以上を合格とする。

#### 授業外学習

【事前予習】皆さんの使った中学校教科書に目を通しておく。

【事後学修】授業で使ったレジュメ・史料プリントを見直す。

#### 教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【教科書】使用しない。授業内でレジュメと史料プリントを配布する。

【推薦書】山本博文ほか『こんなに変わった歴史教科書』（新潮社、2012年）

村岡薫・戸川点・樋口州男・野口華世・武井弘一・藤木正史編『史料が語る新事実 書き換えられる日本史』（小径社、2011年）

【参考図書】なし。

科目名	世界史概説		
担当教員名	長谷川 宜之		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部（J）-教職課程		
学 年	2	ク ラ ス	
開 講 期	後期	必修・選択の別	必修*
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	中学校教諭一種免許状（社会）		

#### ねらい（ 科目の性格 科目の概要 学修目標）

科目の性格：本科目は、中学校社会科教員免許取得のための必修科目であり、「教科に関する科目」の科目区分「日本史及び外国史」に位置づけられる科目である。教科としての社会科を構成する学問領域は幅広く多様であるが、免許法施行規則上の科目区分においては、「地理学」「法律学/政治学」「社会学/経済学」「哲学/倫理学/宗教学」に位置づけられる科目が、当該授業科目と関連する科目として挙げられる。

科目の概要：本科目では、主として「前近代世界」を、「ヨーロッパ」を主たる事例として概観した後、近代移行期、いわゆる「近世社会」の性格について検討し、最終的に「近代国家システム」の歴史的特質とその課題について解説する。具体的には、

- 1) 裁判や租税など、近代国家を支える様々なシステムの形成が歴史における必然ではなかったことについて理解を深める。
- 2) ヨーロッパあるいはアジア世界における、権力秩序の編成原理に関わる豊富な事例を、比較史の視点から紹介することで、現代とは異なる、しかし活力を持った様々な前近代社会についての具体的なイメージを得る。

学修目標： 現代社会が直面する様々な課題について、歴史的に考察する能力を身につける。

#### 内容

第1回：イントロダクション

第2回：[思想]：宗教と社会 ：教会とは何か ヨーロッパ・アジア・イスラーム

第3回：[思想]宗教と社会 ：正統と異端

第4回：[法]紛争と裁き ：自力救済と和解

第5回：[法]紛争と裁き ：近代的訴訟システムの形成

第6回：[財政]富と税金 ：前近代社会における賦課

第7回：[財政]富と税金 ：租税制度の確立

第8回：[国家]アイデンティティと国家 ：「歴史」の誕生

第9回：[国家]アイデンティティと国家 ：ナショナリズムの時代

第10回：[文化]文化とその担い手 ：職人から芸術家へ

第11回：[文化]文化とその担い手 ：パトロン=システムと国家的庇護

第12回：[経済]流通と市場 ：近代以前のグローバリゼーション

第13回：[経済]流通と市場 ：貨幣・商品・関税

第14回：前近代世界から近代的世界へ

第15回：まとめ

## 評価

試験の点数(50%)、内容授業への取り組み・参加度および授業ごとに提出する用紙の記述(50%)を総合的に評価し、60%以上の評価を得たものを合格とする。

## 授業外学習

【事前予習】次回に学習する分野について参考文献を読み、要点をノートに書き出しておく。

【事後学修】毎回授業中に配付する復習用資料を活用し、学習内容を整理する。

## 教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

『中世世界とは何か』『儀礼と象徴の中世』（ともに岩波書店）が主要参考文献である。その他の参考文献等については、授業中に適宜指示する。

科目名	地理学概説		
担当教員名	天井 勝海		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部（J）-教職課程		
学 年	2	ク ラ ス	
開 講 期	前期	必修・選択の別	必修*
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	中学校教諭一種免許状（社会）		

#### ねらい（ 科目の性格 科目の概要 学修目標）

##### 科目の性格

本科目は生活情報学科の2・3年の学生を対象とした教職課程科目の一つに位置付けられた前期に開講される2単位の必修科目である。教職課程の各科目、特に社会科教育法 ・ との関連性を踏まえて学修を進めることが必要である。

##### 科目の概要

中学校や高等学校の学習指導要領を踏まえ、中学校社会科や高等学校地理歴史科の授業展開に必要な地理学の基礎的・基本的な事項を系統地理的考察と地誌的考察をとおして把握する。講義の1～5では地理学や学習指導要領における地理学習の内容を把握し、6～10では地理的事象を系統地理的に考察し、10～14では地誌的に考察を行う。

##### 学修目標（＝到達目標）

- ・ 中学校社会科や高等学校地理歴史科の授業展開に必要な地理学の基礎的・基本的な事項や内容を把握する。
- ・ 中学校社会科や高等学校地理歴史科の授業展開に必要な地理学習の内容の理解を深める。
- ・ 地理学の各分野の内容を踏まえた指導方法や教材開発などを考察し、授業の実践的な指導力や授業力を育成する。

#### 内容

1	「地理学」（地誌を含む）ガイダンス
2	地理学の学問体系とその構成
3	学習指導要領（中学校社会科・高等学校地理歴史科）に示された教科の構造と地理学習
4	中学校社会科における地理的分野の学習内容と方法等
5	高等学校地理歴史科における地理学習の内容と方法等
6	世界の自然環境（1）世界の大地形
7	世界の自然環境（2）世界の気候と気候区分
8	世界の資源と産業（1）世界の農牧業
9	世界の資源と産業（2）世界の鉱工業
10	世界の都市と村落
11	現代世界の地誌（1）アジアの世界
12	現代世界の地誌（2）ヨーロッパの世界
13	現代世界の地誌（3）南北アメリカの世界
14	現代世界の地誌（4）アフリカとオセアニアの世界
15	まとめ

#### 評価

小テストを含めた試験（60％）・発表及びレポート（30％）・作業プリント提出物（10％）とし、総合評価60点以上を合格とする。

合格点に満たなかつた場合は再試験を行う。

## 授業外学習

【事前準備】 学習指導要領を一読し、特に中学校「社会」(第2章第2節)と高等学校「地理歴史」(第2章第2節)は精読し概要を把握しておく。今までに使用した教科書や地図帳等を準備し復習しておく。【事後学修】 授業展開に必要な基礎的事項を把握し、内容の理解が深められたか振り返る。学修内容を踏まえた指導方法や教材開発等を工夫し、社会科教育法や教育実習に生かせるようにすること。

## 教科書・推薦書(著者名・書名・出版社名)

【教科書】 地図帳(高等学校などで使用したものがあればそれでも可)

授業の際に配布されるプリント

【推薦書】 中学校学習指導要領解説 社会編(文部科学省)175円

高等学校学習指導要領解説 地理歴史編(文部科学省)410円

【参考図書】 日本国勢図会2013/14・世界国勢図会2013/14

(共に公益財団法人 矢野恒太記念会編集) 2571円+税

科目名	地誌学概説		
担当教員名	田村 均		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部（J）-教職課程		
学 年	2	ク ラ ス	
開 講 期	後期	必修・選択の別	必修*
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	中学校教諭一種免許状（社会）		

#### ねらい（ 科目の性格 科目の概要 学修目標）

中学校教諭（社会）普通免許状の取得に必要な「地理学（地誌を含む）」の科目。

日本及び世界の諸地域の特色ある地域的事象を中核として、それを歴史的背景や他の事象と有機的に関連づけて動的にとらえるため、日本及び世界の諸地域の地域的特色と今後の動向に関する多面的・多角的な考察を行う。

日本や世界の地理的事象に対する関心を高め、広い視野に立って日本の国土や世界の諸地域の地域的特色を歴史的背景や環境条件、人間の営みなどと有機的に関連付けて多面的・多角的に考察・理解し、地理的な見方や考え方の基礎を培い、動態地誌のアプローチに基づく日本の国土及び世界の諸地域に関する地理的認識を養う。

#### 内容

1	地理学入門
2	地誌学とは何か
3	学習指導要領の改訂と動態地誌
4	動態地誌のアプローチと地域認識
5	動態地誌のアプローチと身近な生活領域
6	世界の諸地域（アジア）
7	世界の諸地域（ヨーロッパ）
8	世界の諸地域（アフリカ）
9	世界の諸地域（北米・中米・南米）
10	日本の諸地域（九州・四国・中国）
11	日本の諸地域（近畿・東海・北陸・甲信越）
12	日本の諸地域（関東・東北・北海道）
13	主題図の作成と地図表現（（1））
14	主題図の作成と地図表現（（2））
15	地域調査法について

#### 評価

小レポート（30%）と期末試験（70%）とし、総合評価60点以上を合格とする。

#### 授業外学習

【事前学習】地図の収集と判読、関連する資料（新聞記事や画像など）の収集・整理を依頼することがあります。

【事後学習】地図及び資料の再整理や、実地のフィールドワークを実施することがあります。

#### 教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【教科書】授業中に必要に応じて推薦・紹介します。

科目名	哲学概説		
担当教員名	田子山 和歌子		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部（J）-教職課程		
学 年	2	ク ラ ス	
開 講 期	前期	必修・選択の別	必修*
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	中学校教諭一種免許状（社会）/高等学校教諭一種免許状（公民）		

#### ねらい（ 科目の性格 科目の概要 学修目標）

- 1) 科目の性格 哲学史（哲学の歴史）を自分で構築するユニークな授業です。
- 2) 科目の概要 西洋哲学史について書かれた複数の高校倫理の教科書を、2,3人のスモールグループで読みくらべ、それぞれの教科書でどのような理解が目指されているかを学びます。次に、哲学者自身の手による哲学的著作（テキスト）を実際に読み、教科書群で語られた内容と比較します。こうした作業から、どのような哲学史理解が得られるかをグループで話し合います。
- 3) 学修目標 哲学史の学習は、しばしば受動的なものとしてとらえがちです。しかし、哲学史の教科書を複数比較すると、同一事項に関しても、様々な記述がなされていることに気づかされます。こうした比較を通して、哲学史を客観的に見る練習をしたいと思います。また、教科書の比較をたたき台にすることで、一見難しいように思われる哲学者の書いた著作にも、興味を持って接することができます。できるだけ、哲学を身近に感じるようにできることが、この授業の目標です。

#### 内容

1	ガイダンス
2	実際に哲学の教科書を読んでみる。デカルト1
3	デカルト2
4	スピノザ、マルブランシュ、ライプニッツ1
5	スピノザ、マルブランシュ、ライプニッツ2
6	ギリシャ哲学1
7	ギリシャ哲学2
8	ギリシャ哲学3
9	キリスト教、ユダヤ教1
10	キリスト教、ユダヤ教2
11	キリスト教、ユダヤ教3
12	中世哲学 トマス・アクイナス、アウグスティヌス1
13	中世哲学 トマス・アクイナス、アウグスティヌス2
14	近代から現代へ
15	総括

#### 評価

平常点を50点、期末試験を50点、計100点として、評価を行う。

#### 授業外学習

【事前予習】事前に配布した参考資料（プリント）に必ず目を通しておいってください。

【事後学修】学習定着のため、事後に再度プリントを見直してください。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

教科書：資料プリントを授業中に配布。

参考資料：授業中に適宜指示。

科目名	倫理学概説		
担当教員名	田子山 和歌子		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部（J）-教職課程		
学 年	2	ク ラ ス	
開 講 期	後期	必修・選択の別	必修*
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	中学校教諭一種免許状（社会） / 高等学校教諭一種免許状（公民）		

#### ねらい（ 科目の性格 科目の概要 学修目標）

##### 科目の性格

本科目は、教員免許法施行規則に定める、中学1種「社会」・高校1種「公民」の「教科に関する科目」中の2単位分（選択科目）に対応する。教職課程のみの特設科目である。

##### 科目の概要

本科目では、高等学校公民科「倫理」・「現代社会」の指導に必要な、思想史の通史を学ぶとともに、高等学校公民科「倫理」の目標・内容と指導法の基礎を学ぶ。

##### 学修目標

本科目の学修目標は以下の3点である。 高等学校公民科「倫理」の構成内容を理解する。 「倫理」の授業展開のための指導案を作成できるようになる。 「倫理」の実際の授業を行う技能を身につけることができる。

#### 内容

1	高等学校公民科「倫理」における「先哲学習」の位置づけについて
2	古代ギリシアの思想 初期キリスト教の成立と展開
3	初期イスラム教の成立と展開
4	初期仏教の成立と展開
5	奈良時代における仏教受容 平安仏教と鎌倉仏教
6	諸子百家の思想 朱子学と陽明学
7	日本における朱子学の受容と封建教学の形成
8	イギリス経験論と大陸合理論
9	ドイツ観念論哲学
10	功利主義と実存主義
11	近代日本における西洋思想の受容
12	「倫理」指導案の作成
13	先哲学習における資料活用の方法
14	模擬授業の実施
15	模擬授業の実施をうけた授業分析

#### 評価

平常点50：指導案作成および模擬授業50の比率で評価（100点満点）し、合計60点以上を合格とする。合格点に満たなかった場合には「再試験」を行う。

#### 授業外学習

【事前予習】事前に配布された参考資料（プリント）はかならず目を通しておいてください。

【事後学修】学習の定着のために、事後に参考資料（プリント）は見直してください。

#### 教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【テキスト】文部科学省『高等学校学習指導要領』および『公民科解説書』、「倫理」・「現代社会」の検定済み教科書をテキストとして使用するが、これらについては各授業でプリントを配布する。

【参考図書】授業中に適宜指示するか、参考資料としてプリントを配布する。

科目名	基礎栄養学		
担当教員名	佐々木 菜穂		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部（J）-教職課程		
学 年	1	ク ラ ス	
開 講 期	前期	必修・選択の別	必修*
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	養護教諭一種免許状 / 高等学校教諭一種免許状（保健） / 中学校教諭一種免許状（保健）		

#### ねらい（ 科目の性格 科目の概要 学修目標）

この科目は、養護教諭一種免許を取得するための必修講義科目です。養護教諭が生徒の健康管理を行う上で必要な栄養学の基礎を学修します。

この授業では栄養の概念、ヒトが生きていくために必要な栄養素の種類と消化・吸収・代謝、生理機能について学修します。また、健康の保持・増進と疾病予防における栄養の役割を学び、適切な食生活の理解を深めます。

学修目標は1. 栄養素の性質や機能に関する基礎知識を得ることができる、2. 健康の保持・増進と疾病の一次予防における食の重要性を理解することができる、3. 成長期における心身の健康の保持増進の上で望ましい栄養や食事のあり方を理解することができる、の3点です。

#### 内容

1	栄養の概念・栄養と健康
2	栄養素の消化・吸収
3	糖質の代謝
4	糖質の働き
5	タンパク質の代謝
6	タンパク質の働き
7	脂質の代謝
8	脂質の働き
9	ビタミンの栄養
10	ミネラルの栄養
11	水・電解質の栄養的意義
12	エネルギー代謝
13	日本人の食事摂取基準と食事バランスガイド
14	幼児期・学童期・思春期の栄養学
15	まとめ

#### 評価

レポート30点、ペーパーテスト60点、授業態度10点により評価を行い、総合評価60点以上を合格とします。学則に従い、3分の2以上出席することで評価を受けることができます。

#### 授業外学習

【事前予習】事前に教科書を読み、授業内容を把握してください。日頃から食に関心をもって生活してみましょう。

【事後学修】教科書や授業で配布したプリントをもとに、ノートをまとめましょう。

#### 教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【教科書】杉山英子・小長谷紀子・里井恵子 著「基礎栄養学 食生活と健康について考えるための基礎」化学同人

【参考図書】池本真二・稲山貴代 編著「食事と健康の科学」建帛社

科目名	解剖生理学		
担当教員名	池川 繁樹		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部 (J) - 教職課程		
学 年	1	ク ラ ス	
開 講 期	後期	必修・選択の別	必修*
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	養護教諭一種免許状 / 高等学校教諭一種免許状 (保健) / 中学校教諭一種免許状 (保健)		

#### ねらい ( 科目の性格 科目の概要 学修目標 )

解剖生理学では人体のしくみについて構造と機能という観点から理解することを目的とする。解剖学では人体の構造、生理学では機能を学ぶというおおまかな分類がある。しかし、両者は切り離して理解することはできない。本講義ではヒトが生きるための体の構造と機能そしてその関連に重点をおいて学ぶ。

#### 内容

1. 人体の構造 ( 組織、器官など )
2. 骨格系の構造と機能
3. 筋系の構造と機能
4. 筋系の構造と機能
5. 循環系の構造と機能
6. 循環系の構造と機能
7. 消化系の構造と機能
8. 消化系の構造と機能
9. 呼吸器系の構造と機能
10. 呼吸器系の構造と機能
11. 神経系の構造と機能
12. 神経系の構造と機能
13. 環境と人体の構造と機能
14. 環境と人体の構造と機能
15. まとめ

#### 評価

まとめのレポート 50 点、各回ごとの小レポート 20 点、通常の授業態度 30 点により評価を行い、60 点以上を合格とする。三分の二以上出席することで評価を受けることができる。合格点に満たなかった場合は再レポートを行う。

#### 授業外学習

【事前予習】どのような内容のことを学ぶのか教科書を予め読んでおく (45分)。

【事後学修】講義時に学んだことを思い出し、教科書やメモにもう一度見直す (45分)。

#### 教科書・推薦書 ( 著者名・書名・出版社名 )

授業時に指示

科目名	解剖生理学特論		
担当教員名	松本 晃裕		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部（J）-教職課程		
学 年	1	ク ラ ス	
開 講 期	前期	必修・選択の別	必修*
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	養護教諭一種免許状 / 高等学校教諭一種免許状（保健） / 中学校教諭一種免許状（保健）		

ねらい（ 科目の性格 科目の概要 学修目標）

#### 科目の性格

医学や医療に関する急速な進歩に伴い、医療を必要とする職種において、広範囲な医療知識と高度な専門技術が求められています。解剖生理学という人体の解剖学とその生理学的機能を理解し、また病的な状態を学ぶことにより、医学の基本知識を身につける講座です。

#### 科目の概要

基本的な人体の仕組みと機能を理解し、健康な状態が維持できない病的な状態について学習します。すなわち解剖生理学を基礎として、糖尿病、肥満、高血圧、脂質異常症などの生活習慣病や、さらに心疾患、呼吸器疾患、消化器疾患などの様々な疾患についても解説します。

#### 学修目標（＝到達目標）

生活習慣病などの様々な疾患を理解できるようになります。

内容	
1	疾患による細胞、組織の変化 疾患の診断
2	疾患の治療 臨床検査
3	糖代謝とその異常
4	脂質代謝・蛋白質代謝とその異常
5	栄養障害 摂食障害
6	消化管および肝、胆道、膵臓疾患
7	循環障害と循環器疾患
8	脳血管障害と神経疾患
9	腎・尿路疾患
10	内分泌疾患
11	骨代謝と筋・骨格疾患・呼吸器疾患
12	血液疾患
13	免疫・アレルギー疾患・小児疾患
14	スポーツにおける外傷 熱中症
15	まとめ

#### 評価

レポートと授業態度を合わせた平常点(30点)、試験(70点)により評価を行い、総合評価60点以上を合格とする。

#### 授業外学習

【事前予習】教科書などを使っての学習

【事後学修】授業内容を教科書などを参考にしながら復習

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【教科書】伊藤節子 編 『臨床病態学』 化学同人 2009

【参考図書】森 三樹雄編 『やさしい臨床検査医学』改訂2版 南山堂 2008

科目名	学校保健		
担当教員名	齋藤 千景		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部 (J) - 教職課程		
学 年	1	ク ラ ス	
開 講 期	後期	必修・選択の別	必修*
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	養護教諭一種免許状 / 高等学校教諭一種免許状 (保健) / 中学校教諭一種免許状 (保健)		

ねらい ( 科目の性格 科目の概要 学修目標 )

教職職員免許法施行規則による養護教諭の免許に必要な「養護に関する科目」に位置づけられる。学校教育における学校保健の意義、学校保健の仕組みや基礎的事項について理解することを目指す。学校保健において大きな役割を持つ養護教諭の活動について重点をおいて講義を行う。学修目標として 学校教育における学校保健の意義や機能について理解する。 学校保健における基礎的事項について理解する。 学校保健における養護教諭の役割を理解する。

内容	
1	学校保健の意義と関連法規について
2	学校における疾病管理の実際について
3	慢性疾患のある児童生徒の疾病管理について
4	学校において予防すべき感染症について
5	学校における感染症の対応について
6	学校環境衛生の目的について
7	学校環境衛生の基準について
8	学校環境衛生の実施について
9	心身の健康課題への対応について
10	心身の健康課題への対応について
11	保健室経営と保健室経営計画について
12	学校における保健組織活動について
13	学校安全計画と安全管理について
14	学校給食について
15	まとめ

## 評価

筆記試験(小テストを含む)7割、レポート2割、通常の授業態度1割により評価し、60点以上を合格とする。

## 授業外学習

【事前予習】 次回の内容について課題を出す。 1 時間程度の予習が必要である。

【事後学修】 1 時間程度のまとめ ( 復習 ) が必要である。

## 教科書・推薦書 ( 著者名・書名・出版社名 )

テキスト：養護教諭のための学校保健<第11版> 出井美智子他 少年写真新聞社

推薦書：授業中に適宜示す

科目名	児童生徒の精神保健		
担当教員名	鷓木 恵子		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部（J）-教職課程		
学 年	3	ク ラ ス	
開 講 期	前期	必修・選択の別	必修*
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	養護教諭一種免許状 / 高等学校教諭一種免許状（保健） / 中学校教諭一種免許状（保健）		

#### ねらい（ 科目の性格 科目の概要 学修目標）

##### 科目の性格

養護教諭 1 種免許取得のための科目である。「精神保健」の科目区分にあり、「精神保健概論」との関連が強い。

##### 科目の概要

児童生徒を対象とした精神保健を考える際に、発達上の変化を加味した理解が必要である。成人以上に診断や評価が難しいが、早期のサインを見逃さずに適切に対処することで、重症化することなく、また二次障害を生じることなく、本人の潜在的な可能性を十分に伸ばすことが可能である。養護教諭としての関わり方といった視点から事例を交えて学ぶ。

##### 学修目標（ = 到達目標）

- ・ 児童期・青年期に生じる代表的な発達障害・精神疾患について理解する。
- ・ 養護教諭としての関わり方を理解する。

#### 内容

1	児童生徒の精神保健の現在
2	注意欠陥多動性障害とは
3	注意欠陥多動性障害への対応
4	学習障害とは
5	学習障害への対応
6	自閉症スペクトラム障害とは
7	自閉症スペクトラム障害への対応
8	中間試験
9	心的外傷後ストレス障害とは
10	心的外傷後ストレス障害への対応
11	児童虐待とは
12	児童虐待への対応
13	事例検討 1
14	事例検討 2
15	まとめ

#### 評価

中間試験50点、期末試験50点とし、総合評価60点以上を合格とする。

#### 授業外学習

【事前予習】事前に指定した資料を読んでくる

【事後学修】各回に提示する課題に取り組む

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【教科書】指定しない

【推薦書】

【参考図書】授業で適宜紹介する

科目名	食生活論		
担当教員名	岩本 珠美		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部 (J) - 教職課程		
学 年	2	ク ラ ス	
開 講 期	前期	必修・選択の別	選択, 選必
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	高等学校教諭一種免許状 (家庭) / 中学校教諭一種免許状 (家庭)		

#### ねらい ( 科目の性格 科目の概要 学修目標 )

##### 科目の性格

本科目は中学校教諭一種免許状 (家庭) の教科に関する科目・食物学の選択必修科目, 高等学校教諭一種免許状 (家庭) の教科に関する科目・食物学の選択科目に位置づけられている。

##### 科目の概要

現代社会では, 健康・食事に対する考え方や価値観は多様化し, テレビや新聞, 雑誌などは健康や栄養, 料理, 健康食品などに関する情報を競って提供している。その一方では, 生活習慣が原因と考えられる疾病の罹患者の増加が問題となっている。そこで, 社会の仕組みとの関わりの中で, 健康の保持増進を図るための食生活はいかにあるべきかを考える。食生活の在り方を規定している要因や食生活の現状と問題点, 食と健康, ライフサイクルと食生活等について学ぶ。

##### 学修目標

1. 食生活の構造を理解し, 現代における食生活の課題を説明することができる。
2. 食べ物と栄養を理解し, バランスのよい食事を提案することができる。
3. ライフサイクルに適した食生活を説明することができる。
4. 現代の食生活環境を理解し, 今後の食生活のあり方を考えることができる。

#### 内容

1	食生活の構造と食生活に影響を与える要因, 食生活の変遷
2	食生活の現状と課題
3	食生活と健康
4	食べ物のおいしさと健康
5	食の機能と役割 (1) 主食, 主菜の食べ物と栄養
6	食の機能と役割 (2) 副菜の食べ物と栄
7	食の機能と役割 (3) 食事のバランスと評価
8	ライフサイクルと食生活 (1) 乳幼児期, 幼児期の栄養と食生活
9	ライフサイクルと食生活 (2) 学童期, 思春期の栄養と食生活
10	ライフサイクルと食生活 (3) 成人期, 母性の栄養と食生活
11	ライフサイクルと食生活 (4) 高齢期の栄養と食生活
12	生体リズムと食生活
13	食生活と環境
14	これからの食生活
15	まとめ

#### 評価

レポート (30%), 筆記試験 (70%) により評価し, 60点以上を合格とする

## 授業外学習

【事前予習】授業で実施する内容について事前に教科書を読む。

【事後学修】授業で配布したプリントおよび教科書の要点をノートにまとめる。授業で出された課題を行う。

## 教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【教科書】加藤秀夫，三好康之，他編『まるごと学ぶ食生活と健康づくり』 化学同人

【推薦書】遠藤金次，橋本慶子，今村幸生編『食生活論「人と食」のかかわりから 改訂第2版』  
南江堂

科目名	生徒指導		
担当教員名	柏葉 修治		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部（J）-教職課程		
学 年	3	ク ラ ス	
開 講 期	前期	必修・選択の別	必修*
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	栄養教諭一種免許状		

#### ねらい（ 科目の性格 科目の概要 学修目標）

##### 科目の性格

この科目は、栄養教諭になるための教職科目の1つで、必修科目である。

##### 科目の概要

生徒指導の意義・目的、課題、内容、方法等について、理解を深めることを目的とする。

##### 学修目標（＝到達目標）

この授業を通じて、教師として行うべき生徒指導について、その意味、意義・重要性、指導内容、教育課程との関連性が深まり、指導の組織と計画、生徒理解の方法、進路指導等についての実践力が身につく。そのためにも、毎回、授業に出席し、しっかりと授業に積極的にかつ真剣に取り組むことが大切である。

#### 内容

1	1.はじめに（生徒指導の意義と課題）
2	2．教育課程における生徒指導の位置づけ、生徒指導の前提となる発達観と指導観
3	3．集団指導・個別指導の方法原理、学校運営と生徒指導
4	4．教育課程と生徒指導
5	5．児童生徒の心理と児童生徒理解
6	6．学校における生徒指導体制
7	7．生徒指導における教職員の役割、基本的な生活習慣の確立
8	8．児童生徒の安全に関わる問題
9	9．問題行動の早期発見と効果的な指導、発達に関する課題と対応
10	10．問題行動の対処や命の教育の実践方法
11	11．生徒指導に関する法制度等
12	12．地域社会における児童生徒
13	13．学校を中心とした過程・地域・関係機関等との連携
14	14．社会の形成者としての資質の涵養に向けて
15	まとめ

#### 評価

授業中に課す課題への取り組みに対する授業態度（15％）、レポート（15％）、筆記試験（70％）、さらに2 / 3以上出席を必須条件とし、総合評価60点以上を合格とする。

#### 授業外学習

【事前予習】基本的には使用テキストを活用した授業であるが、1時間以上はそのテキストを事前に読み込んでおくこと。

【事後学修】授業で扱った箇所を重点的に1時間以上は復習することが望ましい。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【教科書】「生徒指導提要」平成22年3月 文部科学省

【推薦書】「現場で役立つ生徒指導実践プログラム」新井肇 編著 学事出版

【参考図書】教室で紹介する

科目名	養護教諭実践論		
担当教員名	松野 智子		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部（J）-教職課程		
学 年	3	ク ラ ス	
開 講 期	後期	必修・選択の別	必修*
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	養護教諭一種免許状		

ねらい（ 科目の性格 科目の概要 学修目標）

科目の性格

養護教諭の職務とされている保健管理を効果的に容易に実践できる資質を担保するために、これまで学んだ知識を基盤にしなが、必要となる実際的な事柄について作成する、あるいは計画すること等について具体的に体験して学ぶものである。

科目の概要

学校教育法や学校保健安全法等に基づいた方法および技術的基準、事後処理等に関する具体的な方法、さらには保健管理をする上で必要となる計画等の作成方法について演習による体験学習をするものである。

学修目標（＝到達目標）

養護教諭の職務内容に基づいて、その具体的な方法や作成方法について学び、それぞれの方法等の留意点や活用方法を習得するものである。

内容	
1	学校保健計画の根拠とその留意点について
2	学校保健計画及び評価計画の実際
3	定期健康診断実施計画立案時の留意点とその実際
4	定期健康診断実施方法及び技術的基準とその実際(1) (測定項目)
5	定期健康診断実施方法及び技術的基準とその実際(2) (検診項目)
6	定期健康診断実施方法及び技術的基準とその実際 (3) (検診事前調査)
7	定期健康診断事後処理の実際
8	健康観察の留意点とその実際
9	保健室経営計画立案時の留意点について
10	保健室経営計画立案の実際
11	学校環境衛生検査の実際と学校薬剤師との連携について
12	学校医、学校歯科医、検査機関との連携について
13	「保健だより」作成の留意点について
14	「保健だより」作成の実際
15	まとめ

評価

レポートおよび資料作成の提出と内容7割、演習への取組態度3割、60点以上を合格とする。

合格点に満たない場合は「再試験」を実施する。

## 授業外学習

【事前予習】 3年次前期までに履修した専門科目を中心に、その概要を確認しておくこと。

【事後学修】 これまでの学習してきた内容に、その都度内容を追加しながら、ポイントを理解すること。

## 教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【教科書】 「養護概説」 采女智津江他 少年写真新聞社

「学校保健の課題とその対応」 公益法人日本学校保健会

「学校保健実務必携」 学校保健・安全実務研究会 第一法規株式会社

【推薦書】 必要に応じて随時紹介する

【参考図書】

科目名	教職演習		
担当教員名	齋藤 千景		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部 ( J ) - 教職課程		
学 年	2	ク ラ ス	
開 講 期	後期	必修・選択の別	選必
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	養護教諭一種免許状		

ねらい ( 科目の性格 科目の概要 学修目標 )

教職職員免許法施行規則による養護教諭の免許に必要な「養護に関する科目」に位置づけられている「学校保健」の科目を中心に、これまで学んできた知識を基礎に据え、不足している知識を補いつつ、具体的な実施方法について演習を取り入れながら、養護教諭として求められる能力の向上を目指すものである。学修目標は これまで学んだ知識と技術を確認する。具体的な諸活動を立案し実践することができる。

内容	
1	学校で予防すべき感染症について
2	学校における感染症の対応について
3	アレルギー疾患の理解と学校における対応について
4	保健学習について
5	保健指導と教科保健の特質について
6	保健指導の進め方について
7	保健指導の実際と評価について
8	学校における保健組織活動について
9	保健室経営と保健室経営計画について
10	保健室経営計画の実際と評価について
11	学校環境衛生の目的と法的根拠について
12	学校環境衛生基準と測定方法について 1
13	学校環境衛生基準と測定方法について 2
14	学校安全と危機管理について
15	まとめ

評価

筆記試験 ( 小テストを含む ) 9 割、通常の授業態度 1 割により評価し、60 点以上を合格とする。

授業外学習

- 【事前予習】毎授業時に次の予習のための課題を出す。1 時間程度の予習が必要である。
- 【事後学修】授業で学習した内容をまとめるために 1 時間程度の復習が必要である。

教科書・推薦書 ( 著者名・書名・出版社名 )

- 教科書：新養護概説<第7版>編集代表 采女智津江 少年写真新聞社
- 推薦書：授業中に適宜示す

科目名	教職演習		
担当教員名	齋藤 千景、松野 智子		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部（J）-教職課程		
学 年	3	ク ラ ス	
開 講 期	前期	必修・選択の別	選必
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	養護教諭一種免許状		

ねらい（ 科目の性格 科目の概要 学修目標）

人類共通の課題として国際理解、環境問題、福祉・健康・家族関係等があげられる。これらの中から養護教諭として担保しておかなければならない近年の課題について、これまでの履修科目では触れられなかった事項について、複数の教員の専門分野から指導を受け、児童生徒の健康の保持増進と健全育成を目指すものである。

学修目標は、随時配布する資料によりその内容を理解するとともに、これまで習得した知識との関連を持たせながら、授業内容の振り返り、ノートの整理をすることで、より理解を深め、養護教諭としての資質能力を高める。

内容	
1	教育関係法令と教育行政について
2	子どもの発育・発達・生活行動について
3	子どもの抱える心の問題と心のケアについて
4	健康診断の工夫について
5	学校環境衛生について
6	不登校・保健室登校について
7	不登校・保健室登校における養護教諭の役割について
8	児童虐待について
9	児童虐待における養護教諭の役割について
10	地域社会における関係機関について
11	子どもを取り巻く健康課題について
12	保健指導の機会とそのとらえ方について
13	喫煙・飲酒防止教育について
14	薬物乱用教育について
15	まとめ

評価

レポート、資料作成を5割、授業に対する意欲・関心・態度を5割とし60点以上を合格とする。

授業外学習

【事前予習・事後学修】

学校保健・養護概説の学修を前提として授業を進める。各自で学校保健，養護概説を復習したのちに授業に参加する必要がある。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

科目「養護概説」における教科書を使用する。その他必要に応じて、授業時に指示する。

科目名	教職演習		
担当教員名	齋藤 千景、増田 吉史		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部（J）-教職課程		
学 年	3	ク ラ ス	
開 講 期	後期	必修・選択の別	選必
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	養護教諭一種免許状		

#### ねらい（ 科目の性格 科目の概要 学修目標 ）

教育職員免許法施行規則による養護教諭の免許取得に必要な「養護に関する科目」に位置づけられている「養護概説」の科目を中心に、これまで学んできた知識を基盤に据え、不足している知識を補いつつ、具体的な実施方法について演習を取り入れながら、養護教諭としての求められる能力の向上を目指すものである。

学修目標は、 これまでに学んだ知識と技術の確認、 いかなる条件下においてもこれまで習得した教職関係及び心理学関係の知識を活用し、養護教諭としての的確な判断のによる対応能力の育成。

#### 内容

1	養護教諭の専門領域における職務内容について【齋藤】
2	学校教育と学校保健について【増田】
3	学校教育と関連法規等について【増田】
4	学校組織の理解について【増田】
5	学校保健と関連法規等について【増田】
6	学校保健関係者とその連携（校内連携）について【増田】
7	学校保健関係者とその連携（校外連携）について【増田】
8	アレルギー疾患をもつ児童生徒の保健管理について【齋藤】
9	学校歯科保健への取組方法について【齋藤】
10	危険等発生時対処要領の内容としての心のケアについて【齋藤】
11	危機管理の一環としての救急体制について【齋藤】
12	事件・事故災害等における養護教諭の役割について【齋藤】
13	学校保健にかかわる諸帳簿の整理と管理について【齋藤】
14	子どもの心身の健康に関する諸統計の理解と活用方法について【齋藤】
15	まとめ【齋藤】

#### 評価

レポート等提出7割、通常の授業態度3割 60点以上合格とする。

#### 授業外学習

【事前予習】【事後学修】1．2年，3年前期の教職科目の学修を前提に授業を行う。各自で復習をして授業に臨む必要がある。

#### 教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

- ・采女智津江他 「新養護概説」少年写真新聞社
- ・学校保健・安全実務研究会編著 「学校保健実務必携」 第一法規
- ・その他必要に応じて授業時に指示する

科目名	食品学		
担当教員名	増沢 光信		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部（J）-教職課程		
学 年	2	ク ラ ス	
開 講 期	後期	必修・選択の別	必修*
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	養護教諭一種免許状		

## ねらい（ 科目の性格 科目の概要 学修目標）

### 科目の性格

この科目は教職課程の必須科目で、養護教諭免許を取得する上で必要な科目である。食品学総論の基幹部分である食品成分表並びにそこに取り上げられている各食品成分について学修し、食品とは何かを理解する。

### 科目の概要

食品と栄養、食品の機能及び分類など食品の基礎的なことを先ず説明する。そして食品の栄養素、特に基本となる水分、タンパク質、脂質、炭水化物、ミネラル、ビタミンについて要点を整理して説明し、併せて食品の消化吸収及び日本食品標準成分表の読み方などについて学修する。さらに、食品の新しい機能について解説し、保健機能食品制度についても学修する。

### 学修目標（＝到達目標）

基本的には教科書に沿って説明するが、教科書を離れて関連事項を補足的に説明する。その時には別途資料「授業の要点」を配布する。授業は黒板に要点を書きながら説明する。教科書、資料及びノートをよく整理して理解する。

## 内容

1. 食品とは何か、食品と栄養、食品の機能について
2. 食の歴史的変遷、食物連鎖、食生活と健康、食嗜好の形成、食糧と環境について
3. 食品の安全安心の確保とその具体的取り組みについて
4. 食品の第三次機能と機能性食品
5. 特別用途食品及び保健機能食品制度について
6. 食品成分、食品の分類及び日本食品標準成分表について
7. 食品中の水の状態と役割について
8. 食品成分の基本的性質 1 タンパク質について
9. 食品成分の基本的性質 2 脂質について
10. 食品成分の基本的性質 3 炭水化物について
11. 食品成分の基本的性質 4 灰分と無機質について
12. 食品成分の基本的性質 5 ビタミンについて
13. 食品の消化吸収とエネルギーについて
14. 食品の表示と食品に関する法律について
15. まとめ

## 評価

授業終了後ペーパーテスト（70%）及び中間点でのレポート（30%）により60点以上を合格点として評価する。合格点に満たない場合は再試験をおこなう。

## 授業外学習

【事前予習】教科書及び配布プリントの学修予定個所（毎週授業後に指定）に目を通しておくこと（30分）

【事後学修】学修した個所（教科書、配布プリント、黒板にて説明したこと及び自分のメモ）をよく見返して理解を深め、質問事項などをピックアップしておくこと（60分）

## 教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

### 【教科書】

青柳靖夫、筒井知己著「標準食品学総論」第2版、医歯薬出版株式会社を使用する。

科目名	栄養教諭実践論		
担当教員名	井上 久美子、益子 京子		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部（J）-教職課程		
学 年	3	ク ラ ス	
開 講 期	前期	必修・選択の別	必修*
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	栄養教諭一種免許状		

#### ねらい（ 科目の性格 科目の概要 学修目標 ）

**科目の性格** この科目は、栄養教諭一種免許状を取得するために必要となる科目です。管理栄養士国家試験受験資格取得のための学習を前提として、小・中学校において児童・生徒へ食育を実施する栄養教諭（教職免許）に必要な基礎的な内容を学びます。

**科目の概要** 近年、児童・生徒の食生活の乱れが深刻化し、メタボリックシンドローム予備群の増加が懸念されています。栄養教諭が学校において食に関する指導を行い、児童・生徒が自ら望ましい食習慣を身につけるように育む食育は重要であり、そのために熟知しておくべき制度や背景など基礎的な内容を学習します。

**学修目標** （１）栄養教諭の役割および職務内容について理解する （２）幼児、児童・生徒の栄養に係わる課題を理解する の2点とします。

#### 内容

1	栄養教諭とは
2	児童・生徒の栄養の指導及び管理の意義
3	児童・生徒の栄養指導及び管理の現状と課題
4	児童・生徒の食事に関する実態把握及び分析等の必要事項
5	栄養教諭の職務内容
6	栄養教諭の使命、役割
7	学校給食の意義
8	学校給食の役割
9	食生活に関する歴史
10	児童・生徒の栄養の指導及び管理に係わる社会事情
11	児童・生徒の栄養の指導及び管理に係わる諸制度
12	児童・生徒の栄養の指導及び管理に係わる法令
13	国民、特に児童・生徒に関わる栄養問題
14	食事及び食物の文化的事柄
15	まとめ

#### 評価

学則に従い、3分の2以上出席していることで評価を受けることができます。毎回のレポート30点及びペーパーテスト70点により評価を行い、60点以上を合格とします。

#### 授業外学習

【事前予習】教科書〔栄養教諭のための学校栄養教育論 補訂〕の はじめに と 目次 を読み、また各回の該当する章を、事前に読んでおきましょう。

【事後学修】該当する項目についてノートを整理・作成し、さらに学校での事例報告などを検索して、一つでも多くの事例

をみましょう。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【教科書】笠原賀子編著 〔栄養教諭のための学校栄養教育論 補訂〕 医歯薬出版

【教科書】文部科学省 〔小学校学習指導要領・中学校学習指導要領〕

【推薦書】川戸喜美枝編著 〔栄養教諭は何をすべきか - 豊かな心と丈夫な体を育てる食の教育 - 〕（株）ぎょうせい

科目名	栄養教諭実践論		
担当教員名	井上 久美子、益子 京子		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部（J）-教職課程		
学 年	3	ク ラ ス	
開 講 期	後期	必修・選択の別	必修*
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	栄養教諭一種免許状		

#### ねらい（ 科目の性格 科目の概要 学修目標 ）

**科目の性格** この科目は、栄養教諭一種免許状を取得するために必要な科目であり、3年次前期に「栄養教諭実践論」で学習した内容を基礎とし、前提となる管理栄養士養成のための学びを加えて、具体的に応用・展開して児童・生徒へ指導する方法等を学んでいきます。

**科目の概要** 栄養教諭の職務内容は「学校給食管理」と「食に関する指導」です。給食を生きた教材とする学校現場での食育活動の実際を学び、さらに自ら指導案と教材・資料等を作成して、授業運営の模擬を行っていきます。

**学修目標は、**（ 1 ）食に関する指導方法の理解 （ 2 ）食に関する指導のための指導案、教材・資料の作成法の理解 （ 3 ）食に関する指導の模擬体験による授業運営法の理解 とします。

内容	
1	「食に関する指導」の位置づけを理解する
2	学校全体で取り組む食に関する指導にかかる全体的な指導計画の作成
3	給食の時間における食に関する指導
4	家庭科、技術・家庭科における食に関する指導
5	体育科、保健体育科における食に関する指導
6	道徳、特別活動における食に関する指導
7	生活科、総合的な学習の時間における食に関する指導
8	食物アレルギー、肥満傾向などの個別指導のあり方
9	演習1 食生活学習教材・食に関する指導参考資料を活用した食に関する指導
10	演習2 食に関する指導の指導案作り
11	演習3 作成した指導案の発表，相互批評など
12	演習4 模擬授業、指導効果の評価
13	学校、家庭が連携した食に関する指導
14	学校、地域（保健所、保健センター、食生活改善推進委員会）が連携した食に関する指導
15	まとめ

#### 評価

学則に従い、3分の2以上出席していることで評価を受けることができます。毎回のレポートや課題発表等50点及びペーパーテスト50点により評価を行い、60点以上を合格とします。

#### 授業外学習

【事前予習】教科書〔栄養教諭のための学校栄養教育論 補訂〕の該当する章を、事前に読んでおきましょう。

【事後学修】該当する項目についてノートを整理・作成し、さらに学校での事例報告などを検索して、一つでも多くの事例

をみましょう。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【教科書】笠原賀子編著 〔栄養教諭のための学校栄養教育論 補訂〕 医歯薬出版

【教科書】文部科学省 〔小学校学習指導要領・中学校学習指導要領〕

【推薦書】川戸喜美枝編著 〔栄養教諭は何をすべきか - 豊かな心と丈夫な体を育てる食の教育 - 〕（株）ぎょうせい

科目名	知的障害の心理・生理・病理		
担当教員名	阿子島 茂美、榊原 洋一、岩井 雄一		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部（J）-教職課程		
学 年	1	ク ラ ス	
開 講 期	後期	必修・選択の別	必修*
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	特別支援学校教諭一種免許状		

#### ねらい（ 科目の性格 科目の概要 学修目標）

特別支援教育の中の知的障害の心理・生理・病理について基礎的な知識を学びます。講義では知的障害の発生要因・定義・分類・評価法・診断・病理等について事例を取り上げながら理解を深めます。学修目標は 知的障害の基礎を理解することができること 知的障害児の教育的ニーズと支援方法を理解することができることです。

#### 内容

- 第 1 回：知的障害の医学的要因
- 第 2 回：知的障害の生理と病理
- 第 3 回：知的障害の精神と行動
- 第 4 回：知的障害の知的機能
- 第 5 回：知的障害の早期発見と療育
- 第 6 回：知的障害（肢体不自由・病弱）の定義・診断・分類
- 第 7 回：知的障害（肢体不自由・病弱）に関連する諸障害の特性
- 第 8 回：知的障害（肢体不自由・病弱）のアセスメント
- 第 9 回：知的障害（肢体不自由・病弱）の心理的特性
- 第 1 0 回：知的障害と認知特性
- 第 1 1 回：知的障害と記憶・学習
- 第 1 2 回：知的障害とソーシャルスキル
- 第 1 3 回：知的障害（肢体不自由・病弱）の療育
- 第 1 4 回：知的障害（肢体不自由・病弱）の学校における支援体制、関係諸機関との連携
- 第 1 5 回：知的障害（肢体不自由・病弱）における地域との連携

#### 評価

試験による評価70% 中間レポートによる評価 20% 平常の参加度の評価 10%です。 60点以上を合格とします。合格点に満たなかった場合「再試験」を実施します。

#### 授業外学習

- 【事前予習】知的障害の定義・診断・分類を調べておくこと。
- 【事後学修】知的障害児の教育的ニーズと支援方法をまとめること。

#### 教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

テキスト

使用しません。

#### 参考書・参考資料等

独立行政法人 国立特別支援教育総合研究所 特別支援教育の基礎・基本 ジアース教育新書

吉田昌義 鳥居深雪 著 特別支援教育基礎論 放送大学教育振興会 NHK出版

下司昌一編集「現場で役立つ特別支援教育ハンドブック」日本文化社

科目名	肢体不自由の心理・生理・病理		
担当教員名	吉川 知夫、榊原 洋一		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部（J）-教職課程		
学 年	1	ク ラ ス	
開 講 期	後期	必修・選択の別	必修*
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	特別支援学校教諭一種免許状		

#### ねらい（ 科目の性格 科目の概要 学修目標）

肢体不自由児はその起因疾患や病態、心理的な発達特性に関してきわめて多様で個人差がある。個に応じた指導を展開するには、肢体不自由児の障害や発達実態について医学、心理学等多角的な視点から把握する必要がある。

本授業では、肢体不自由教育に携わる際に必要となる基礎知識を習得することを目的として、肢体不自由の起因疾患と病態について概説する。また、運動発達や認知発達、社会性、コミュニケーション発達を中心に肢体不自由が子どもの発達に及ぼす影響について概説し、教育実践上の問題を具体的に検討する。

学修目標は、 主要な肢体不自由の起因疾患と病態について理解すること、 肢体不自由児の発達について多面的に理解すること、 社会的視点から関係領域と連携した発達支援を理解することの3点である。

#### 内容

1	運動機能の発達と運動障害の発生
2	肢体不自由の起因疾患と病態の特徴
3	脳性まひ等の脳障害にみられる随伴障害
4	肢体不自由者の生命・健康問題と医学的ケア
5	脳性まひの生活態様と二次的障害の防止
6	障害と環境（ICFを中心にして）
7	肢体不自由児の心理的特性の理解 1
8	肢体不自由児の心理的特性の理解 2
9	肢体不自由と認知発達
10	肢体不自由と社会性の発達
11	肢体不自由と言語・コミュニケーションの発達
12	肢体不自由者の障害受容のプロセス 1（途中障害と先天性障害）
13	肢体不自由者の障害受容のプロセス 2（途中障害と先天性障害）
14	肢体不自由児の保護者の心理理解とその対応
15	まとめ

#### 評価

学修目標に関するレポート（30点）、筆記試験（30点）、毎回のリアクションペーパー（20点）、通常の受講時の態度（20点）を加味して総合的に評価する。60点以上を合格とする。

#### 授業外学習

【事前予習】関連する文献等を読んでおくこと。

【事後学修】授業時に出題する課題について調べ、理解を深めること。

#### 教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【教科書】特に指定しない。

【その他】必要に応じて授業で紹介する。毎回授業時に関係資料を配付する。

科目名	病弱の心理・生理・病理		
担当教員名	坂田 紀行、榊原 洋一		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部（J）-教職課程		
学 年	1	ク ラ ス	
開 講 期	後期	必修・選択の別	必修*
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	特別支援学校教諭一種免許状		

ねらい（ 科目の性格 科目の概要 学修目標）

#### 科目の性格

この科目は教員免許（特別支援学校）資格取得のために必要な科目で、その中で病弱教育の基礎的理論を学ぶことになります。

#### 科目の概要

授業は講義形式により、心理・生理・病理について理解を深め、実際の子どもの学習や生活の場面を映像（DVD）で視聴し、指導への応用を学びます。特に心理的な対応の基本を深めます。機会があれば特別支援学校（病弱校）を見学します。

#### 学修目標

- ・病弱者の認知、言語、社会性、知能などの一般的な特性、実態について説明できる。
- ・病弱者の心理的特性について説明できる。
- ・心理的特性を病弱教育の中の全体活動と自立的活動への展開の視点を習得する。
- ・特別支援学校（病弱校）の現状を把握して説明できる

#### 内容

1	病弱児の実態の把握 1（病弱校の実態、認知、言語の実態）
2	病弱児の実態の把握 2（心理的不安、対人関係）
3	病弱教育の目的・目標とその意義
4	病弱教育の歴史的変遷と現状における課題
5	特別支援教育における病弱児教育とその課題（他の種別との関係）
6	病弱教育の教育課程
7	病弱者の心理的面の指導
8	病弱者の生理について：小児の発達
9	病弱者の病理について：実態把握
10	病弱者の病理について：評価、検査
11	病弱者の病理について：薬物療法
12	病弱者の指導上の配慮
13	病弱者の自立活動のねらい
14	病弱者の自立的活動の展開
15	まとめ

#### 評価

学修目標に関するレポート（40点）学修目標に関するペーパー-テスト（40点）、通常の授業態度（20点）により、評価を行い、60点以上を合格とします。

合格点に満たなかった場合は「再試験」を行います。

## 授業外学習

【事前予習】新聞、TV等で小児の医療に関する内容があったら、ピックアップしておく。

【事後学修】講義で配布された資料はファイルに整理し、振り返る中で疑問に思ったことは書き止めて  
次回の授業で質問する。さらに興味ある内容は図書館で調べて、講義内容を深める。

講義終了後2月、3月の間に東京にある病弱校＝久留米特別支援学校の参観を希望者に行う。

## 教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

### 推薦書

フィリア：全国特別支援学校長会編著、ジアース教育新社発行

病気の子どものガイドブック：全国特別支援学校長会編著、ジアース教育新社発行

特別支援教育基礎論：大南英明、緒方明子、吉田昌義 放送大学教育振興会発行

参考書等 適宜、資料を配布します。また、視聴覚教材を取り入れます。

科目名	知的障害教育課程論		
担当教員名	岩井 雄一		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部（J）-教職課程		
学 年	2	ク ラ ス	
開 講 期	後期	必修・選択の別	必修*
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	特別支援学校教諭一種免許状		

#### ねらい（ 科目の性格 科目の概要 学修目標 ）

知的障害特別支援学校の教育課程の構造や知的障害の教科、教科等を合わせた指導、個別の指導計画や個別の教育支援計画の作成について、理解をさせる。

既習の知的障害教育概論の内容を踏まえ、専門的な事項について深めることを目的とする。また、知的障害児の教育課程を編成する上で重要な知的障害児の教科、教科等を合わせた指導について指導する。さらに、高等部における職業教育の在り方や進路指導、これらを支える個別の指導計画や個別の教育支援計画について、実際の特別支援学校の事例等を交えて講義を行う。

知的障害の児童生徒及び教育課程の特徴について理解し、特別支援学校教員としての基本的事項を身に付けること。

#### 内容

第1回：知的障害教育の対象及び専門性

第2回：知的障害教育の教育課程の基礎・基本

第3回：知的障害教育の教育課程 ・知的障害教育の各教科と領域、指導の形態

第4回：知的障害教育の教育課程 ・各教科等を合わせた指導(遊びの指導、生活単元学習等)

第5回：知的障害教育の教育課程 ・各教科等を合わせた指導(作業学習等)

第6回：障害特性に応じた教育、自閉症の教育課程

第7回：アセスメントと個別の指導計画

第8回：個に応じた指導と教材の開発・活用

第9回：高等部における職業教育とインターンシップ

第10回：高等特別支援学校と教育課程の類型化

第11回：個別の教育支援計画の作成と関係機関との連携

第12回：交流及び共同学習の実際

第13回：特別支援教育コーディネーターと特別支援学校のセンター的機能

第14回：障害種を超えた特別支援学校の現状と課題

第15回：知的障害教育の今後の展望

#### 評価

定期試験(60%)、小テスト・レポートの提出(30%)及び授業に対する意欲・関心・態度等(10%)とし、60点以上を合格とする。

#### 授業外学習

【事前予習】シラバスを参照し、当該箇所を知的障害教育概論の教科書により予習し、疑問点等を整理しておくこと

【事後学修】配布資料を参考に授業内容を整理し、出された課題についてまとめておくこと。

#### 教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

教科書は使用しない。特別支援教育基礎論(放送大学出版)は、参考書として推薦する。

講義は、パワーポイント等を用い、必要な資料はその都度配布する。適宜、DVD等の視聴覚教材を活用する。

科目名	肢体不自由教育課程論		
担当教員名	吉川 知夫		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部（J）-教職課程		
学 年	3	ク ラ ス	
開 講 期	前期	必修・選択の別	必修*
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	特別支援学校教諭一種免許状		

#### ねらい（ 科目の性格 科目の概要 学修目標）

「肢体不自由教育概論」で学んだ内容をベースに、さらに肢体不自由教育に関する専門的事項を学ぶ。

本授業では、「自立活動」の指導内容を中心に講述する。

学修の目標は、1)肢体不自由教育における教育課程と自立活動の意義について理解すること、2)自立活動の指導内容と具体的な対応について理解すること、3)肢体不自由教育における授業研究の方法について理解することの3点である。

内容	
1	教育課程の編成と自立活動の意義
2	障害のとらえ方と自立活動
3	健康の保持
4	摂食指導 1
5	摂食指導 2
6	心理的な安定
7	人間関係の形成
8	身体の動き 1
9	身体の動き 2
10	コミュニケーション 1
11	コミュニケーション 2
12	自立活動の指導計画の作成と内容の取扱い
13	肢体不自由教育における授業研究 1
14	肢体不自由教育における授業研究 2
15	まとめ

#### 評価

学修目標に関するレポート（30点）、最終試験（30点）、毎回のリアクションペーパー（20点）、授業時の参加態度（20点）を加味して総合的に評価する。60点以上を合格とする。

#### 授業外学習

【事前予習】授業範囲のテキストを読んでおくこと。

【事後学修】授業で学習した内容の具体的な指導について調べ、理解を深めること。

#### 教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【テキスト】「特別支援学校学習指導要領解説自立活動編（幼稚部・小学部・中学部・高等部）」文部科学省，2009，海文堂出版株式会社，210円

【その他】必要に応じて授業で推薦する。

科目名	病弱教育課程論		
担当教員名	崎山 千尋		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部（J）-教職課程		
学 年	3	ク ラ ス	
開 講 期	前期	必修・選択の別	必修*
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	特別支援学校教諭一種免許状		

ねらい（ 科目の性格 科目の概要 学修目標）

科目の性格

本科目は特別支援教育における病弱者（身体虚弱者を含む）に関する教育領域の科目である。

ここでは、病弱教育における教育課程について学び、他の講義での履修内容とあわせて、病弱児に対する教育的支援について理解を深める。

科目の概要

病弱教育における教育課程について、編成における基本的な考え方とその手順、内容及び配慮事項等について理解する。また教育課程の実施にあたって必要な、個々の病状や教育環境等に応じた個別の指導計画の作成、配慮すべき点や教材・教具の創意・工夫などについて理解する。

学修目標（＝到達目標）

病弱教育における教育課程の内容、及び指導計画作成の手順や配慮事項等について理解する。

病状や活動制限等に応じた学習活動の設定や、教材・教具の創意・工夫等の必要性を理解する。

個々の実態に応じた自立活動の目標設定と内容の選定、指導方法等について理解する。

内容	
1	病弱教育について
2	病弱教育の現状
3	病弱教育における教育課程編成（1）
4	病弱教育における教育課程編成（2）
5	個別の指導計画の作成（1）
6	個別の指導計画の作成（2）
7	病弱教育における教科等の指導（1）
8	病弱教育における教科等の指導（2）
9	病弱教育における自立活動（1）
10	病弱教育における自立活動（2）
11	情報機器等の活用
12	重複障害を有する児童生徒の教育課程
13	医療機関等、関係諸機関との連携
14	教育課程及び個別の指導計画の評価と改善
15	まとめ

## 評価

筆記試験 70% 学修目標に関するレポート 30% とし、総合評価 60 点以上を合格とする。

合格点に満たなかった場合は再試験を行う。

## 授業外学習

【事前予習】特別支援学校と小・中学校の学習指導要領について、総則、自立活動の部分を読んでおいてください。

【事後学修】授業で配布したプリントと説明を再度確認してください。

## 教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【教科書】授業においてプリント配布

【推薦書】

【参考図書】

科目名	知的障害教育概論		
担当教員名	岩井 雄一、阿子島 茂美		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部（J）-教職課程		
学 年	2	ク ラ ス	
開 講 期	前期	必修・選択の別	選必
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	特別支援学校教諭一種免許状		

#### ねらい（ 科目の性格 科目の概要 学修目標 ）

- 知的障害児・者（肢体不自由児・者 病弱児・者）の障害特徴と教育の目標、方法、内容について基礎的な知識を学ぶ。
- 個々の児童・生徒に合わせた発達支援の在り方の理解を深める。
- 知的障害（肢体不自由・病弱）の定義、原因、分類、アセスメント及び行動特徴を心理学側面から学ぶ。
- 現場の指導例、ケース検討を通して認知発達の様相と教育のもつ意味の理解をはかる。

#### 内容

- 第1回：知的障害（肢体不自由・病弱）の定義
- 第2回：知的障害（肢体不自由・病弱）の原因と分類
- 第3回：知的障害の特徴（1）認知
- 第4回：知的障害の特徴（2）記憶と学習
- 第5回：知的障害の特徴（3）運動
- 第6回：言語とコミュニケーション
- 第7回：アセスメントの基礎
- 第8回：発達検査、知能検査
- 第9回：行動・生活支援
- 第10回：個別の指導計画の作成と実施
- 第11回：知的障害（肢体不自由・病弱）の学校での支援体制
- 第12回：知的障害児（幼児）のケース検討と教育実践
- 第13回：知的障害児（学齢期）のケース検討と教育実践
- 第14回：障害者自立支援法・発達障害者支援法
- 第15回：自立と就労・地域との連携

#### 評価

試験による評価（70％）中間レポートによる評価（20％）平常の参加度の評価（10％）

#### 授業外学習

- 【事前予習】シラバスを参照し、当該箇所を教科書により予習し、疑問点等を整理しておくこと
- 【事後学修】教科書及び配布資料を参考に授業内容を整理しておくこと。

#### 教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

教科書（テキスト）として、「阿部芳久著『知的障害児の特別支援教育入門』日本文化科学社発行」を使用する。講義は、パワーポイント等を用い、必要な資料はその都度配布する。適宜、DVD等の視聴覚教材を活用する。参考となる資料として、「北田耕也著、『痴愚天国幻視行近藤益雄の生涯』、国土社」は、その他の参考資料は、適宜紹介する。

科目名	肢体不自由教育概論		
担当教員名	吉川 知夫		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部（J）-教職課程		
学 年	2	ク ラ ス	
開 講 期	前期	必修・選択の別	選必
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	特別支援学校教諭一種免許状		

#### ねらい（ 科目の性格 科目の概要 学修目標）

肢体不自由教育の現状と課題についての基礎的理解を深め、それを基に肢体不自由教育の今日的課題に対する解決の方策を主体的に追求する姿勢を育成することを目的とする。

本授業では、肢体不自由教育の歴史的変遷及び今日的課題について学び、主要な教育課題である教育内容・指導法について講述する。

学修の目標は、1)特別支援教育における肢体不自由教育の特徴を歴史的展開の中で把握すること、2)肢体不自由教育の現状と課題について理解すること、3)今日的課題を解決する方策を追求して今後の方向性を修得することの3点である。

内容	
1	肢体不自由教育の実際とその理解
2	肢体不自由教育の歴史的変遷と現状の課題
3	肢体不自由児の就学指導と進路指導
4	肢体不自由教育の教育課程
5	肢体不自由児に対する指導形態等の工夫
6	各教科等の指導の工夫
7	肢体不自由児の指導法 1
8	肢体不自由児の指導法 2
9	肢体不自由児の指導法 3
10	肢体不自由児の指導法 4
11	交流及び共同学習
12	肢体不自由児のキャリア教育
13	授業づくりの基本
14	学習指導案の作成方法
15	まとめ

#### 評価

学修目標に関するレポート（30点）、筆記試験（30点）、毎回のリアクションペーパー（20点）、通常の受講時の態度（20点）を加味して、総合的に評価する。60点以上を合格とする。

#### 授業外学習

【事前予習】参考図書等、関連する文献を読んでおくこと。

【事後学修】授業で配布された資料を参考に、毎回出題する課題について理解をすること。

#### 教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【教科書】特に指定しない。毎回授業時に資料を配付する。

【参考図書】「肢体不自由教育の基本とその展開」日本肢体不自由教育研究会監修 慶應義塾大学出版会

【その他】必要に応じて授業で推薦する。

科目名	<b>病弱教育概論</b>		
担当教員名	崎山 千尋		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部（J）-教職課程		
学 年	2	ク ラ ス	
開 講 期	後期	必修・選択の別	選必
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	特別支援学校教諭一種免許状		

ねらい（ 科目の性格 科目の概要 学修目標）

科目の性格

本科目は特別支援教育における病弱者（身体虚弱者を含む）に関する教育領域の科目である。  
ここでは、病弱教育に関する基本的な事項について学び、次年度、病弱教育課程論を学修する。

科目の概要

初めに病弱教育の歴史を概観する。

その後、病弱教育の対象とされる子どもの実態や病弱教育の現状について把握した上で、教育上の配慮事項、病弱教育の意義、病弱教育に携わる教師の役割等について学ぶ。

学修目標（＝到達目標）

- 病弱教育の対象とされる子どもや特別支援学校等に関する現状を理解する。
- 病気の子どもの実態と病弱教育における配慮事項について理解する。
- 病弱教育の意義と、病弱教育に携わる教師の役割について理解する。

内容	
1	病弱教育の歴史（１）
2	病弱教育の歴史（２）
3	病気の子ども（１）
4	病気の子ども（２）
5	病弱教育の現状（１）
6	病弱教育の現状（２）
7	本県の病弱教育（１）
8	本県の病弱教育（２）
9	病弱・身体虚弱児に応じた教育課程編成
10	病弱教育における配慮事項
11	病院等、関係諸機関との連携
12	通常学級における病気の子どもへの支援
13	病弱教育の意義
14	病弱教育に携わる教師
15	まとめ

評価

筆記試験 70% 学修目標に関するレポート 30%とし、総合評価60点以上を合格とする。

合格点に満たなかった場合は再試験を行う。

#### 授業外学習

【事前予習】病弱児、病弱教育について知っていること、わからないことを整理し、各時間または全体をとおして学びたいことを考えてみてください。

【事後学修】授業で配布したプリントや説明内容を再度確認して理解を深めてください。不明な点は質問を。

#### 教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【教科書】授業においてプリントを配布する。

【推薦書】

【参考図書】

科目名	聴覚障害教育概論		
担当教員名	大鹿 綾、濱田 豊彦		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部（J）-教職課程		
学 年	3	ク ラ ス	
開 講 期	後期	必修・選択の別	必修*
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	特別支援学校教諭一種免許状		

ねらい（ 科目の性格 科目の概要 学修目標 ）

聴覚障害児の教育制度や指導法の基本を知ると共に、聴覚の生理や障害の原因について知識を得る。また、聴覚障害が発達に及ぼす影響を知り、障害特性に応じた教育について知見を得ることを目的とする。

内容	
1	聴覚障害児のための学校制度
2	聴覚障害児教育の歴史
3	聴覚障害が発達に及ぼす影響 : コミュニケーション・社会性
4	聴覚障害が発達に及ぼす影響 : 言語獲得
5	聴覚障害児の言語指導
6	乳幼児期からの指導と障害受容
7	聾文化と手話
8	耳の仕組み
9	きこえないとは
10	聴覚障害の種類
11	補聴器に出来ること、出来ないこと
12	人工内耳とは
13	聴力検査
14	生活の中でのバリア
15	まとめ

## 評価

試験による（75%）

授業中の参加姿勢（25%）

## 授業外学習

【事前予習】

【事後学修】

## 教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【教科書】

【推薦書】

【参考図書】

科目名	重複障害教育概論		
担当教員名	吉川 知夫		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部（J）-教職課程		
学 年	3	ク ラ ス	
開 講 期	後期	必修・選択の別	必修*
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	特別支援学校教諭一種免許状		

#### ねらい（ 科目の性格 科目の概要 学修目標 ）

重複障害，重度・重複障害教育に関して，その概念，障害実態，教育の現状や課題等について理解を深めることを目的とする。

本授業では，重複障害者の教育課程編成，重複障害（視覚障害＋聴覚障害，知的障害＋肢体不自由），重度・重複障害児の理解と指導法，指導計画の作成について講述する。

学修の目標は，1)重複障害及び重度・重複障害の概念，教育課程の取扱い，教育の現状と課題について理解すること，2)重複障害児及び重度・重複障害児の理解と指導のポイントについて理解すること，3)指導計画作成の流れを理解することの3点である。

#### 内容

1	重複障害，重度・重複障害の概念と教育の現状
2	重複障害教育の課題
3	重複障害者等に関する教育課程の取扱い
4	個別の教育支援計画と進路指導
5	個別の指導計画作成と評価
6	重複障害児の実態把握の観点
7	重複障害児（視覚障害＋聴覚障害）の指導 1
8	重複障害児（視覚障害＋聴覚障害）の指導 2
9	重複障害児（知的障害＋肢体不自由）の指導 1
10	重複障害児（知的障害＋肢体不自由）の指導 2
11	重複障害児（知的障害＋肢体不自由）の指導 3
12	重度・重複障害児の発達特性
13	重複障害児教育の教材・教具，支援機器
14	重度・重複障害児の生涯に渡る包括的支援
15	まとめ

#### 評価

学修目標に関するレポート（30点），筆記試験（30点），毎回のリアクションペーパー（20点），通常の受講時の態度（20点）を加味して総合的に評価する。60点以上を合格とする。

#### 授業外学習

【事前予習】各障害の特徴について理解をしておくこと。

【事後学修】授業時に出題する課題について調べ，理解を深めること。

#### 教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【教科書】特に指定しない。

【その他】必要に応じて授業で推薦する。授業時に関係する資料を配付する。

科目名	<b>教育実習</b>		
担当教員名	阿子島 茂美、岩井 雄一、吉川 知夫		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部（J）-教職課程		
学 年	4	ク ラ ス	
開 講 期	通年	必修・選択の別	必修*
授 業 形 態		単 位 数	3
資 格 関 係	特別支援学校教諭一種免許状		

#### ねらい（ 科目の性格 科目の概要 学修目標 ）

教科教育法や教職関連科目等によって習得してきた教職に関する知識・理論・方法論を踏まえた上で、実際に教育実習を行うに当たって具体的な事前、中間、事後の指導を行う。この指導により参観実習及び教壇実習の成果を最大限に引き出し、教員を目指すものとしての責任を自覚させ、実際の授業運営能力を向上させることをねらいとする。

なお、本科目は、教育職員免許法に定める特別支援学校教員免許を取得するための「教育実習」を含む3単位に相当する。

#### 内容

- 1、事前指導（8時限相当の時間を配当する）
  - （1）教育実習オリエンテーション
  - （2）実習時における勤務、サービスの心得
  - （3）実習記録の作成法
  - （4）授業の構成と指導案の作成
  - （5）実習校の訪問
- 2、教育実習協力校による2週間の教育実習
- 3、中間指導（4時限相当の時間を配当する）
  - （1）実習時における課題の把握
  - （2）実習日誌の中間提出
  - （3）研究授業及び実習についての指導
- 4、事後指導（3時限相当の時間を配当する）
  - （1）教育実習の総括的反省と今後の課題
  - （2）実習校の訪問

#### 評価

実習校からの評価を参考に100点満点で評定する。60点以上を合格とする。

#### 授業外学習

- 【事前予習】資料に基づく、教育実習に向けた事前の心構え、教師としての身に付けておくべきこと等を整理しておくこと。
- 【事後学修】教育実習に向けて、各自の課題を整理しておくこと。

#### 教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

授業の際に指示する。

科目名	特別支援教育概論		
担当教員名	岩井 雄一、吉川 知夫、阿子島 茂美		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部（J）-教職課程		
学 年	1	ク ラ ス	
開 講 期	前期	必修・選択の別	必修* , 選択
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	特別支援学校教諭一種免許状		

ねらい（ 科目の性格 科目の概要 学修目標 ）

障害児教育が「特殊教育」から「特別支援教育」へ制度的転換する中で、従前の特殊教育制度の枠を超えて、地域の通常の学校（学級）においても、特別な支援を必要とする児童生徒への対応が求められています。本科目は、特別支援教育に関する科目の第一欄の特殊教育の基礎理論に関する科目に該当します。

本講義では、特別支援教育の歴史、法制度を概観するとともに、特別な教育的ニーズのある児童生徒に関して、その障害の特性と支援方法を論じ、関係機関との連携の在り方を学びます。

学修目標は、 特別支援教育の基礎を理解すること、 特別支援教育が必要な子どもの障害と教育的支援方法を理解すること、 関係機関との連携について理解すること、の3点です。

内容	
1	特別支援教育とは
2	障害児教育の歴史と発展
3	特別支援教育の法制度 学校教育法を中心に
4	特別支援教育体制の現状
5	特別支援教育における教育課程の編成
6	障害の理解と教育的支援1) 視覚障害・聴覚・言語障害
7	障害の理解と教育的支援2) 知的障害
8	障害の理解と教育的支援3) 肢体不自由・病虚弱
9	障害の理解と教育的支援4) 情緒障害・自閉症・高機能自閉症（アスペルガー症候群を含む）
10	障害の理解と教育的支援5) LD（学習障害）・AD/HD（注意欠陥／多動性障害）
11	特別支援教育の展開1) 小・中学校における校内支援と連携システム
12	特別支援教育の展開2) 特別支援学校の地域支援と連携システム
13	特別支援教育における関係機関の連携1) 保育所・幼稚園の活用とその利用
14	特別支援教育における関係機関の連携2) 医療・福祉機関の役割とその活用
15	まとめ

評価

試験による評価（70点）と中間レポートによる評価（20点）、平常の授業態度の評価（10点）により総合的に行います。合格点を60点とし、合格点に満たなかった場合は、再試験を行います。

授業外学習

【事前予習】シラバスを参考に事前に参考書等により内容を把握し、疑問点を整理しておくこと。

【事後学修】配布された資料により各自で振り返りを行い、内容を整理しておくこと。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【テキスト（教科書）】使用しません。

【参考図書】「特別支援教育基礎論」吉田昌義、鳥居深雪編著、放送大学出版 「特別支援教育の基礎・基本」国立特別支援教育総合研究所著作、ジアース教育新社発行

【その他】必要に応じて随時紹介します。

科目名	特別支援教育指導法		
担当教員名	阿子島 茂美		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部 ( J ) - 教職課程		
学 年	2	ク ラ ス	1Aクラス
開 講 期	前期	必修・選択の別	必修*, 選択
授 業 形 態		単 位 数	1
資 格 関 係	特別支援学校教諭一種免許状		

#### ねらい ( 科目の性格 科目の概要 学修目標 )

LD・AD/HD・言語障害・情緒障害の障害特性及び心理学的特徴について基礎的な知識を学び、個々の教育的ニーズに応えることができる。

実際の授業に生かせるようなアセスメント、指導計画や指導案の作成について実践的に授業を進める。また、実際の指導例、グループによる調査、報告、ロールプレイを通して実際の・実践的に学ぶ。

児童・生徒に合わせた指導法の理解を深める。アセスメントに基づき、指導案・指導形態・教材等の作成などができる。

#### 内容

第1回：発達障害（言語障害・情緒障害・LD・AD/HD等）の理解

第2回：LDの理解

第3回：AD/HDの理解

第4回：高機能自閉症等の理解

第5回：アセスメントの基礎

第6回：心理検査法 <WISC K-ABC>

第7回：学力のアセスメント

第8回：読み・書きの指導

第9回：算数の指導

第10回：言語・コミュニケーションの指導

第11回：個別の指導計画の作成と実施

第12回：学校における支援体制：通常学級における支援

第13回：学校における支援体制：コーディネーターの役割

第14回：社会的自立・就労の問題

第15回：保護者との連携・地域との連携

#### 評価

試験による評価（70%）中間レポートによる評価（20%）平常の参加度の評価（10%）とし、総合評価60点以上を合格とする。

#### 授業外学習

【事前予習】各障害の定義・特徴・支援の方法を調べる。

【事後学修】講義の内容をボランティアなどの体験を通して、現場で役に立つ視点でまとめる。

#### 教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

テキスト

使用しません。

参考書・参考資料等

特別支援教育の理論と実践 概論・アセスメント 上野一彦 他 金剛出版

特別支援教育の理論と実践 指導 竹田恵契一 他 金剛出版

「自閉症ガイドブック シリーズ1 乳幼児編」社団法人 日本自閉症協会

「自閉症ガイドブック シリーズ2 学齢期編」社団法人 日本自閉症協会

「自閉症ガイドブック シリーズ3 思春期編」社団法人 日本自閉症協会

科目名	特別支援教育指導法		
担当教員名	阿子島 茂美		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部（J）-教職課程		
学 年	2	ク ラ ス	1Bクラス
開 講 期	前期	必修・選択の別	必修* ,選択
授 業 形 態		単 位 数	1
資 格 関 係	特別支援学校教諭一種免許状		

#### ねらい（ 科目の性格 科目の概要 学修目標）

LD・AD/HD・言語障害・情緒障害の障害特性及び心理学的特徴について基礎的な知識を学び、個々の教育的ニーズに応えることができる。

実際の授業に生かせるようなアセスメント、指導計画や指導案の作成について実践的に授業を進める。また、実際の指導例、グループによる調査、報告、ロールプレイを通して実際の・実践的に学ぶ。

児童・生徒に合わせた指導法の理解を深める。アセスメントに基づき、指導案・指導形態・教材等の作成などができる。

#### 内容

第1回：発達障害（言語障害・情緒障害・LD・AD/HD等）の理解

第2回：LDの理解

第3回：AD/HDの理解

第4回：高機能自閉症等の理解

第5回：アセスメントの基礎

第6回：心理検査法 <WISC K-ABC>

第7回：学力のアセスメント

第8回：読み・書きの指導

第9回：算数の指導

第10回：言語・コミュニケーションの指導

第11回：個別の指導計画の作成と実施

第12回：学校における支援体制：通常学級における支援

第13回：学校における支援体制：コーディネーターの役割

第14回：社会的自立・就労の問題

第15回：保護者との連携・地域との連携

#### 評価

試験による評価（70%）中間レポートによる評価（20%）平常の参加度の評価（10%）とし、総合評価60点以上を合格とする。

#### 授業外学習

【事前予習】各障害の定義・特徴・支援の方法を調べる。

【事後学修】講義の内容をボランティアなどの体験を通して、現場で役に立つ視点でまとめる。

#### 教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

テキスト

使用しません。

参考書・参考資料等

特別支援教育の理論と実践 概論・アセスメント 上野一彦 他 金剛出版

特別支援教育の理論と実践 指導 竹田契一 他 金剛出版

「自閉症ガイドブック シリーズ1 乳幼児編」社団法人 日本自閉症協会

「自閉症ガイドブック シリーズ2 学齢期編」社団法人 日本自閉症協会

「自閉症ガイドブック シリーズ3 思春期編」社団法人 日本自閉症協会

科目名	教育心理学		
担当教員名	綿井 雅康		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部（J）-教職課程		
学 年	1	ク ラ ス	
開 講 期	後期	必修・選択の別	選択, 必修*
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	養護教諭一種免許状 / 高等学校教諭一種免許状（保健） / 中学校教諭一種免許状（保健）		

## ねらい（ 科目の性格 科目の概要 学修目標）

### 科目の性格

人間発達心理学科の専門科目として、初学者を対象として、学校教育に活用しうる心理学的知識の習得を目指す科目である。

教職に関する科目のうち、教育の基礎理論についての理解を深める科目である。

### 科目の概要

教職志望の初学者を主な対象として、学習の過程、および児童生徒の心身の発達について、教育心理学的な知見を学ぶとともに、学校教育現場における具体的な問題についての理解を深める。障害をもった子どもたちの発達、および特別な支援のあり方についても取り扱う。児童・生徒であった、そして学生である受講生に対して、「教える」、「学ばせる」、「学びを支援する」という「教師の立場」から、教育・指導や学習活動を客観的かつ分析的な視点からとらえようとする態度を育むことを目指す。

### 学修目標

教育心理学的な考え方や知識に基づいて、学校教育における学習活動の客観的に理解することができる。さらに、よりよい学習活動を展開するための工夫や特別な支援を必要とする子どもたちの学習活動のあり方について、心理学的知見に基づいて具体的に考えることができるようになる。

## 内容

1. 教育心理学と学校教育
2. 学習の動機づけ(1) 動機づけのメカニズム、内的欲求
3. 学習の動機づけ(2) 内発的動機づけと外発的動機づけ
4. 学習の基礎理論
5. 教授学習における学習理論
6. 協同学習の理論と実践
7. 学級の心理学
8. 学習の個性化、個別的ニーズへの対応
9. 教育評価
10. 発達(1) 発達の一般的特徴、発達を規定する要因
11. 発達(2) 発達段階と発達課題
12. 学習者の特性理解(1) 知的能力の発達と測定
13. 学習者の特性理解(2) パーソナリティの理論と測定
14. 学習者の特性理解(3) 障がいに応じた特別支援教育
15. 学習のまとめと確認

## 評価

筆記試験：90点，授業内課題10点の計100点で、60点以上を合格とする。

## 授業外学習

【事前予習】学習予定の章を読んでおくこと

【事後学修】授業で使用・記入したプリントをもとに、学習内容をノートにまとめ直す

## 教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

教職ガイダンス等で指示します。